

〔第四百十三條〕

○刑法第四百十三條後段(其他水利ヲ妨害シタル者)ノ法意ハ前段ニ明記セル堤防決潰毀壞ノ外其手段方法ノ何ナルヲ問ハス總テ水利ヲ妨害スルモノヲ包括ス本案早魃ニ際シ被告等ノ居村ヲ通過シテ下流各村ノ田地ニ灌溉スル水路ノ幾部ヲ堰止メ汲水器ノ附著セル水車ヲ利用シテ自村ノ田地ニ注水シ下流各村ノ水利ヲ妨害シタルノ事實ヲ認メ該法條ヲ適用シテ處斷シタルハ相當ナリ

○刑法第四百十三條ハ其權利ノ有無如何ヲ問ハス唯其所爲アルノミヲ以テ直ニ罪トシ罰スヘキ律意ニ非ス

○他人カ舊慣ニ背キ擅ニ施シタル水利ニ關スル工事ヲ破壞スルモ刑法第四百十三條ニ謂フ所ノ水利妨害ノ罪ヲ構成セス

○樋管放水口ノ栓ヲ拔キ水ヲ他ノ水路ニ放流セシメ水量ヲ減少セシメタル所爲ハ現實水利ヲ妨害シタルモノトス

○共用權ヲ有スル水ナリト雖モ之ヲ引用スルノ權ナキニ拘ハラズ不法ノ方法ヲ以テ之ヲ引用シ他ノ水利ヲ妨害シタル所爲ハ水利妨害罪ヲ構成ス

○排水路ニ設置セル水閘ヲ毀壞スルニ於テハ水利ヲ妨害スルコトハ普通ノ結果ナリトス從テ特別ナル事由ノ存在セサル限ハ此行爲ヲ以テ水利ヲ妨害スルノ意思ナシト云フヲ得ス

○水利妨害罪ヲ成スニハ他人ノ水利ヲ妨害ト爲ルヘキ所爲カ水利ニ關スル他人ノ權利ヲ侵害スルコトヲ要ス

(同前) 水利妨害罪ノ成立ニハ水ノ使用ニ付キ他人ノ有スル權利ヲ妨害スルノ事實アルヲ必要トス

從テ他人カ權利ナクシテ擅ニ水ヲ使用スルニ際リ自己ノ權利ヲ行使シタル結果其使用ヲ妨クルコトアルモ該犯罪ヲ構成スルモノニ非ス

○水利妨害罪ノ成立ニハ他人ノ便益ヲ損シ又ハ自己ノ便益ト爲ルヘキ妨害行爲ノ結果ニ對スル犯人ノ豫見ト其豫見セシ結果ニ對スル希望アルノミヲ以テ足レリトシ犯人ヲシテ妨害行爲ニ決意セシメタル動機如何ハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

○水利妨害ト爲ルヘキ行爲カ權利ノ實行ニ過キサルトキ又ハ行爲者ニ於テ權利ノ實行ナリト信スヘキ正當ノ理由アルトキハ刑事上ノ責任ヲ生セス

○堤防ヲ決潰シタル犯人ニ對シ刑法第四百十三條ヲ適用スルニハ其行爲カ水利ヲ妨害スヘキ性質ノモノナルコトヲ必要トスルモ現ニ水利ヲ妨害シタルヤ否ヤハ犯罪ノ成立ニ關係ナシ

第九節 船舶ヲ覆沒スル罪

〔第四百十五條〕

○船舶覆沒ノ罪(刑法第四百十五條)ハ河海ニ於テ船舶ヲ覆沒シタルトキ成立ス而シテ航海中ノ船舶ニ限ルモノニ非ス又河川ノ大小深淺ニ依リテ區別ヲ爲スヘキモノニ非ス

〔第四百十六條〕

○刑法第四百十六條ノ船舶覆沒罪ハ財産權ヲ侵害スル犯罪ニシテ他人所有ノ船舶ヲ故意ニ覆沒スルニ依リテ成立ス故ニ加害者カ其船頭タルト否トハ犯罪ノ成立ニ何等ノ影響ヲ及ボサス

第十節 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

〔第四百十七條〕

○所有者タル賃貸入カ其賃貸シタル家屋ヲ毀壞スルモ賃借人ニ賃借權アリト云フヲ以テ賃貸人

舊刑法 身體財産ニ對スル重罪輕罪 財産ニ對スル罪 家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

三七	三五	三五	三〇	二八	二七
	一一	四	七		
四一九	一〇一	七	七	二二	一六七

三二	三七	三七	三七	三四	三七
一一				五	
三一	一八四九	一八四九	一八四九	二七	一八二七

舊刑法 身體財產ニ對スル重罪輕罪 財產ニ對スル罪
家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

- ハ入ノ家屋ヲ毀壞シタル罪アリト云フヲ得ス
- 所有名義ノ如何ヲ問ハス事實上他人ノ所有ニ屬スル家屋ヲ自己ノ所有ナリト主張シ改築ヲ名トシテ取毀チタル所爲ハ家屋毀壞罪ヲ構成ス
- 建造物ヲ破壞シ尙ホ器具ヲ毀棄シタル場合ニ於テ特ニ器具毀棄ノ意思アリタルトキハ建造物毀棄及ヒ器物毀棄ノ二罪ヲ構成ス
- 家屋ノ表入口敷居ノ上ニ建テアル雨戸ハ取外シ得ルモノト否トヲ問ハス家屋ノ一部ヲ成スモノトス從テ之ヲ毀壞シタル所爲ハ家屋毀壞罪(刑法第四百十七條)ヲ構成ス
- 建造物毀壞罪(舊刑法第四百十七條)又ハ損壞罪(刑法第二百六十條)ノ構成ニハ建造物ノ全部若クハ其一部ヲ損壞スルヲ以テ足り必スシモ其損壞ノ爲メニ建造物ノ用方ヲ全然不能ナラシムルヲ要セス又其損壞ノ部分ハ建造物ノ主要ナル構成部分タルコトヲ要セサルモノトス

(反對)

建造物毀壞罪(刑法第四百十七條)ハ建造物ノ主要ナル構成部分ヲ毀壞シ其建造物ノ完全ナル用方ヲ欠クニ至ラシメタルトキニ於テ既遂罪ヲ構成ス從テ必スシモ建造物ノ形體ヲ滅失セシメタルコトヲ要セス

『第四百二十條』

○刑法第四百二十條ニ所謂經界ヲ標示スル物件ニハ畦畔ヲ包含ス

(第四百二十條)

『第四百二十一條』

- 他人ノ帳簿ヲ抹消シテ其效用ヲ失ハシメタル所爲ハ器物毀棄罪ヲ以テ論ス
- 羽二重練ノ器具借用ト詐稱シテ羽二重練場ニ至リ劇劑ヲ其練釜ニ投入シ依テ釜中ノ羽二重練汚損シ時價ヲ失ハシメタル所爲ハ營業ヲ妨害シタル罪ニ非スシテ器物毀棄罪ナリ

二四	二	八三
三二	五	三九
三五	二	四六
三五	三	三七
四三		六五七
三五	九	二二四
二九	九	一〇七
二九	二	九六
二九		四

(第四百二十四條)

- 電話線ヲ切斷シテ不通ニ至ラシメタル所爲ハ器物毀棄罪(刑法第四百二十一條)ヲ構成スルモ刑法第六十四條ヲ適用スヘキモノニ非ス
- 建造物ヲ破壞シ尙ホ器具ヲ毀棄シタル場合ニ於テ特ニ器具毀棄ノ意思アリタルトキハ建造物毀棄及ヒ器物毀棄ノ二罪ヲ構成ス
- 官廳力作製シタル文書ト雖モ他ノ官廳ノ發布ニ係ル法令ヲ謄寫セルモノハ官文書ニ非スシテ刑法第四百二十一條ニ所謂器物ナリトス
- 舊刑法第四百二十一條及ヒ刑法第二百六十一條ニ所謂毀棄若クハ損壞トハ實ニ物質的ニ器物其物ノ形體ヲ變更又ハ滅盡セシムル場合ノミナラス事實上若クハ感情上其物ヲシテ再ヒ本來ノ目的ノ用ニ供シ能ハサル狀態ニ至ラシメタル場合ヲモ包含スルモノトス

『第四百二十四條』

- 地所買戻契約ノ證書ヲ毀棄シタルモ買戻ノ權能ヲ滅盡シタルモノニ非ス
- 保證人トシテ證書ニ連署シタル者カ其義務ヲ免レンカ爲メ債權者ヨリ證書ノ交付ヲ受ケ擅ニ保證人ノ文字ヲ立會人ト變更シ之ヲ返付シタル所爲ハ證書ノ變造行使罪ニ非スシテ刑法第四百二十四條ニ所謂人ノ權利義務ニ關スル證書毀棄ノ罪ヲ構成スルモノトス
- 證書毀棄ノ罪ハ權利義務ニ關スル證書ノ所有者又ハ所持者ヲシテ其權利義務ニ關スル證據ノ全部若クハ一部ヲ失却セシムルノ目的ヲ以テ之ヲ毀損シ其全部又ハ一部ヲ利用シ得サルニ至ラシムル行爲ナリトス

(同主旨)

證書毀棄罪ハ權利義務ニ關スル證書ノ所有者又ハ所持者ヲシテ其權利義務ニ關スル證據ノ全部又ハ一部ヲ失ハシムル目的ヲ以テ有形的又ハ無形的ニ其全部又ハ一部ヲ利用シ能ハサ

舊刑法 身體財產ニ對スル重罪輕罪 財產ニ對スル罪
家屋物品ヲ毀壞シ及ヒ動植物ヲ害スル罪

三二	四	一一四
三五	二	四六
三九		一一八三
四二		四五二
二五	六	二五
三七		三六四
三九		一〇五九

第四編 違警罪

第四百二十七條

『第四百二十七條』

○刑法第四百二十七條第十二號ハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スルノ意思アルコトナク自ラ信シテ吉凶禍福ノ説示又ハ祈禱符咒ヲ爲シ之カ爲メニ人ニ惑ヲ生セシムヘキ恐アル行爲ヲ處罰スルノ法意ナリトス

第四百二十四條

『第四百二十四條』

○刑法第四百二十四條ハ人ヲ欺罔シテ財物ヲ騙取スルノ意思アルコトナク自ラ信シテ吉凶禍福ノ説示又ハ祈禱符咒ヲ爲シ之カ爲メニ人ニ惑ヲ生セシムヘキ恐アル行爲ヲ處罰スルノ法意ナリトス

刑事訴訟法

刑事訴訟法

第一編 總則

(第一條)

〔第一條〕

○被告人ハ公訴ノ主體ナリ

(第二條)

〔第二條〕

○法人ニ非サル集合體ト雖モ總會ノ決議ニ依リ訴訟委任ヲ爲スノ能力ヲ有ス

○誹毀ノ所爲ニ依リ名譽ヲ毀損セラレタル者ハ其名譽回復ノ方法ニ要スル費用ハ犯罪ニ因テ生シタル損害トシテ之ヲ請求スルノ權ヲ有ス而シテ加害者ハ當然其賠償ノ責ニ任スヘキモノトス

○他人ノ保管内ニ在ル物件ヲ奪取シタル場合ト雖モ其所有主ハ常ニ被害者ニシテ保管者ハ其責務ノ關係ニ由リ被害者ノ位地ニ立ツコトアリ

○假差押ノ金圓ハ被差押人ノ所有ニ屬ス而シテ執達吏カ其假差押ニ係ル金圓ヲ占有スルハ職務上之ヲ監守スルニ外ナラス從テ其監守中竊取ノ所爲アルトキハ所有者ニ對シ損害ヲ加ヘタルモノニシテ賠償ノ責任ヲ

刑事訴訟法 總則

七四七

二元	二元	二元	二元
八	三	二	三
三	二	四	三

負フヘキモノトス

○他人ヨリ委託セラレタル物品ヲ運搬スルニ當リ運搬人ノ選擇宜キヲ失シ爲メニ物品ヲ紛失シタルトキハ受託者ハ所有主ニ對シ賠償ノ責任ヲ負フヘキモノトス

○借主ノ故意若クハ過失ニ原因セサル借用物ノ喪失毀損ニ關スル賠償ノ責任ハ特約アルニ非サレハ借主ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノニ非ス

○不法ノ契約ハ法律ノ保護ヲ受クヘキモノニ非スト雖モ其契約ヲ假裝シテ之ヲ欺罔ノ手段ト爲シ金圓ヲ騙取シタル所爲ハ犯罪ナリ從テ之カ爲メニ生シタル損害ハ賠償ノ責アリ

○寺院ハ其住職ニ依テ代表セラルヘキモノニシテ信徒總代ハ之ヲ代表シテ訴訟ヲ爲スノ資格ナシ

○村長ニシテ徵收シタル縣稅ヲ竊取シタルトキハ村ハ之ヲ辨償スルノ義務アリ

○他人ノ地所ヲ冒認シテ抵當ニ差入レタル場合ニ於テ眞ノ所有者ヨリ提起スル抵當登記取消ノ訴ハ損害賠償ノ一部ニシテ贓物ノ還給ニ非ス

(互對)

被害者カ第三者ニ對シ抵當登記ノ取消ヲ請求スルハ加害者ノ犯罪行爲ニ因リ他ニ移轉シタル

地所ノ抵當權ヲ取戻スニ外ナラサレハ刑事訴訟法第二條ノ所謂犯罪ニ因リ生シタル贓物ノ返還ヲ請求スルモノト看做ササルヘカラス

私訴上告人カ登記取消ノ請求ハ贓物ノ還給損害ノ賠償ニ非サルヲ以テ私訴トシテ爲シ得ヘキ

モノニ非サルニ原院力カ之ヲ認可シタルハ違法ナリト論告スレトモ凡ソ犯罪ニ因リ失フタル不

動産ノ回復即チ其返還ヲ求メントスルニハ登記取消ノ請求ヲ爲スニ非サレハ得ヘカラス故ニ

冒認販賣セラレタル地所ノ回復ヲ謀ルカ爲メ公訴ニ附帶シ登記取消ノ私訴ヲ提起シタルハ不

法ニ非ス隨テ原院力カ之ヲ認可シタルハ至當ナリ

犯罪行爲ニ因リ登記ヲ得タル地所ニ對シ其取消ヲ請求スルハ刑事訴訟法第二條ニ所謂犯罪ニ

因リ生シタル贓物ノ返還ヲ請求スルト同一ナリトス

犯罪ニ基因スル登記取消ノ請求ハ刑事訴訟法第二條ニ所謂贓物ノ返還ヲ目的トスルモノタル

ニ外ナラス從テ私訴トシテ提起スルコトヲ得

登記ノ取消ハ不動産ヲ回復スルヲ目的トスルモノニシテ贓物返還ノ一方法ナリ

登記ノ取消ハ贓物返還ノ一方法ナリ

登記取消ノ請求ハ無効ノ抵當物件ヲ返還スル救濟方法ナリ

○民事原告人ノ檢事廷ニ出頭シタルハ任意ニ出ツルトキト雖モ其出頭ニ

シテ公訴被告人ノ犯罪行爲ニ基ク場合ナルトキハ因テ生シタル損害ハ

公訴被告人ニ於テ之ヲ賠償セサルヘカラス

○私訴權ハ被告人ノ死亡ニ因リテ消滅スルモノニ非ス從テ被害者ハ被告

人ノ死亡シタル場合ニ於テハ其相續人ニ係リ之ヲ行フコトヲ得

○民事原告人ノ檢事廷ニ出頭シタルハ任意ニ出ツルトキト雖モ其出頭ニシテ公訴被告人ノ犯罪行爲ニ基ク場合ナルトキハ因テ生シタル損害ハ公訴被告人ニ於テ之ヲ賠償セサルヘカラス	三三	三二
○私訴權ハ被告人ノ死亡ニ因リテ消滅スルモノニ非ス從テ被害者ハ被告人ノ死亡シタル場合ニ於テハ其相續人ニ係リ之ヲ行フコトヲ得	三三	三五

地所ノ抵當權ヲ取戻スニ外ナラサレハ刑事訴訟法第二條ノ所謂犯罪ニ因リ生シタル贓物ノ返還ヲ請求スルモノト看做ササルヘカラス	二七	二七
私訴上告人カ登記取消ノ請求ハ贓物ノ還給損害ノ賠償ニ非サルヲ以テ私訴トシテ爲シ得ヘキモノニ非サルニ原院力カ之ヲ認可シタルハ違法ナリト論告スレトモ凡ソ犯罪ニ因リ失フタル不動産ノ回復即チ其返還ヲ求メントスルニハ登記取消ノ請求ヲ爲スニ非サレハ得ヘカラス故ニ冒認販賣セラレタル地所ノ回復ヲ謀ルカ爲メ公訴ニ附帶シ登記取消ノ私訴ヲ提起シタルハ不法ニ非ス隨テ原院力カ之ヲ認可シタルハ至當ナリ	二七	二七
犯罪行爲ニ因リ登記ヲ得タル地所ニ對シ其取消ヲ請求スルハ刑事訴訟法第二條ニ所謂犯罪ニ因リ生シタル贓物ノ返還ヲ請求スルト同一ナリトス	二六	二六
犯罪ニ基因スル登記取消ノ請求ハ刑事訴訟法第二條ニ所謂贓物ノ返還ヲ目的トスルモノタルニ外ナラス從テ私訴トシテ提起スルコトヲ得	二九	二九
登記ノ取消ハ不動産ヲ回復スルヲ目的トスルモノニシテ贓物返還ノ一方法ナリ	三〇	三〇
登記ノ取消ハ贓物返還ノ一方法ナリ	三〇	三〇
登記取消ノ請求ハ無効ノ抵當物件ヲ返還スル救濟方法ナリ	三三	三三

○他人ヨリ委託セラレタル物品ヲ運搬スルニ當リ運搬人ノ選擇宜キヲ失シ爲メニ物品ヲ紛失シタルトキハ受託者ハ所有主ニ對シ賠償ノ責任ヲ負フヘキモノトス	二九	二九
○借主ノ故意若クハ過失ニ原因セサル借用物ノ喪失毀損ニ關スル賠償ノ責任ハ特約アルニ非サレハ借主ニ於テ之ヲ負擔スヘキモノニ非ス	三〇	三〇
○不法ノ契約ハ法律ノ保護ヲ受クヘキモノニ非スト雖モ其契約ヲ假裝シテ之ヲ欺罔ノ手段ト爲シ金圓ヲ騙取シタル所爲ハ犯罪ナリ從テ之カ爲メニ生シタル損害ハ賠償ノ責アリ	三三	三三
○寺院ハ其住職ニ依テ代表セラルヘキモノニシテ信徒總代ハ之ヲ代表シテ訴訟ヲ爲スノ資格ナシ	三三	三三
○村長ニシテ徵收シタル縣稅ヲ竊取シタルトキハ村ハ之ヲ辨償スルノ義務アリ	三三	三三
○他人ノ地所ヲ冒認シテ抵當ニ差入レタル場合ニ於テ眞ノ所有者ヨリ提起スル抵當登記取消ノ訴ハ損害賠償ノ一部ニシテ贓物ノ還給ニ非ス	三三	三三

- 誣告ノ爲メ刑事被告人ト爲リタル者カ辯護人ニ支拂ヒタル辯護料ハ誣告罪ニ因リテ生シタル損害ニ外ナラス(本條三年二二二頁參照)
- 誣告ノ爲メ第一審ニ於テ有罪ノ判決ヲ受ケ名譽ヲ毀損セラレタル場合ニ於テハ被誣告人ハ名譽回復ニ要スル費用ヲ請求スルコトヲ得
- 犯罪行爲ニ因リ侵奪セラレタル地所ノ轉得者ヲ以テ犯罪ニ起因スル損害ノ回復ヲ求ムル私訴ノ對手人ト爲スコトヲ得

(同主旨)

贓物犯人ノ手裡ニ存在セザルトキハ犯人ニ關セ直ニ其贓物ヲ受取リタル第三者ニ對シ返還ノ私訴ヲ提起スルコトヲ得

贓物轉讓シテ他人ノ手ニ在ルトキハ其現時ノ占有者ニ對シ被害者カ返還ヲ要求スルコトヲ得ルハ勿論ナルモ過去ノ占有者ニ對シテハ其要求ヲ爲スノ權利ヲ有セス何トナレハ被害者ト過去ノ占有者トノ間ニハ入權上ノ關係ナキノミナラス復タ物權上ノ關係ヲ有セザレハナリ

贓物返還ヲ請求スル現占有者ニ對シテ之ヲ爲スヘキモノトス

偽造證書ニ依リテ賣買セラレタル不動産贓物ナリ而シテ既ニ贓物タル以上ハ其取得者ノ誰ナルヲ問ハス現存スル所ヲ追蹤シテ其還給ヲ請求スルコトヲ得ヘキモノトス

甲者犯罪ニ因テ乙者メ不動産ヲ自己ノ所有名義ニ變更シ之ヲ丙者ニ賣渡シタリ此場合ニ於テ乙者ハ犯罪者タル甲者ヲ經由スルコトナク現所有者タル丙者ニ對シ直接ニ所有名義書換ノ請求ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

三〇	二九	二七	二六	三四	三三	三三
二	九	六		三	五	五
七九	一〇〇	三四六	一八	六五	八四	八四

- 登録税ノ收入ヲ終リタル登記印紙ト雖モ再ヒ之ヲ貼用シテ消印ヲ爲ササル以前ニ在リテハ依然額面ノ價值ヲ有ス從テ之ヲ竊取セラレタルトキハ同價額ノ損害ヲ受ケタルモノトス
- 裁判所カ保管スル物件ヲ竊取セラレタルトキハ裁判所ハ損害ノ賠償ヲ請求スルヲ當然トス而シテ此場合ニ於テ檢事ハ民事原告人ト爲ルヘキモノトス
- 後見人カ就職中親族會員ノ同意書ヲ偽造シ被後見人所有ノ不動産上ニ抵當權ヲ設定シタリトノ被告事件ニ附帶シ被後見人ヨリ抵當權者ニ對シ其登記取消ヲ請求スルハ即チ犯罪ニ因リテ生シタル損害賠償ノ請求ニ外ナラス
- 賣買契約不履行ノ場合ニ於ケル損害賠償額ヲ豫定シテ特約ヲ爲シタルニ犯罪ニ依リ其實買カ履行セラレサルヲ以テ此特約ニ基キ請求ヲ爲スハ犯罪ニ依リ生シタル損害ノ賠償ヲ求ムルモノニ外ナラス從テ私訴ノ範圍ヲ脱シタルモノニ非ス
- 父ノ殺害セラレタルニ依リ非常ノ悲哀ヲ感シ其害ヲ蒙ムルコトハ普通權利ノ侵害ニ比シ決シテ劣ル所ナキモノトス故ニ其悲哀ヲ慰藉スル爲メ加害者カ相當ノ賠償ヲ爲スヘキハ當然ニシテ民法第七百十一條ノ規

三四	三四	三五	三五
九	九	二	二
七四	七四	一七二	一七二

定モ亦此場合ニ該當ス從テ被害者ノ子カ私訴トシテ該慰藉料ヲ請求スルハ相當ナリトス

三五二 一八二

○甲乙二人共謀ノ上丙銀行ヨリ甲ニ委託セラレタル金圓ヲ騙取シタル場合ニ丙銀行ニ對シ甲ノ行為ニ依リ生スル損害ヲ賠償スヘキ契約ヲ爲シタル丁カ其損害ヲ賠償シタルトキハ丁ハ銀行ニ代位シ銀行ノ有シタル訴權ヲ行使スルコトヲ得從テ丁カ乙ニ對シ犯罪ニ因リテ生シタル損害ナリトシ私訴トシテ其賠償ヲ請求スルハ相當ナリ

三六 五三八

○刑法上被害者ト稱スヘキ者ハ犯罪ニ因リ私法上ノ權利ヲ侵害セラレ其賠償ノ請求ヲ爲シ得ヘキ地位ニ立ツモノヲ云フ而シテ證人カ偽證ヲ爲シタル場合ニ在テハ國家ノ公益ヲ害シタルニ過キササルヲ以テ其裁判所ヲ構成セル判事其人ノ私法上ノ權利ヲ侵害シタルモノト云フヲ得ス

三六 八四一

○竊取シタル公債證書ナルコトヲ知り乍ラ金策周旋ノ爲メ之ヲ受取リ終ニ其所在ヲ失シタル者ニ對シテハ被害者ハ其筋ニ對シ代證券ノ交付ヲ請求スルノ手續ヲ爲サスシテ直ニ損害賠償ノ私訴ヲ提起スルコトヲ得

三六 九六三

○冒認販賣ノ目的物タリシ家屋ト雖モ買受人ニ於テ之ヲ取崩シ他ニ運搬シ其形態ヲ存セサルニ至リタルトキハ縱令該建物ノ木材ヲ原料トシテ他ニ同一建坪ノ家屋ヲ建設スルモ其家屋ハ冒認販賣セラレタル家屋ト同一物ナリト云フヲ得ス從テ之ヲ取崩チ返還セシメントスル私訴ノ請求ハ不當ナリトス

三六 一一〇七

○株券ヲ騙取セラレタル場合ニ於テ騙取セラレタル者カ所有權移轉ノ意思表示ヲ爲シタルニ非サルトキハ取消ノ意思ヲ表示スルノ必要ナシ從テ直ニ其株券ノ返還ヲ請求スルコトヲ得

三六 一二七三

○贓物ノ返還ハ損害ノ賠償中最モ適實ナル方法ナリトス從テ犯罪ニ因テ損害ヲ加ヘタル者ハ現存ノ贓物ヲ提供シテ其賠償義務ノ全部若クハ一部ヲ免レ得ヘキモ被害者ニ於テ贓物ノ返還ヲ求メサルヲ理由トシテ損害賠償ノ請求ヲ拒ミ得ヘキモノニ非ス

三六 一五九七

○被害ノ當時ニ在テハ記名ノ公債證書ナリシト雖モ其後相當ノ手續ヲ經テ政府ニ納入シ更ニ無記名公債證書ノ下付ヲ受ケタルトキハ債權ハ其性質ヲ變シテ動産ト爲リタルモノトス從テ被害者ハ贓物返還トシテ之カ請求ヲ爲スコトヲ得ス

三六 一六七五

○毆打創傷ノ不法行為ヲ原因トシテ私訴ヲ提起シ慰安料ヲ請求シタル場合ニ於テ私訴請求ノ原因タル毆打創傷ノ所爲アリ且被害者ノ苦痛不快ノ感情ニ對シ慰安料ヲ給與スルノ必要アルトキハ裁判所ハ被害者カ毆打創傷ノ爲メ疾病ニ罹リ休業ヲ爲シタルト否トヲ問ハス損害賠償トシ

テ加害者ニ慰安料ノ給付ヲ命スルコトヲ得ルモノトス

○他人ノ犯罪行為ニ因ル抵當登記ヲ取消サントスル者ハ名義上ノ抵當權者ニ之ヲ請求スヘキモノニシテ其犯人ニ對シ請求スヘキモノニ非ス

○甲者カ乙者ノ私印私書ヲ偽造行使シ乙者所有ノ建物ヲ丙者ニ賣渡シ乙者ノ名義ヲ以テ所有權移轉ノ登記ヲ爲シタル場合ニ於テハ其賣買登記ハ當事者間適法ニ成立シタルモノニ非サルヲ以テ乙者ハ丙者ニ係リ登記ノ抹消ヲ請求スルノ權利ヲ有ス

○民法第七百二十三條ニ謂フ名譽回復ニ適當ナル處分ヲ求ムルハ損害賠償ニ代ル所ノ要求ニ外ナラス從テ被害者カ私訴トシテ該處分ヲ求ムルハ相當ナリ

○刑事訴訟法第二條ハ私訴ノ相手方ヲ公訴ノ被告人ノミニ制限シタルモノニ非サレハ公訴ヲ受ケサル者ヲ被告人トシテ私訴ヲ提起スルハ不法ニ非ス

(同主旨)

○公訴ニ附帶スル私訴ノ對手者ニ付テハ法律上何等ノ制限ナシ從テ刑事被告人外ノ者ト雖モ尙ホ對手者ト爲スコトヲ得

○刑事訴訟法第二條ハ私訴ノ相手方ヲ制限シタルモノニ非ス從テ荷モ犯罪ニ因リテ生シタル損害ノ賠償額物ノ返還ヲ目的トスル請求ナルトキハ犯人以外ノ者ニ對シテモ公訴ニ附帶シテ之

ヲ爲スコトヲ得
荷モ犯罪ニ因テ生シタル損害賠償ノ請求ヲ爲ス場合ニ於テハ公訴ノ被告以外ノ者ト雖モ尙ホ被告トシテ私訴ヲ提起スルコトヲ得

○受寄者カ擅ニ寄託物タル土地ヲ他人ニ賣渡シタル場合ニ於テ寄託者ヨリ民事ノ訴ヲ提起シ所有權移轉登記抹消ヲ求メタル後更ニ民事原告人トシテ其登記抹消ノ私訴ヲ提起シタルトキハ訴訟ノ原因ハ孰レモ委託契約ニ存スルヲ以テ民事被告人ハ權利拘束ノ抗辯ヲ主張シ得ルモノトス

○債務者カ強制執行ヲ免ルル爲メ公正證書ヲ以テ其所有財産ニ付キ假裝ノ賣買契約ヲ締結シタル場合ニハ債權者ハ強制執行ノ開始前債務者及

ヒ讓受人ニ對シテ契約無効確認ノ訴訟ヲ提起シ得ルモノトス

○被告人ノ欺罔手段ニ依リ貨物預證券及ヒ質入證券ヲ騙取セラレタル場合ニ於テ該證券善意ノ第三者ニ移轉シタルトキハ縱令其發行カ民事原告人ト被告人トノ關係上無効ナリトスルモ之ヲ以テ所持人ニ對抗スルコトヲ得ス故ニ民事原告人ニ於テ證券上ノ債務ヲ辨濟シタル以上ハ被告人ニ對シ私訴トシテ其賠償ヲ請求シ得ルモノトス

○他人ノ印影ヲ盜用シテ金圓借用證書ヲ偽造シ訴訟提起ノ爲メ之ヲ辯護

三六	一六九九
三七	六八〇
三七	七六〇
三八	一八八〇
三九	六〇七
三九	二二三

三五	二	五八
三五	七	八
三六	一三九	
三六	一〇五八	
三九	一	

士ニ交付シタル場合ニ於テ被害者カ其消費貸借無効ノ確認ヲ請求スルハ刑事訴訟法第二條ノ所謂損害賠償ノ一方法ニ外ナラス

四〇

四七九

○不動産競落許可決定ノ確定後ト雖モ競賣申立人ノ權利ニシテ眞實存在セサリシ場合ニハ利害關係者ハ該決定ニ羈束セラルルコトナク民事上ノ訴ヲ提起シ其權利ノ存在ヲ爭ヒ以テ競賣ニ因リ侵害セラレタル權利ノ回復ヲ請求シ得ルモノトス

四〇

五八九

○關稅法違犯事件ノ公訴判決ニ於テ犯罪ニ係ル貨物ノ沒收ヲ言渡シ其判決ノ效力ヲ存スル以上ハ沒收ノ當否ニ關セス被告人ハ自ラ該物件ヲ處分スルコト能ハサルヲ以テ之カ返還ヲ要ムル私訴請求ハ不當ナリ

四〇

七二四

○抵當權者カ既ニ債權ノ辨濟ヲ受ケタルモ未タ登記ノ抹消セラレサルヲ奇貨トシ債務者ヨリ金圓ヲ騙取セント企テ抵當不動産ニ付キ競賣ノ申立ヲ爲シ競賣手續開始ノ決定ヲ得タル場合ニ債務者カ之ヲ以テ自己ノ權利ヲ侵害セルモノトシ其賠償ノ方法トシテ競賣申立ノ取下ヲ求ムルハ不當ナリ然レトモ右ノ場合ニ於テ競賣ニ付スヘキ不動産ノ登記簿ニ競賣ノ申立アリタルコトヲ登記セラレタルトキハ債務者ハ競落期日經過セサル限り公訴ニ附帶シ損害賠償ノ方法トシテ最高競買申立人ノ同意ヲ得テ競賣申立ノ取下ヲ爲スヘキコトヲ請求シ得ルモノトス

四〇
11110

○犯人カ騙取シタル物件ヲ第三者ニ賣渡シタル場合ト雖モ該物件現存スル以上ハ之ヲ買戻シテ被害者ニ還付シ得サルモノニ非ス從テ裁判所カ被害者ノ請求ニ基キ犯人ニ對シ其現物ノ返還ヲ命シタルハ相當ナリ

四二

一六八

○或土地建物ニ付キ當事者間ニ賣買契約成立シタルモ未タ所有權移轉ノ登記ヲ爲ササリシ場合ニ於テ買主カ賣主名義ノ金圓借用證書及ヒ該土地建物ヲ同債務ノ擔保ニ供スル旨ノ文書等ヲ偽造シ抵當權ノ登記ヲ受ケタルトキハ賣主ハ買主ニ對シテ其登記ノ取消ヲ請求シ得ル權利アリ

四二

四八八

○甲者カ乙者ヲ登記名義人トスル抵當權設定ノ登記ヲ以テ自己ノ所有權ヲ侵害シタルモノトシ其抹消ヲ訴求シテ權利ヲ回復セントスル場合ニハ其訴訟ヲ以テ甲者ノ爲メニ何等ノ利益ナシト云フヲ得ス

四二

九六五

○登記上自己ノ所有權ヲ侵害セラレタリト主張スル者カ抵當權設定登記ノ抹消ヲ訴求スルニ當リテハ豫メ其抵當權ヲ設定シタル所有權ノ登記名義人ノ所有權登記ヲ抹消シ又ハ同時ニ該登記上自己ノ所有權ヲ侵害セラレタリト主張スル者カ抵當權設定登記ノ抹消ヲ訴求スルニ當リテハ同時ニ該登記名義人ニ對シテ所有權登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ要セス

四二

一四五一

(同主旨)

○登記上自己ノ所有權ヲ侵害セラレタリト主張スル者カ抵當權設定登記ノ抹消ヲ訴求スルニ當リテハ豫メ其抵當權ヲ設定シタル所有權ノ登記名義人ノ所有權登記ヲ抹消シ又ハ同時ニ該登記

記名義人ニ對シテ所有權登記ノ抹消ヲ請求スルコトヲ要セス

○不動産カ順次數人ニ移轉シタル場合ニ於テ原所有者カ登記原因ノ無效ヲ主張シ登記ノ抹消ヲ請求スルニハ現時ノ所有名義者ノミナラス其以前ノ名義者ニ對シテモ別箇獨立ノ請求ヲ爲スコトヲ得

○殺害ニ基因シタル葬式費用ハ殺人行爲ニ因リ生シタル損害ニ外ナラサレハ其費用カ早晚何人ニモ免レ得サルモノナルコトヲ理由トシテ之カ賠償ヲ辭スルコトヲ得ス

(同主旨)

意思ノ有無ヲ問ハズ人ヲ死ニ致シタルトキハ致死者又ハ其民事擔當人ハ之カ葬式費用ノ賠償ヲ免ルルコトヲ得ス

犯罪行爲ニ依リ人ヲ死ニ致シタルトキハ其葬式費用ハ犯罪ヨリ生スル直接ノ損害ナルヲ以テ加害者ニ於テ賠償ノ責任ヲ負擔スヘキモノトス

○私訴ハ犯罪ニ依リ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的トスル民事ノ訴訟要求ナルヲ以テ刑事訴訟法中承繼ノ手續ニ關シ何等ノ規定ナシト雖モ被告人ノ死亡失踪等ノ場合ニ於テハ其相續人財産管理人等ハ相當ノ手續ニ依リ訴訟ヲ承繼シ得ルモノトス

(同主旨)

私訴承繼ノ手續ハ刑事訴訟法ニ規定ナシト雖モ相當ノ手續ヲ以テ之ヲ承繼セシムルコトヲ得

○私訴ノ取下ハ當事者間ニ於ケル訴訟關係ヲ消滅セシムル結果ヲ生スヘキ重要ナル訴訟行爲ナレハ訴訟代理人ハ特別ノ委任ヲ受クルニ非ザレハ之ヲ爲スヲ得サルモノトス

○國有林下戻ノ行政訴訟ニ於テ請求者カ立證上文書ヲ偽造シテ之ヲ提出行使シ當該吏員ヲ錯誤ニ陷レ因テ勝訴ノ判決ヲ受クルニ於テハ其判決ハ請求者ノ爲メニ所有權創設ノ效力ヲ生スルモ國カ從前ノ所有權ヲ喪失スルニ至リタルハ文書偽造行使ノ結果ニ外ナラサルヲ以テ因テ生シタル損害ハ右偽造行使者ニ於テ賠償ノ責任ヲ負ハカラス

○他人ノ委託ヲ受ケタル物件ヲ騙取シタル場合ニ於テハ犯罪人ノ不法行爲ニ因リ直接損害ヲ被フリタル者ハ其物件ノ所有者タル委託者ナルヲ以テ委託者ハ常ニ犯罪人ニ對シ物件ノ返還若クハ損害賠償ヲ求ムルノ權利ヲ有ス

○不法行爲ニ基因セル民事訴訟ニ關スル費用ヲ損害賠償トシテ不法行爲者ニ負擔セシムルハ民事訴訟法第七十二條及ヒ民事訴訟費用法ノ規定ニ從ヒ裁判所カ相當ナル權利伸張又ハ權利防衛ニ必要ナリト認メタル金額ノ範圍内ニ於テセサルヘカラス

四二	九六五
四二	一四五二
四四	五六九
二九	一七
二四	一七
一	七三
四四	八六
三三	五七
四五	三九一
二	四〇〇
二	七二
三	二二

○辯護士ノ報酬金ハ縱令不法行為ニ基因セル民事事件ニ付キ支出シタリトスルモ裁判所カ民事訴訟法第七十二條及ヒ民事訴訟費用法ノ規定ニ從ヒ右民事事件ノ判決ニ於テ其訴訟費用中ニ包含セシメサリシ以上ハ不法行為ニ基ク損害賠償トシテ之ヲ請求スルヲ得サルモノトス

○犯罪ニ因リ權利ヲ侵害セラレタル場合ニ於テ原狀ニ回復シ得ルトキハ被害者ハ其請求ヲ爲スヘク否ラサルトキハ原狀回復ニ換ヘ損害賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

○森林盜伐罪ニ在リテハ原狀回復ハ到底之ヲ望ムヘカラサルヲ以テ損害賠償ニ換ヘ伐採シタル木材ヲ請求スルモ又之ヲ爲サスシテ損害賠償ヲ請求スルモ被害者ノ隨意ナリトス從テ賠償額ヨリ伐採シタル木材ノ價額ヲ控除セスシテ賠償ノ請求ヲ爲スモ毫モ不法ニ非ス

○犯人ヨリ盜賊タル情ヲ知り乍ラ之ヲ受取り他ニ賣却シ遣リタルトキハ共ニ被害者ノ贓物返還請求權ヲ侵害シタルモノナルヲ以テ被害者ニ對シ損害賠償ノ責ヲ免ルルヲ得ス

(同主旨)

荷モ贓金タルコトヲ知テ之ヲ收受費消シタル以上ハ自己ノ犯罪ニ因リ被害者チシテ贓金返還ノ請求權ヲ行使スルコトヲ得サラシメタルモノナルカ故ニ其損害ヲ賠償スヘキ義務アルモノ

トス
○被害者ノ告訴ハ法律上認めラレタル權利ナルヲ以テ告訴ヲ提起スルニ必要ナル費用ハ犯罪ニ因テ生シタル損害トシテ犯人ニ對シ之カ賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

(同主旨)

告訴ハ被害者ノ任意行為ナレトモ若シ告訴ヲ爲スニ於テハ其手續ニ要シタル費用ノ如キモ犯罪ヨリ直接ニ發生シタル損害トシテ犯人ニ對シ之カ賠償ヲ要求シ得ルモノトス

○告訴ノ提起ハ必スシモ辯護士ニ依頼シテ爲スヲ要スル事項ニ非サルヲ以テ被害者カ任意ニ辯護士ニ委嘱シ告訴ヲ提起シタルニ因リ支拂ヒタル手數料又ハ報酬ノ如キハ當然之ヲ犯罪ニ基因スル損害ナリトシテ賠償ヲ請求シ得ヘキモノニ非ス

(反對)

告訴ヲ爲スニハ被害者自ラ之ヲ爲スト辯護士ニ委任シテ爲サシムルトハ被害者ノ選擇ニ因ルモノナリト雖モ辯護士ニ委任シタル以上ハ其勤勞ニ對スル相當ノ報酬ハ告訴ヲ爲スニ付キ要シタル費用ニシテ犯罪行為ニ因リテ生シタル損害ニ外ナラス

○告訴提起ノ爲メ辯護士ヲ所轄裁判所ニ出頭セシメタル日當其他告訴狀作成ノ費用等ハ告訴人ノ權利ノ伸張又ハ防衛ニ必要ナル費用ニシテ犯罪ニ因テ生シタル損害ナリト云ヒ得ヘキヲ以テ當然賠償ヲ請求シ得ヘ

四二 七八八

三 一〇七一

四 五九一

三 一〇七一

二 三〇四

三 二二二

三 七三七

三 七三七

三 七九〇

キ範圍ニ屬スルモノトス

(同主旨)

告訴狀認メ料ハ被害者カ犯罪ヲ申告スル爲メニ要スル費用ニシテ犯罪行爲ニ基因セル損害ヲ
リトス故ニ裁判所カ損害ノ賠償トシテ之ヲ犯人ニ負擔セシムルハ違法ニ非ス

(反對)

告訴ノ爲メ警察署ニ出頭シタル日當金ノ如キハ犯罪ニ因リ生シタル直接ノ損害ト云フヘキモ
ノニ非ス

○傷害罪ノ被害者カ告訴ヲ爲シタルニ因リ警察署及ヒ檢事局ヨリ召喚ヲ

受ケ出頭スルニ要シタル車代ハ傷害ニ因リテ生シタル損害ナルヲ以テ
附帶私訴ニ依リ其賠償ヲ請求スルコトヲ得ルモノトス

(同主旨)

被害者カ犯罪證明ノ爲メ警察署又ハ檢事局ノ呼出ニ應ジ出頭シタル旅費日當ハ犯罪ヨリ生ス
ル損害救済ノ爲メニ請求スルモノナルトキハ即チ犯罪行爲ニ基因シタル直接ノ損害ナリトス
從テ私訴トシテ其損害ノ賠償ヲ要求スルコトヲ得

○民事原告人ノ請求シ得ル損害賠償トハ惟リ犯罪ニ因ル物質的若クハ精

神的損害ニ對スル金錢賠償ヲ要求スル場合ノミニ限ラス犯罪タル權利
侵害ノ行爲ヲ排除シ障礙セラレタル權利ヲ原狀ニ回復スルコトヲ請求
スル場合ヲモ包含スルモノトス

三	一〇七一
四	八八八
二六	二四
三	一一六
三五	一七
三	一七八三

○公正證書ニ因ル一定ノ金額ノ給付ヲ目的トスル契約カ既ニ消滅セルニ
拘ハラズ該契約ニ於ケル債權者又ハ其承繼人カ公證人ヲ欺罔シ右公正
證書ニ執行文ヲ付與セシメ債務者ノ財産ヲ差押ヘタルトキハ之ニ因リ
テ財産ノ所有者ニ財産權ノ行使ヲ障礙スル結果ヲ發生セシメタルモノ
ナルヲ以テ其差押ノ排除ヲ目的トスル訴訟ハ損害賠償ノ方法トシテ當
然許容セラレサルヘカラス

(同主旨)

詐欺ノ手段トシテ假差押ヲ爲シタル行爲ハ該財産所有者ノ爲メカ權利行使上妨カラサル障
害ヲ與フルコト勿論ナルヲ以テ其障害ヲ排除セントスル請求ハ刑事訴訟法第二條ノ損害賠償
中ニ包含スルモノトス

○甲銀行ノ取締役乙者カ不正ニ自己ヲ利スル目的ヲ以テ其取締役タル名

義ヲ用キ小切手ヲ偽造行使シ丙銀行ヨリ金圓ヲ騙取シタル場合ニ於テ
甲銀行カ乙者ヲ一機關トシテ自己ヲ代表セシメ丙銀行ト取引ヲ爲シ居
リタル關係上商法第六十二條ノ規定ニ依リ乙者ニ甲銀行ノ爲メ小切手
ヲ振出ス一般權限アルコトヲ認メサルヲ得サルノ結果其小切手金額ヲ
被害銀行ニ賠償シタルトキハ該金額ハ即チ乙者ノ犯罪ニ因リテ生シタ
ル損害ニ外ナラス

○被害者タル民事原告人カ將來得ヘカリシ利益中負傷ノ爲メ其幾分ヲ喪

三	二四二六
四五	一一七
三	一七八三

- 失スヘキ運命ニ陥ルトキハ即チ現在ノ状態ヲ不利益ニ變更セラレタルモノニシテ該變更ニ因ル損害ハ現ニ受ケタル損害ナルヲ以テ其負傷ニ付キ過失ノ責任アル者ニ對シ賠償ヲ請求スルノ權利アリ
- 刑事訴訟法第二條ニ所謂損害ノ賠償ハ犯罪ノ爲メニ喪失シタル利益ヲ回復スル一切ノ場合ヲ包含スルモノニシテ此目的ヲ達センカ爲メ單ニ公訴ノ目的タル犯罪事實ヲ原因トスルトキハ勿論尙ホ之ニ他ノ原因ヲ附加シ此等ノ原因ニ基キ請求スル場合ニ於テモ亦私訴トシテ公訴ニ附帶シ得ヘキモノトス
- 私訴請求權ノ存否ハ其原因事實ノ存否ニ因リテノミ定マルヘキモノニシテ其原因事實ノ全部又ハ一部カ罪トシテ認メラレタルヤ否ヤニ何等ノ關係ナキモノトス
- 私訴ハ被害者ノ包括承繼人又ハ特定承繼人モ之ヲ爲シ得ルモノトス
- 犯罪ニ基因セサル私法上ノ請求權ハ私訴ノ本訴トシテ之ヲ主張スルコトヲ許ササルカ故ニ反訴トシテ主張スルコトモ亦之ヲ許スヘキモノニ非ス
- 甲乙共謀シ甲ノ債權者ヲ詐害スル目的ヲ以テ兩者間ニ抵當附貸借ヲ假裝シ之ニ基キ抵當權設定登記ノ申請ヲ爲シ登記官吏ヲシテ登記簿ニ不

三

二六二八

四

七六

四

一六六七

五

二二六〇

五

八九一

五

九〇一

五

一一九七

四

一

實ノ記載ヲ爲サシメタル場合ニ於テ兩者相俱ニ文書偽造行使詐欺被告事件ノ共犯トシテ公訴ヲ受理セラレタル以上甲者カ乙者ニ對シ其登記抹消ノ手續ヲ爲サントスル私訴ハ不合法ナリ

○刑事訴訟法第二條ニ所謂損害ノ賠償ハ犯罪ニ因リテ生シタル利益ノ喪失ヲ補填シ犯罪ナカリシ以前ノ状態ニ回復セシムルノ義ナリトス故ニ民事原告人カ返還ヲ請求スル借用證書ニシテ民事被告人ノ犯罪行爲ニ因リテ生シタルモノニ非サルノミナラス該犯罪ヲ距ルコト數年前既ニ同人ノ手裡ニ歸シタルモノナルトキハ其請求ハ許スヘカラサルモノトス

○刑事訴訟法第二條ニ所謂損害ノ賠償トハ犯罪事實ニ基因シテ生シタル損害ヲ回復スル一切ノ場合ヲ包含シ民法上其回復ノ請求カ被害者ニ屬スル以上ハ金錢賠償ナルト否ト又加害者ニ對スルト否トヲ問ハサルモノトス

(同主旨)

刑事訴訟法ニ所謂損害賠償ハ被害者カ加害者ニ對シテ金錢賠償ヲ請求スル場合ハ勿論犯罪ノ爲メニ被フリタル利益ノ喪失ヲ回復スル一切ノ場合ヲ包含シ此種ノ回復請求ニシテ民法上被害者ニ屬スル以上ハ公訴ニ附帶シ刑事裁判所ニ於テ之カ請求ヲ爲シ得ヘキモノトス

刑事訴訟法ニ所謂損害賠償トハ金錢ノ賠償ノミヲ指稱スルニ非スシテ犯罪ニ因リ生シタル不

利益ノ結果ヲ排除シ原狀ニ回復セシムコトヲ目的トスル一切ノ請求ヲ包含スルモノトス

○刑事訴訟法第二條ニ所謂贓物ノ返還トハ廣ク犯罪ニ因ル權利侵害ニ對スル原狀回復ヲ指稱スルモノナレハ電話加入名義者カ犯罪ニ因リ其名義ヲ他人ニ變更セラレタル場合ニ於テ該他人ニ對シ其名義變更ノ手續ヲ爲スヘキコトヲ請求スルハ即チ贓物返還ヲ目的トスルニ外ナラサルモノトス

(同主旨)

○刑事訴訟法第二條ニ所謂贓物ノ返還トハ犯罪行為ニ基ケル物件自體ノ回復ヲ意味スルノミナラス犯罪行為ノ結果トシテ侵害セラレタル物權原狀ノ回復ヲモ包含ス

○刑事訴訟法第二條ニ所謂贓物ノ返還トハ單ニ犯罪行為ニ依リ奪取セラレタル物品ノ取戻ノミヲ指スニ非スシテ廣ク犯罪行為ニ因リ侵害セラレタル物權ノ回復ヲモ意味スルモノトス

○私訴ヲ提起シ得ヘキ被害者トハ必スシモ犯罪自體ニ因リ害ヲ被ムリタル者ナルコトヲ要セス汎ク犯罪ニ因リ權利ヲ侵害セラレタル者ヲ指稱スルモノトス

○組合ノ理事タリシ清算委員長カ其權限内ナル組合ノ權利ヲ行使スルニ當リ總組合員ノ名ニ於テセス又連名ノ委任狀ニ據ルコトナク自己單獨ノ名ニ於テ爲シタル訴ノ提起ハ相當ナリトス

(參照)

被上告人ニ於テ破産者ニ對シ商品代金ノ支拂ヲ求ムルニハ商法第九百七十八條以下(主トシテ千二十三條以下)ヲ指スニ似タリノ規定ニ依ルヘキモノニテ破産宣告後ニ至リ刑事裁判所ニ於テ私訴ノ申立ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニ非ス然ルニ原院カ此申立ヲ採用シタルハ不法ナリト論告スレトモ原院ハ商品代金ナル事實ヲ認メタルハ勿論ナリト雖モ其代金ノ義務ヲ負擔シタル行為カ詐欺破産ノ罪ナルヲ以テ其行為ニ基キ被害者ニ生シタル代金請求權ハ即チ犯罪ニ因リテ生シタル損害賠償ノ請求權ナリト認メタルモノナリ

○刑事訴訟法中私訴ハ犯罪ニ因リテ生シタル損害ノ賠償贓物ノ返還ヲ目的トスルモノニシテ民法ニ從ヒ被害者ニ屬ス(第二條)トノ法則ニ影響ヲ及ボスヘキモノニ非ス

(第三條)

『第三條』

○檢察ハ間接國稅犯則者ニ對シテハ間稅官吏ノ告發ヲ待ツニ非サレハ公訴ヲ提起スルコトヲ得ス

○告訴ハ親告罪ニ對スル訴追ノ要件ナルモ其成立要件ニ非ス從テ被害者ノ告訴アルト否トハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ナシ

○親告罪ニ於ケル告訴ハ犯罪ノ成立ニ必要ナル實體的條件ニ非スシテ其訴追ヲ被害者ノ意思ニ係ラシムル形式的條件ニ外ナラス從テ或犯罪事件カ其起訴ノ當時效力ヲ保有セル訴訟手續ニ準據シテ適法ニ裁判所ニ繫屬シタル以上ハ爾後法律ノ改正ニ依リ其犯罪ヲ親告罪ト爲スモ之カ

三

二〇一九

六

二五二

二八

五

二一八

二六

五

二二二

六

二五二

六

一五二〇

二七

四三三

三四

三

六五

三五

六

二〇〇

三七

一五六〇

爲メ起訴ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

○鹽專賣法違犯者ニ對シテハ間接國稅犯則者處分法ノ準用アルヲ以テ稅務署長カ通告ヲ爲シタル上告發ヲ爲スニ非サレハ檢事ヨリ公訴ヲ提起スルヲ得サルハ勿論裁判所モ亦之ヲ處罰スルヲ得サルモノトス

○鹽專賣法違犯ノ行爲ト公務所ノ記號盜用及ヒ其偽造行使トノ間ニ手段結果ノ關係アリテ刑法第五十四條ニ依リ一罪トシテ之ヲ處分スヘキ場合ト雖モ稅務署長ノ告發ナキ限ハ訴訟條件ヲ缺如スルカ故ニ裁判所ハ前者ニ對シテ本案ノ判決ヲ爲シ得サルモノトス

○告訴ハ被害者ヨリ爲ス犯罪ノ申告ナルヲ以テ犯罪ニ對シテ成立スルモノニシテ犯人ニ對シテ成立スルモノニ非ス從テ數名ノ共犯人アル親告罪ニ關シ特ニ共犯人中ノ一人ニ對シテノミ處罰ヲ求メ其他ノ者ニ對シテハ處罰ヲ求メサルコトヲ明言スルモ其告訴ノ效力ハ共犯人全體ニ及フモノトス

○連續犯タル一罪カ親告罪ニ繋リ且同一ノ法益ヲ侵害スルモノナルトキ其數箇ノ行爲中或モノニ付キ告訴ノ提起ナシトスルモ裁判所ハ其數箇ノ行爲全部ニ付キ審判スルヲ妨ケス

〔第四條〕

四一	一〇七三
四	一五六九
四	一五六九
元	一五六九
二	八五

(民)

○刑事訴訟法第四條ノ規定ハ私訴提起ノ時期ヲ一定シタルモノニ非ス從テ第一審ニ私訴ヲ提起シタル場合ト雖モ第二審ニ至リ更ニ追加ノ私訴ヲ提起スルコトヲ得

○犯罪ヲ原因トスル損害賠償ノ訴ハ公訴附帶ノ私訴トシテ刑事裁判所ニ若クハ單獨ノ民事訴訟トシテ民事裁判所ニ提起スルハ被害者ノ隨意ナリ

○公訴判決確定ノ後私訴ノ控訴ニ附隨シ更ニ他人ニ對シ私訴トシテ訴ヲ提起スルコトヲ許サス

○告訴人カ被告ノ財産差押ノ處分ヲ爲スモ之ヲ以テ私訴ヲ提起シタルモノト謂フヲ得ス

(同五三)

假差押ノ申請ハ私訴ノ提起ニ非ス

○郡長ハ法規上當然縣知事ノ代理ヲ爲シ得ルモノニ非ス從テ知事ノ代理トシテ私訴ヲ提起スル場合ニハ別ニ其代理委任ノ事實ヲ證明スヘキモノアルヲ要ス

○私訴ハ第二審ノ判決アル迄何時ニテモ之ヲ爲スコトヲ得ルモノナレハ控訴中一旦之ヲ取下クルモ更ニ之ヲ提起スルコトヲ得ヘシ而シテ刑事

刑事訴訟法 總則

二九	六	三〇
二九	二	四九
三〇	三	五一
三三	五	一九
三三	二	四六
三四	五	六五

訴訟法中前訴訟費用未済ナルトキハ之カ提起ヲ爲スコトヲ得サル旨ノ規定アルコトナシ

○私訴ハ公訴ニ附帶スル場合ニ於テノミ民事訴訟ノ一般規定ニ依ラスシテ刑事裁判所ニ提起シ得ルモノナレハ私訴ノ適法ナルカ爲メニハ公訴ノ適法ニ成立スルコトヲ必要トス從テ公訴不受理ノ判決確定セル場合ニ私訴ヲ却下シタルハ相當ナリ

(同主旨)

公訴受理スヘカラスト裁判セラレタルトキハ其事件ニ附帶セル私訴ハ當然成立スヘキモノニ非ス

○未成年者カ刑事裁判所ニ於テ公訴附帶ノ私訴ニ關スル行爲ヲ爲スニハ其法定代理人ノ同意ヲ得ルコトヲ要ス

○民事訴訟ニ付キ國ノ代表者ヲ定メタル勅令及ヒ省令ハ私訴ニ付テモ亦之ヲ適用スヘキモノナリ

○私訴ハ公訴ノ豫審繼續中ト雖モ有效ニ之ヲ公訴裁判所ニ提起シ得ルモノトス

○公訴ニ附帶スル私訴ハ裁判所ニ公訴事件ノ繫屬シタル場合ニ於テノミ之ヲ提起シ得ルモノトス

○第一審裁判所カ公訴ニ付キ既ニ關シテ判決ヲ言渡シ其訴訟ヨリ離脱シタル以上ハ更ニ故障ノ受理又ハ控訴ニ依リ事實裁判所ニ公訴事件繫屬スルニ非サレハ該公訴ニ附帶スヘキ私訴ヲ提起スルモ之ヲ以テ適法ノ訴ト云フヲ得ス

○被害者カ司法警察官ニ告訴狀ヲ差出シタル場合ニ於テハ其書面ノ末尾ニ附帶私訴ヲ提起スル旨ノ附記アルモ私訴提起ノ效力ヲ生スルコトナシ

(同主旨)

警察署長ニ私訴ノ申立ヲ爲スモ其效ナシ

司法警察官ニ宛テタル告訴狀ニ私訴ノ申立ヲ爲スモ私訴提起ノ效力ナシ

○共犯者ノ一人ニ對シ公訴ノ提起アリタルトキハ被害者ハ其公訴事實ヲ原因トシ他ノ共犯者ニ對シテ贓物ノ返還若クハ損害ノ賠償ヲ求ムルコトヲ得

○公訴附帶ノ私訴ニ付キ訴訟ヲ代理スル權限ヲ有セサル者ノ爲シタル訴訟行爲ヲ追認シ將來ニ向テ代理權ヲ付與スルコトハ法理上當然認容シ得ヘキモノニシテ其追認及ヒ付與ノ效力ハ訴訟ヲ代理スル者カ普通ノ代理人タルト選任ニ因リ法律ニ規定スル代理權ヲ有スル者タルトニ依

三六	三七	三〇	三元	三元	四一	四二
五三	一九四六	七	一三七	一八三	七六〇	九六八

四二	四三	四三	四三	四三	四三	四三
九六八	一五九六	二二五	二二五	二二五	二二五	二二五

分ヲ了シタリトスルモ現實死亡セサル以上ハ被告ニ對スル公訴權ハ消滅セサルモノナルヲ以テ其後生存セルコトヲ發見シタルトキハ新ナル訴ヲ竣ツコトナク前訴ニ基キ審理判決スヘキモノトス

○親告罪ニ付キ告訴ノ拋棄ヲ待テ公訴權ノ消滅スルハ公訴提起ノ前後ニ依リ其效力ニ區別ヲ生スルモノニ非ス

○親告罪ノ私和ハ上告中ト雖モ其效ヲ有シ公訴ヲ消滅ス

○告訴ノ拋棄ニ因テ公訴權消滅シタル場合ト雖モ一旦正當ニ提起セラレタル公訴ノ處分ハ判決ヲ以テ之ヲ終局ス

○被害者ノ告訴ニ係ル名譽及ヒ信用毀損事件ニ付キ告訴ノ取下アリタル場合ニ於テハ名譽毀損罪ニ對スル公訴權ハ消滅ニ歸スルヲ以テ右事件ニ對シ刑法第五十四條ヲ適用シタルハ違法ナリ

○名譽毀損事件ニ於ケル共同被告人ノ一名ニ對スル告訴ノ效力ハ他ノ共同被告人ニ及フモノナレハ從テ其一名ニ對スル告訴取下ノ效力モ亦他ノ共同被告人ニ及フヘキモノトス

○如上ノ理由ニ因リ被害者ヨリ告訴ヲ取下ケタルトキハ縱令被害者ニ於テ共犯人中ノ一人ニ對シテノミ取下ヲ爲シ其他ノ者ニ對シテハ審理ノ繼續ヲ求ムルノ意思ヲ明示スルモ其取下ノ效力ハ共犯人全體ニ及フモ

四	二九	二九	四
三	二一	三	二六三
三〇	一〇	四九	
四五		二〇九五	
元		一三二二	

ノトス(第二條元年一五八九頁參照)

○牽連犯ニ於ケル各箇ノ行爲ハ他ノ行爲ニ包含セラレ又ハ其一部ヲ成スモノニ非サルヲ以テ其カ親告罪ニシテ他カ然ラサル場合ニ於テ其親告罪ニ對スル告訴ノ取下ハ他ノ行爲ニ對スル公訴權ニ何等ノ影響ヲ及ボスモノニ非ス

○親告罪ニ關スル告訴權ノ拋棄ニ付テハ法律上何等ノ形式ヲ定メタルモノナキカ故ニ其拋棄アリタルヤ否ヤヲ判斷スルハ事實審ノ專權ニ屬スルモノトス

○被害者カ被告ノ爲シタル一箇ノ行爲ヲ名譽及ヒ信用毀損ノ二罪名ニ該當スルモノトシテ告訴ヲ提起シタルモ檢事ノ起訴後之ヲ取下ケタルトキハ名譽毀損罪ニ對スル公訴權ハ消滅ニ歸スルモ業務妨害罪ニ付テハ公訴權存續スルヲ以テ裁判所カ名譽毀損ノ部分ニ對シテハ處罰規定ヲ適用セサルニ止メ別ニ免訴ヲ言渡サス單ニ業務妨害ノ事實ニ對シ刑法

第二百三十三條ヲ適用處斷シタルハ正當ナリ

○第一審ニ於テ詐欺取財ノ點ニ付キ無罪ノ判決ヲ受ケ既ニ確定シタルニ拘ハラズ詐欺取財ノ從犯トシテ處罰シタル第二審判決ハ不法ナリ

○公訴權消滅ノ原因タル確定判決トハ被告ノ罪責ノ有無ヲ定メタル判決

元			一五六九
三			一〇四
四			一六二
五			二五三
三三			三三

ヲ謂フ從テ公訴不受理ノ言渡若クハ管轄違ノ言渡ハ之ヲ包含セス

○檢事カ聚合罪ノ一部ヲ指摘シテ公訴ヲ提起シタルトキハ裁判所ハ其聚合罪ヲ構成スル全部ノ行爲ニ付キ審理判決スルノ權限ヲ有ス而シテ其判決確定ノ效力ハ同判決言渡ノ時迄ニ行ハレタル行爲ノ全部ニ及フヘキモノトス

○連續犯若クハ常習犯ノ如キ聚合的犯罪ノ一部ニ對シ判決アリタルトキハ其後ニ發生シタル行爲ハ縱令犯人ノ意思ニ連續アリ若クハ其性癖ニ基ク場合ト雖モ獨立ノ一罪ヲ成立スルモノニシテ右判決ノ既判力ハ之ニ及ハサルモノトス

○一罪ヲ構成スヘキ公訴事實ニ付キ確定判決ヲ以テ罪ノ有無ヲ決シタルトキハ同罪ニ對スル公訴權ハ之ニ依リテ消滅スルヲ以テ爾後同公訴事實ハ勿論法律上之ト一罪ヲ構成スヘキ他ノ事實ニ付キ起訴アリタルトキハ裁判所ハ免訴ノ言渡ヲ爲スヲ相當トス

○縱令公訴事實カ親告罪ニ係リ其確定判決後之ト連續シテ一罪ヲ構成スル事實ニ付キ被害者ヲ異ニスル爲メ新ニ告訴アリタリトスルモ本來一罪ヲ組成スルモノナレハ公訴權消滅ノ理由ニ依リ免訴ノ言渡ヲ爲スヘキモノトス

三五 四九

四三 二〇二

四 四二八

七 八四

七 八四

○牽聯罪ヲ構成スヘキ公訴事實ノ一部カ親告罪ニシテ告訴ナキ爲メ之ニ對スル公訴ハ受理スヘカラサルトキト雖モ公訴ノ適法ナル他ノ部分ニ付キ罪ノ有無ヲ判決シ其判決カ確定シタルトキハ公訴事實全部ニ對スル公訴權ハ消滅スルヲ以テ右親告罪ニ付キ更ニ告訴ノ要件ヲ具備スルモノニ對シ再ヒ公訴ヲ提起シ得サルモノトス從テ如上ノ場合ニハ牽聯罪ノ一部カ無罪ナルトキト等シク主文ニ於テ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘキモノニ非ス

○犯罪ノ後頒布セラレタル法律ニ因リ其刑ヲ廢止シタルトキハ其公訴權ハ當然消滅ス

(參照)

刑法第三百五十八條ノ誹毀罪ハ被害者ノ告訴ヲ俟テ其罪ヲ論スヘキモノナリ故ニ該罪ニ於テ第二審判決後被害者カ告訴ノ取消願ヲ差出シタルハ即チ告訴ノ拋棄アリタルモノニシテ公訴ハ之ニ因テ消滅ス既ニ其消滅ノ原因ヲ生スルトキハ既往ニ遡リ公訴ハ消滅ニ屬スルモノナレハ原判決ハ成立スルコトヲ得ス
有夫姦被害事件ニ付キ控訴審理中被害者タル本夫ヨリ告訴取消願ヲ提出スルトキハ公訴權ハ當然消滅ニ歸ス
幼者誘拐罪ハ親告罪ナリ從テ第二審判決ノ確定以前被害者ヨリ告訴取下願ヲ提出スルトキハ其公訴權ハ當然消滅ニ歸ス而シテ此場合ニ於テハ控訴セサル共犯者ニ對スル第一審判決モ亦共ニ破毀セラルヘキモノトス

七 一四七九

二六 一〇四

二六 五五

二九 一九

二九 一九

誹謗ノ公訴ハ私和ニ依リテ消滅ス
強姦ノ罪ヲ犯シ依テ人ヲ傷ケタル所爲(刑法第三百五十一條)ハ強姦ト毆打創傷トノ二所爲ヲ以テ一種特別ノ一罪ト爲シタルモノトス從テ強姦罪ニ於ケル告訴ノ拋棄ヲ以テ公訴ノ消滅スル特例ハ本罪ニ適用スルヲ得ス
誹毀罪ニ付キ判決確定前告訴ヲ取下ケタル事實明カナル以上ハ審級ノ如何ニ拘ハラズ公訴權ハ當然消滅シタルモノトス

〔第七條〕

○犯罪ニ基因スル損害ニ關シ和解ヲ爲シタル以上ハ爾後公訴ノ提起アリタル場合ト雖モ私訴ヲ爲スノ權利ヲ有セス

〔第八條〕

○闕席判決ヲ以テ刑ヲ宣告シタル場合ニ在テハ其宣告ノ日ヨリ刑ノ時効進行ヲ始ムルカ故ニ之ト併行シテ公訴ノ時効成就スヘキモノニ非ス
○刑法施行以前ノ犯罪カ數箇ノ行爲ニシテ舊刑法ニ依レハ各行爲ハ獨立ノ犯罪ヲ構成シ其行爲中公訴ノ時効ニ罹ルヘキモノアルモ刑法ニ於テハ相互ニ牽聯シテ一罪ヲ成スヘキモノナルトキハ其公訴時効モ亦全體ニ付キ成就スルモノニシテ各行爲相分離シ各別ニ時効ニ罹ルコトヲ容サス
○公訴ノ時効ニ關スル刑事訴訟法ノ規定ハ公訴權實行ノ條件ニ關スル手

二九	二	二
三〇	三	一四
三四	三	三四
三三	五	一七
四二		一五八三
四四		二〇一

續法規ニ外ナラサレハ改正ニ係ル同法第八條ノ規定ハ其改正以前ノ犯罪ニシテ同條施行前ニ公訴ノ時効成就セザリシモノニ付テモ亦之ヲ適用スヘキモノトス

(同主旨)

改正ニ係ル刑事訴訟法第八條施行以前ノ犯罪ニシテ同法條施行ノ當時未タ公訴ノ時効期間經過セサルモノニ對シテハ其時効期間ハ右改正法條ニ依ルヘキモノトス
刑事訴訟法第八條ハ犯罪ノ訴追ニ關スル形式的規定ニ外ナラサレハ其改正アリタル以上ハ改正以前ノ犯罪ニ對シテモ亦新規定ニ依リテ公訴時効ノ成否ヲ定ムルヲ當然トス

○第一及ヒ第二ノ事實カ孰レモ單一ナル意思ノ繼續ニ因ル犯罪行爲ニシテ刑法ニ依ルモ刑法施行前ノ法律ニ依ルモ結局一箇ノ連續犯ヲ構成スヘキモノナルトキハ第一事實ノミカ刑法施行前ニ完結スルモ其犯シタル行爲全體カ未タ完結セサル以上ハ之カ爲メニ時効ノ完成ヲ來スコトナシ

○刑法第六條ノ規定ニ基キ新舊刑法ヲ比照シ輕キニ從テ處斷スヘキ事件ト雖モ其公訴時効ノ成否如何ヲ定ムルニハ改正刑事訴訟法第八條ノ規定ニ則ルコトヲ要シ且同條所掲ノ刑ハ刑法ノ刑ニ依ルヘキモノトス

(同主旨)

新舊刑法ヲ比照シテ處斷スヘキ事件ト雖モ其公訴時効ノ成否ハ改正ニ係ル刑事訴訟法第八條

四四		四六六
四三		一五二四
四三		一七三〇
四五		九四三
元		二二二

ニ從ヒテ之ヲ判定スヘク而シテ同條各號ノ刑ハ刑法ノ刑ニ依ルヘキモノトス

○刑法第五十四條ノ牽聯犯ニ付キ公訴時効ノ成否ヲ定ムルニハ重キニ從ヒ斷スヘキ罪ノ刑ニ依ルヘキモノニシテ牽聯犯ヲ構成スル各犯罪行為ニ對スル刑ニ依リ各別ニ公訴時効ノ成否ヲ判定スヘキモノニ非ス

○文書偽造及ヒ偽造文書行使ノ刑ハ五年以下ノ懲役ニ該ルモノナルヲ以テ刑事訴訟法第八條第四號ニ所謂長期五年未滿ノ懲役ニ該當セス同條第三號ニ所謂長期十年未滿ノ懲役ニ該ルヲ以テ右ニ行爲ヲ獨立シテ觀察スルモ其公訴時効ハ七年ノ經過ニ因リテ完成スヘキモノトス

(參照)

判決後ハ公訴時効ヲ成就セス

詐欺取財ト官私文書偽造ト併發シタル場合ニ於テ私文書偽造詐欺取財ノ點カ公訴ノ時効ニ罹ルトキハ單ニ官文書偽造ノ點ノミニ付キ處分スヘキモノトス從テ私文書偽造詐欺取財カ官文書偽造ト共ニ實質上ノ一罪ヲ構成スヘキ部分ナルノ故ヲ以テ時効ノ效ナシト云フヲ得ス

公私文書ヲ偽造行使スルニ因テ詐欺取財ヲ爲シタル場合ニハ犯罪行為終了ノ日ヨリ起算シ公文書偽造行使ニ對スル公訴ノ時効期間ヲ經過シタルヤ否ヤニ依リテ其犯罪全部ニ對スル時効ノ成否ヲ決セサルヘカラス

第九條

(民)

○刑事訴訟法第九條第一項ハ犯罪ノ原因トシテ損害ノ賠償又ハ贓物ノ返還ヲ請求スル場合ニ於テ其訴ヲ公訴ニ附帶シテ刑事裁判所ニ提起スルト公訴ニ附帶セスシテ民事裁判所ニ提起スルトヲ問ハス公訴ノ時効ト同一ノ期間ニ於テ該請求權カ時効ニ罹ル旨ヲ定メタルモノトス

三九	三六	二六	三	三	三〇
九四一	三九八	一四三	七一	七一	九六七

第十條

○同一ノ偽造證書ヲ前後數回ニ行使シタル場合ニ在リテハ其犯罪ハ繼續スルヲ以テ最終ニ於ケル行使ノ日ヨリ公訴時効ヲ起算スヘキモノトス

○同一犯人カ公務所ノ文書ヲ偽造シテ行使シタルトキハ其偽造ト行使ノ各所爲ハ刑法第五十四條第一項後段ニ依リ合シテ一罪ト爲ルヘキモノナレハ其何レヲ重シトシテ處斷スルニ拘ハラズ常ニ同罪最後ノ所爲タル行使ヲ終リシ日ニ發生シタルモノト云フヘク該犯罪ニ對スル公訴時効ノ期間モ亦同日ヨリ進行ヲ始ムヘキモノトス

第十條

○處罰條件ヲ必要トスル犯罪ト雖モ該條件具備シタルトキハ其犯罪ニ對スル公訴ノ時効ハ行爲終了ノ日ヨリ進行ヲ始ムルモノトス

○從犯行爲ハ正犯行爲ニ附隨シテ其刑責ヲ負擔スルモノナレハ從犯行爲ニ對スル公訴時効ハ其幫助セラレタル正犯ノ罪ノ終了シタル日ヨリ其期間ヲ起算スヘキモノトス

○教唆行爲ハ單ニ一回ナリトスルモ其罪責ハ當然被教唆者ノ行爲ニ隨伴

四	四三	四二	三〇	六	六
二五二	一九九	一〇四八	四〇	一六三	六〇

スヘキモノナルヲ以テ其時効ノ起算點亦之ト同一ニ論定セサルヘカラス

四四

一四〇〇

○明治四十四年大阪府令第十九號講會取締規則第三條違犯ノ行爲ハ所轄警察署ニ届出テ其認可ヲ受クルコトナク講會ヲ組織セル瞬間ニ完了シ其認可ヲ受ケスシテ組織シタル講會ノ存續スル間繼續スヘキモノニ非ス從テ右犯行ニ對スル公訴ノ時効ハ講會組織ノ日ヨリ進行スヘキモノトス

三

二二〇

○陸軍軍人服役令施行規則第二條違反ノ罪ハ同條所定ノ軍人カ所轄聯隊區司令官ニ届出ヲ爲サスシテ本籍地ヲ出發セル瞬間ニ完成スヘキ即時犯ナルヲ以テ該違反行爲ニ對スル公訴ノ時効ハ無届ノ儘本籍地ヲ出發シタル日ヨリ進行スヘキモノトス

三

二四九

(民) ○不法行爲ニ基ク損害賠償ノ請求カ犯罪ヲ原因トスル場合ニ於テハ其時効ノ期間起算點及ヒ中斷ニ付テハ公訴ノ時効ニ於ケルト同一ノ規定ニ依ルヘキモノニシテ民法第七百二十四條其他民法ノ規定ニ從フヘキモノニ非ス

六

一六三一

○森林法第八十四條ノ罪ニ對スル公訴ノ時効起算點ハ同條第二號ノ如キ竊取後ニ行ハルル行爲ヲ伴フ場合ニハ竊取行爲完了ノ時ニ非スシテ同

號ノ行爲完了ノ時ナリトス

(參照)

委託金毀消ノ罪ハ其金額ヲ領取シ其目的ヲ遂ケタル時ニ於テ始メテ成立スルモノニ付キ之カ經時効モ亦其目的ヲ遂ケタル時ヨリ起算セサルヘカラス

私印私書偽造罪ハ行使ニ依リテ完成ス從テ其時効ノ成就ハ行使ノ日ヨリ起算スヘク偽造ノ日ヨリ起算スヘキモノニ非ス

二八

二五八

詐欺取財ヲ行フニ因テ文書ヲ偽造行使シタル場合ニハ犯罪終了ノ時ヨリ起算シ罪情最モ重キ所爲ニ對スル公訴時効期間ノ既ニ滿了シタルヤ否ヤニ依リテ犯罪行爲ノ全部ニ對スル時効ノ成否ヲ斷定セサルヘカラス

三七

二四六

公私文書ヲ偽造行使スルニ因テ詐欺取財ヲ爲シタル場合ニハ犯罪行爲終了ノ日ヨリ起算シ公文書偽造行使ニ對スル公訴ノ時効期間ヲ經過シタルヤ否ヤニ依リテ其犯罪全部ニ對スル時効ノ成否ヲ決セサルヘカラス

三九

九四二

【第十一條】

(民) ○公訴ハ以テ私訴免責時効ノ進行ヲ止ムヘカラス故ニ「公訴事件ノ結局迄出訴期限ヲ中斷シタルモノト謂ハサルヘカラス」ト判決シタルハ不法ノ裁判ナリ

二六

二二〇

○重罪事件ニ對シ豫審免訴ノ決定アリタル後時効期間ノ未タ滿了セサル前檢事ヨリ再起訴許可ノ請求ヲ爲シタル場合ニ於テハ其請求ハ時効中斷ノ效力ヲ有スルモノトス

三七

六六六

○市會議員選舉違犯事件ニ付キ裁判所カ被告ノ申請ニ因リ公判ノ開廷ヲ延期シタルノミニテ其公判手續ヲ止メサリシ以上ハ縱令最初ノ呼出狀ヨリ公判開廷ノ日迄ニ六個月ヲ經過スルモ之ヲ以テ時効完成セリト云フヲ得ス

第十三條

○告訴人又ハ告發人ノ賠償責任ニ關シ刑事訴訟法ニ於ケルカ如ク特別ノ規定存スル以上此規定ニ依ルノ外告訴人ニ對シ損害賠償ヲ求ムルコトヲ得ス

(民)

○刑事訴訟法第十三條ハ告訴告發等ニ關シ特別ニ損害賠償ノ責任ヲ定メタル法條ニシテ一般ノ賠償責任ヲ定メタル民法第七百九條ト牴觸スルモノニ非サルカ故ニ民法實施ノ後ト雖モ依然其效力ヲ有スルコト勿論ナリ

(民)

○檢事カ不起訴處分ヲ爲シタル場合ニ於テモ無罪又ハ免訴ノ言渡アリタル場合ト同シク告訴人又ハ告發人カ被告人ニ對シテ損害賠償ノ責任スルニハ惡意又ハ重大ナル過失アルヲ要スルモノトス

(民)

○刑事訴訟法第十三條第一項ハ被告人カ免訴又ハ無罪ノ言渡アリタル場合ノミニ限ラス不起訴處分アリタル場合ノ如キモ包含スルモノトス

(民)

○搜查官ニ對スル申告カ告訴又ハ告發ノ方式ニ適セサル場合ニ於テモ苟モ其申告ヲ爲シタル以上ハ搜查官ハ之ニ基キ犯罪アルコトヲ認知シ搜查ニ著手スルコトヲ得ヘキモノナルヲ以テ尙ホ刑事訴訟法第十三條第一項ノ適用ヲ受クヘキモノトス

第十五條

○一月一日ヨリ三日マテハ法律上ノ休暇ナリ

○刑事訴訟法第十五條第一項後段ノ規定ニ依レハ期間ノ最終日カ休暇ニ當ルトキハ之ヲ期間ニ算入スルコトヲ得サルヤ明カナリトス而シテ同條ニハ單ニ休暇トアリテ其休暇カ一般ノ祝祭日ナリヤ若クハ其他ノ事由ニ基クヤラ區別セサルヲ以テ同條ニ所謂休暇トハ裁判所ニ於テ休暇日トシテ事務ノ取扱ヲ爲ササルノ事實アルノミヲ以テ足り其休暇ノ事由如何ハ之ヲ問ハサルモノトス
○刑事訴訟法第十五條ニ依レハ期間ヲ計算スルニ日ヲ以テスルモノハ初日ヲ算入セストアルヲ以テ刑事訴訟手續上特別ノ規定ナキ限ハ右ノ原則ニ準據スヘク從テ違警罪即決例第五條ニ定メタル期間ニ付テモ亦同一ノ計算法ニ從フヘキモノトス

第十六條

第十六條

三	六	三六	三	二	四五	三五	三四	三
			九		九	九	九	
五八五		一三六〇	五	四二九	三三三	一七	一〇九	二二七

- 送達證書中送達方法ノ欄ハ民事訴訟法第四百四十五條乃至第四百四十九條ノ如ク異例ノ送達ヲ爲シタル場合ニ於テ其記載ヲ要スルモノトス從テ受取人ニ送達シタル場合ニハ其署名捺印アレハ足り別ニ送達方法ヲ記載スルノ要ナシ
- 辯護人ニ對スル期日呼出狀ノ送達證書ニ執達吏代理ノ署名ノミアリテ其捺印ナキトキハ該證書ハ無効ナルヲ以テ其呼出狀カ辯護人ニ送達セラレタルコトヲ證明スルニ足ラス
- 共同辯護人ノ一人ニ對シ爲シタル期日通知書ノ送達ハ該辯護人方ヲ假住所ト定メサル限リ他ノ一人ニ對シ效力ナキモノトス
- 刑事訴訟法第十九條ニ書類ノ送達ハ此法律ニ於テ別ニ規定アラサルトキハ民事訴訟法ノ規定ヲ準用ストアルヲ以テ送達證書ノ作成ニ付テハ民事訴訟法ノ規定ニ依ルヲ以テ足り刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ依ルヲ要スルモノニ非ス
- 呼出狀ノ送達カ夜間ニ於テ爲サレタリトスルモ被告ノ住所ニ於テ成長シタル同居ノ親族カ受取りタルモノナルトキハ其送達ハ有效ナリトス
- 檢事ニ對スル書類ノ送達ハ送達證書ニ依リテ其手續ノ完了ヲ證明スルコトヲ要セサルモノトス

四二	八九五
四三	一四三二
四四	八五二
元	一二七九
三	三五四
六	四一六

- 送達證書中書類受取人ノ受取證ニハ受取人ノ署名捺印ヲ要スヘキ規定ナケレハ苟モ右受取證ト認メ得ヘキモノナル以上ハ法律ノ要求スル送達證書ノ形式ニ缺クル所ナキモノトス
- 訴訟當事者カ假住所ヲ定メ裁判所ニ届出タル場合ノ書類ノ送達ハ假住所ニ於テ爲スヘキモノニシテ本人不在ナルトキハ假住所主ニ送達スヘク若シ假住所主不在ナルトキハ其同居ノ親族又ハ雇人ニ送達スルコトヲ得ルモノトス

(同居)

假住所ノ主人其同居ノ親族若クハ雇人等ハ訴訟關係人ノ爲メニ書類ノ送達ヲ受クルノ權限ヲ有ス從テ辯護人ニ對スル公判期日ノ呼出狀ヲ其假住所ノ主人ニ送達スルモ違法ニ非ス

(反對)

假住所ノ主人ニ爲シタル送達ハ無効ナリ
假住所ノ主人カ書類ノ送達ヲ受クルコトハ書類ノ送達ニ關シテ訴訟關係人ヨリ特ニ委任ヲ受ケタル場合ノ外其權限ナキモノトス從テ送達受領ノ委任ナキ假住所ノ主人ニ爲シタル呼出狀ノ送達ハ無効ナリトス

(參照)

村役場書記ハ村長ニ隸屬シテ庶務ヲ執ルモノナレハ特ニ村長其人ニ專屬スル事務ノ外ハ村長ノ事故アル場合ニ村長ニ代テ其事務ヲ執ルハ當然ノ事ニ屬ス從テ右等ノ場合ニ於テ村役場書

三六	二九一
三〇	六〇
四三	九三三
三七	一〇七八
七	六三三
六	一一三二

- キ以上ハ作製ノ場所ハ其裁判所ナリト解スヘキモノトス
- 控訴申立ヲ爲シタル檢事ノ署名カ自署ナルヤ否ヤノ如キハ上告審ニ於テ訴訟記録外ノ新ナル證據ニ依リテ之ヲ調査スヘキモノニ非ス
- 大林區署長カ國ノ代表者ヲ指定シタル指定書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ基キ作成スル文書ニ非サルヲ以テ官署ノ印ヲ押捺セサルモ無効ニ非ス
- 刑事訴訟法第二十條「官吏公吏ノ作ルヘキ書類ハ其所屬官署公署ノ印ヲ用ヒ」ノ規定ハ官吏公吏カ其職務ノ執行上作成スヘキ書類ノミニ適用スヘキモノニシテ其職務以外ニ於テ作成スル書類ニ適用スヘキモノニ非ス
- 書記ノ氏名ニシテ複寫ニ係ル場合ト雖モ書記以外ノ人ニ於テ複寫シタリト認ムヘキ形跡ナク書記自身ニ複寫シタルモノナルニ於テハ書記ノ署名アリトスヘキモノトス
- 複寫ハ文字ヲ紙上ニ表出スルノ一方法ニシテ文字ヲ手記スルモノナレハ筆記ト全ク其作用ヲ同フス從テ此方法ニ依リテ作成シタル書類ハ筆記ヲ爲シタル書類ト其效力同一ナリトス
- 刑事訴訟法第二十條ハ刑事ノ被告事件ニ付キ作成スヘキ書類ニ關シテ遵守スヘキ一般ノ原則ヲ規定シタルモノトス從テ刑事訴訟法又ハ其他

三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六

ノ法令ニ於テ特ニ作成ノ方式ヲ規定セル書類ニ關シテハ其特別規定ニ依據スルコトヲ要シ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ從フコトヲ要セス

(同主旨)

- 刑事訴訟法第二十條ニ官吏ノ作ルヘキ書類ハ官署ノ印ヲ用ヒ每葉ニ契印スヘシ等ノ規定アルハ該法律ニ依リ作りタル書類ニ止マリ他ノ法律ニ依リ作りタル書類ニ及ボスヘキモノニ非ス
- 則チ陸軍治罪法ニハ刑事訴訟法第二十條第一項ノ如キ規定ナキヲ以テ軍法會議ノ調書ニ官署ノ印ナク每葉ニ契印ナキモ之ヲ無効ノ調書ト云フヲ得ス
- 官吏公吏ノ作成スヘキ書類ト雖モ特別法ノ規定アル場合ニ於テハ其特別法ニ依テ作成スヘキモノニシテ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ則ルヘキモノニ非ス
- 巡查カ犯罪ノ場所ヲ實見スルカ如キハ臨檢處分トハ全ク異ナルノミナラス其見聞シタル事項ヲ錄取シタル文書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ作成スヘキモノニ非ス從テ其文書ニ所屬官署印ノ押捺ナキモ無効ニ非ス
- 豫審訊問調書ハ訊問ト同時ニ之ヲ作成スルヲ以テ常トス從テ訊問ノ年月日ヲ記載シ別ニ作成ノ年月日ヲ記載セサルトキハ訊問ト同時ニ作成シタルモノト認ムヘキモノトス
- (同主旨)
- 豫審訊問調書ハ其訊問ノ當日ニ於テ作成スヘキハ當然ナリトス從テ調書ノ末尾ニ年月日ノ記載ナキモ調書ノ冒頭ニ於テ訊問ヲ爲シタル年月日ノ記載アル以上ハ此日ニ於テ作成セラレタルコト明カナリトス

三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五	三五
二	二	二	二	二	二	二	二	二	二
六	六	六	六	六	六	六	六	六	六
九	九	九	九	九	九	九	九	九	九
一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六

○電話報告書ナルモノハ刑事訴訟法ノ規定ニ從テ作製スル文書ニ非ス從テ其作製者ノ署名捺印ナキモ無効ニ非ス

三六

六〇一

○官吏ノ作成スル文書ニハ其所屬官署及ヒ官吏ノ住所ヲ記載スヘキ旨ノ規定アルコトナシ而シテ作製者ノ表示ハ其作製者ノ官氏名ヲ明カニスレハ足ル從テ此等ノ記載ナキ文書ヲ以テ無効ナリト云フヲ得ス

三六

二二三

(同主旨)

刑事訴訟法第二十條ニハ官吏ノ作ルヘキ書類ノ方式ヲ規定シタルモ其書類ニ所屬官廳ヲ記載スヘキ旨ノ規定アルコトナシ從テ檢證調書ニ其記載ナキモ之ヲ以テ不法ノ文書ナリト云フヲ得ス

三六

九七一

○公判始末書ノ原本中ニ其作成場所ノ記載アル以上ハ特ニ抄本ノ末尾ニ於テ該場所ヲ記載セサルモ違法ニ非ス

三七

二九〇

○告發調書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ依リ作成スヘキ書類ナリトス故ニ該調書ヲ作成スル官吏ハ其每葉ニ契印セサルヘカラス

三七

一三四

○刑事訴訟法第二十條ニ所謂書類作成場所ノ記載方ニ付テハ別ニ一定ノ制限ナケレハ場所ノ表示カ同條ノ規定ニ適合スルヤ否ヤノ程度ハ専ラ其書類ノ性質ニ從ヒテ之ヲ鑑別スヘキモノトス

三七

一六〇〇

○公判ノ開廷數回ニ涉リ其都度立會書記ヲ異ニスルモ公判始末書ハ一通ヲ作成スレハ足ル而シテ書記ニ名ニテ一通ノ始末書ヲ整頓シタル場合

ニ其一名ノ契印アルニ於テハ書類作成者ノ契印ヲ缺キタルモノト云フヲ得ス

三六

一九

○檢證調書ハ書記ニ於テ豫審判事ノ口授スル所ヲ錄取シ之ヲ作成スルモノトス故ニ該調書ニハ書記ノ印ヲ以テ契印セサルヘカラス(同一判例 三七年一〇二六頁)

三六

九七四

○公判始末書ノ末尾ニ不動文字ヲ以テ「明治三十年 月 日」ト掲クルニ止マリ其年月日ナル文字ノ上ニ數字ヲ記載セサルトキハ該始末書ハ無効ナリトス

三六

四六

○刑事訴訟法第二十條ニハ「官吏ノ作ルヘキ書類ハ云云署名捺印シ」トアリテ特ニ官名ヲ記載スヘキ旨ノ規定ナケレハ官吏ハ其職名ヲ記載スルヲ以テ足レリトス

三九

二〇四

○判事カ法律ノ規定ニ依リ檢事ヲ代理シ豫審請求書ヲ作成スル場合ニ於テハ之ニ檢事局ノ印ヲ押捺スヘキモノトス

三九

五二七

○判決原本ノ末葉ト其前紙トノ間ニ裁判所書記ノ契印アルモ原本作成者タル判事ノ契印ヲ欠カスルトキハ該判決ハ不法ナリ

三九

五三三

○合議裁判所ノ判決書ハ合議ニ干與シタル總テノ判事ニ於テ之ヲ作成スヘキモノナレトモ該判決書ニ契印スヘキ場合ニハ其作成者中一名ノ契

印アルニ於テハ刑事訴訟法第二十條所定ノ要件ヲ缺キタルモノト云フヲ得ス

○判決書ノ末葉ト其前葉トノ間ニ作成者ノ契印ヲ缺ク以上ハ縱令其末葉ニハ單ニ裁判所書記ノ署名捺印ノミ存スルトキト雖モ該判決書ハ刑事訴訟法第二十條ノ要求スル契印ヲ缺クモノニシテ書類タルノ效力ヲ有セス

○豫審請求書ノ作成場所ハ其作成者タル檢事所屬ノ檢事局ノ管轄區域内ナルコトヲ確認スルニ足ルヘキ程度ニ於テ之ヲ記載スレハ足ルモノトス

○受命判事カ數日ニ涉リ檢證ヲ爲シタル場合ニ於テ之ヲ一通ノ調書ニ作成スルハ不法ニ非ス而シテ其調書ノ末尾ニ所屬廳印ヲ用ユルコト能ハサル事由ヲ記載シ判事及ヒ裁判所書記ノ署名捺印アル以上ハ此等ノ表示ハ前數回ノ檢證ニモ併用セラレタルモノト認ムルヲ當然トス

○豫審ニ於ケル鑑定人ノ訊問ニ付テハ別ニ調書ヲ作成スヘキコトヲ命シタル法規ナシ從テ其調書ヲ作成スルニハ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ從フコトヲ要セス

○豫審判事カ臨檢搜索ニ因ラスシテ或物件ヲ押收シタル場合ニ於テ其目

録ヲ調製スルハ畢竟該物件ノ存在ヲ表明シ之ヲ保全スルニ外ナラザレハ其作成ニ付キ刑事訴訟法ノ規定ニ依ラサルモ之ヲ無効ト爲スヘキモノニ非ス

○證人訊問囑託書ト訊問事項書トハ其性質上相俟テ效用ヲ爲スモノナレトモ各別箇ノ書類ナルヲ以テ其間ニ契印スルコトヲ要セス

(同主旨)

刑事訴訟法中書類ノ每葉ニ契印スヘシトノ規定ハ數葉ヲ合セテ一通ト爲シタル書類ニ適用スヘキモノトス從テ各通相異ナル書類ニ在テハ箇箇別別ノ書類ナルヲ以テ其間契印ヲ爲スノ要ナシ

○證人訊問事項書ハ證人ニ訊問スヘキ事項ヲ列記シタルモノニ過キスシテ作成者ノ表示ヲ要スル文書ニ非サレハ刑事訴訟法第二十條ニ從ヒテ作成セサルモ違法ニ非ス

○豫審調書ニ所屬廳印ヲ押捺スルコト能ハサル事由ノ附記ハ其末尾ニ於ケル裁判所書記及ヒ豫審判事ノ署名捺印ノ後ニ之ヲ爲スモ無効ニ非ス

(同主旨)

豫審調書ニ判事並ニ書記ノ署名捺印アリテ適式ニ作成セラレ居ル上ハ其調書ノ末尾ニ出張先ニ係レテ以テ廳印ヲ押捺セストノ附記アリテ其附記ノ末尾ニ特ニ判事並ニ書記ノ署名捺印ナキモ違法ニ非ス

四

五七

四

五七

四

一五五

四

八四八

四

一四七

四

一五三

四

一三四

三

一〇七

四

一三四

四

一四五

三

一六

豫審調書ノ作成ニ付キ通常ノ方式ヲ遵守スルコト能ハサル事由ハ該調書中裁判所書記及ヒ豫審判事ノ署名捺印アル箇所ノ後行ニ之ヲ記入スルモ妨ナシ

四三

一四〇三

○ 檢事ノ訊問調書ニハ其錄取者タル書記ノ契印アレハ足ルモノトス從テ檢事ノ契印ナキモ無効ニ非ス

四三

一四八九

○ 辯護人ヨリ忌避セラレタル判事ノ意見書ハ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ依リ被告事件ニ付キ作成シタルモノニ非サレハ判事所屬ノ官署印ヲ押捺セサルモ不法ニ非ス

四三

一七三五

○ 苟モ署名者自ラ其氏名ヲ紙若クハ其他ノ物體ニ現出セシムル以上ハ汎ク理化學的ノ方法ニ依ルコトヲ妨ケサレハ炭酸紙ヲ用キテ氏名ヲ現出セシムルカ如キモ亦筆記ト同シク署名タルヲ失ハス

四四

二九五

○ 檢事ノ聽取書ハ檢事局雇ノ筆記ニ係ルモノナリト雖モ其作成者ハ檢事ナルヲ以テ檢事ニ於テ署名捺印ヲ爲シ作成ノ正確ヲ認證シアル以上ハ該聽取書ハ違法ニ非ス

四四

二〇九五

○ 證人ノ宣誓書作成ノ方式ハ刑事訴訟法上裁判所書記ヲシテ之ヲ證人ニ請聞カセ證人ヲシテ之ニ署名捺印セシムヘキ旨規定セルヲ以テ同法第二十條ノ一般規定ニ依リ作成スルヲ要スルモノニ非ス

四五

九五

宣誓書ハ裁判所書記ニ於テ之ヲ作成シ證人ニ讀聞スヘキモノトス捺印トモ刑事訴訟法第二十條ノ法則ニ從フヘキ文書ニ非ス

條ノ法則ニ從フヘキ文書ニ非ス

二九

九二

○ 刑事訴訟法上裁判所書記カ調書ノ謄本抄本ヲ作成スルニハ同法第二十一條ノ規定ヲ遵守スルヲ以テ足り謄本若クハ抄本ニ於テ原本カ規定ノ形式ヲ遵守シテ作成セラレタル形跡ヲ表示スルヲ要セス

四五

五八三

○ 第一回ヨリ第三回ニ亘ル公判手續ヲ一通ノ文書ニ記載シタル場合ニ於ケル公判始末書末尾ノ年月日及ヒ場所ノ記載廳印竝ニ裁判長及ヒ書記ノ署名捺印ハ該始末書全部ニ通スルモノナレハ縦シヤ該始末書中第三回公判ニ關スル部分カ無効ナリトスルモ第一回及ヒ第二回公判ニ關スル部分ニ付キ之ヲ缺如スルモノト云フヲ得ス

元

二四二

○ 刑事訴訟法第二十條ニ所謂文書ノ每葉ニ契印スヘシトハ其文書ノ作成者ニ於テ契印スルヲ要ストノ意義ニ外ナラサレハ契印ハ必スシモ作成者ノ署名ノ下ニ於ケル捺印ト同一印章ヲ以テスルヲ要セス苟モ作成者カ其職務上使用スル印章ナル以上ハ其捺印ト同一ナラサルモ無効ニ非ス

二

三九

○ 判決原本カ刑事訴訟法第二十條第一項ノ規定ニ違背シ無効ナルトキト雖モ判決其モノハ正ニ存在スヘキヲ以テ之ニ對シ有效ニ控訴申立ヲ爲スコトヲ得ヘシ

二

二六

○豫審判事カ證人ノ訊問ヲ囑託スルコトヲ得ルハ刑事訴訟法第三百二十二條ノ規定スル所ニシテ右訊問囑託ニ關スル書面ハ同法ニ從ヒ作成スルコトヲ要スル文書ナルヲ以テ同法第二十條ノ規定ニ違背スルトキハ文書ノ效力ナキモノトス

○刑事訴訟法第二十條ニハ官吏公吏ノ作ルヘキ書類ハ其所屬官署公署ノ印ヲ用キ年月日及ヒ場所ヲ記載シテ署名捺印シ毎葉ニ契印スヘシトアルヲ以テ特別ノ規定ナキ限り契印ハ書類ノ作成者ニ於テ之ヲ爲スヲ以テ足ルモノトス

(同主旨)

文書ノ每葉ニ契印ヲ爲スヘキ法則(刑事訴訟法第二十條)ハ其文書ヲ作成スル官吏ノ契印ヲ要ストノ意義ニシテ訊問ヲ受ケタル被告人等ノ契印ヲ要ストノ意義ニ非ス

○判決言渡ノ旨ヲ記載セル公判始末書ニシテ刑事訴訟法第二十條第一項ノ方式ニ違背セルモノナル以上ハ其判決言渡手續力適法ニ行ハレタルモノト認ムルニ由ナキヲ以テ該判決ハ重要ナル訴訟手續ニ違背スル不法アルモノトス

○官吏カ職務上認知シタル犯罪ヲ告發スル書面ノ作成ニ付テハ刑事訴訟法第二十條ノ適用ヲ受クルモノニ非ス

(同主旨)

刑事訴訟法第五十二條ニ依リ官吏公吏カ告發ヲ爲スハ該職務ノ範圍外ニ屬スルヲ以テ此場合ニ於テ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ適セサルモ之カ爲メ其書面ヲ無効ナリト謂フヲ得ス

告發ハ刑事訴訟法第五十二條ノ規定ニ依リ官吏ノ署名捺印シタル文書ヲ以テ足レリトシ同法第二十條ノ法則ニ從フヲ要セス
官吏ノ作成スル告發狀ハ刑事訴訟法第五十二條第二項ノ規定ニ則ルヘキモノニシテ同法第二十條ノ規定ニ從フヘキモノニ非ス
公吏ノ作ルヘキ告發書ハ刑事訴訟法第五十二條第二項ニ則ルヘキモノニシテ同法第二十條ノ規定ニ從フヘキモノニ非サレハ該告發書ニ所屬公署ノ印ヲ用キ又作成ノ場所ヲ記載セサルモ無効ニ非ス

(反對)

告發書ハ刑事訴訟法第五十條以下ノ規定ニ依リ作成スヘキモノニシテ同法第二十條ノ法則ニ從フヘキモノトス

○即決處分ノ言渡ヲ爲スニハ必ス言渡書ノ作成ヲ要スレトモ其言渡書ハ刑事訴訟法ノ適用ヲ受クヘキモノニ非サルヲ以テ即決處分ヲ爲ス官吏ノ記名捺印アルヲ以テ足り必スシモ其官吏ノ自署ヲ要スルモノニ非ス
○檢證調書ニ檢證ヲ爲シタル場所ニ於テ作成シタル旨ヲ明示シアリテ其記載ヨリ所屬官署ノ印章ヲ押捺スルコト能ハサル事由明瞭ナルトキハ右調書ニ印章ノ押捺ヲ缺キ且其事由ノ明記ナキモ違法ニ非ス

二六	二九	三三	四五	三〇	二	三
五〇一	一一	五	二二	一	二	二七
九九	九	四一	三九	三	二	二七

二	二	二六	二	二	二	二
二	二	三	二	二	二	二
二	二	三	二	二	二	二

(同(三))

豫審調書ニ特ニ出張先ニ係ルヲ以テ所屬官署ノ印ヲ押捺スルコト能ハストノ記載ナキモ出張先ノ記載アリテ出張先ニ係ルコト明カナル以上ハ所屬官署ノ印ヲ押捺ナシト雖モ該調書ハ有效ナリ

檢證調書ニ所屬官署印ノ押捺ナク又押捺スルコト能ハサル旨ノ附記ナキモ其末尾ニ於テ出張先ニ係ルコトヲ明記シタル以上ハ特ニ出張先ニ係ルヲ以テ所屬官署ノ印ヲ押捺スルコト能ハストノ文字ヲ記載セサルモ之カ爲メニ其調書ヲ無効トスルヲ得ス

豫審調書ニ所屬官署印ノ押捺ナク且其印ヲ用ユルコト能ハサル旨ノ記載ナキモ其冒頭ニ於テ出張先ニ係ルコトヲ明記シタル以上ハ特ニ出張先ニ係ルヲ以テ所屬官署ノ印ヲ押捺シ能ハサルコトヲ記載セサルモ違法ニ非ス

豫審調書ニ所屬官署印ノ押捺ナク且之ヲ押捺シ能ハサル事由ノ記載ナキモ出張先ノ記載アリテ出張先ニ於テ作成シタルコト明カナル以上ハ其調書ヲ無効トスルヲ得ス

○間接國稅犯則者ニ對スル告發ハ間接國稅犯則者處分法ノ規定ニ從ヒ爲スヘキモノニシテ刑事訴訟法ノ規定ニ依ルヘキモノニ非ス而シテ同法中告發書ニ官署ノ印ヲ押捺スルコトヲ命シタル規定ナキヲ以テ稅務署長ノ告發書ニ所屬官署ノ印ヲ押捺セサルモ違法ニ非ス

○第三回公判始末書ト第四回公判始末書トノ間ニ一葉ノ宣誓書介入スルモ契印ノ存スル以上ハ之ニ因リ連絡セラレテ一通ノ文書ヲ組成スルモノナルヲ以テ作成ノ年月日及ヒ場所ノ記載並ニ裁判長裁判所書記ノ署名捺印及ヒ應印ノ押捺ハ其末尾ニ存スルノミヲ以テ足ルモノトス

○豫審判事ノ囑託ニ依リ領事官補カ其所屬在上海帝國總領事ニ代リテ證人ヲ訊問シタル場合ニ該訊問調書中其署名ノ下ニ總領事ノ職印ヲ押捺シタルハ適法ナリ

(同(三))

豫審調書ノ作成ニ干與シタル領事官補カ總領事ノ代理トシテ總領事ニ屬スル職務ヲ執行シタルカ爲メ總領事ノ職印ヲ其名下ニ押捺シタルモノナルトキハ他人ノ印章ヲ自己ノ名下ニ押捺シタルモノト云フヲ得サルヲ以テ該調書ノ作成ハ方式ニ背キタルモノニ非ス

○裁判所構成法第八十三條第二項ニ依リ或事務ヲ移サレタル檢事カ其事務ニ關シ刑事訴訟法第二十條ニ從ヒテ作成スヘキ文書ニハ該作成者ノ所屬廳即チ事務所轄廳ノ印影ヲ押捺スヘキモノトス

(同(三))

地方裁判所ノ檢事カ裁判所構成法第八十三條第二項ノ規定ニ從ヒ檢事正ノ命ニ依リ區裁判所檢事局ノ事務ヲ取扱ヒ之カ爲メニ公判請求書ヲ作成シタルモノナルトキハ其所屬官署ハ區裁判所檢事局ナルカ故ニ右請求書ニ同檢事局ノ官印ヲ押捺スルモ違法ニ非ス

○豫審調書作成ノ場所ヲ表示スルニ地名ヲ以テスルモ苟モ其場所カ所屬裁判所ノ管轄區域内ナルコトヲ確認シ得ヘキ限ハ刑事訴訟法第二十條第一項ニ所謂場所ノ記載タルヲ失ハス

三五	二	一四四
三七		一四九三
四〇		八二五
四二		五二一
三		四七一
元		一一六五
三		一一二一
三		二二二七
三		四一四
四		三二一

(同主旨)

豫審判事カ裁判所外ニ出張シテ被告人又ハ證人ヲ訊問シタル場合ニ在リテハ該調書ノ作成場所ハ其管轄區域内ニ於テモシコトヲ確認シ得ヘキ程度ニ記載スルヲ以テ足レリトス
豫審調書作成ノ場所ハ豫審判事所屬裁判所ノ管轄區域内ニ於テモシコトヲ確認シ得ヘキ程度ニ之ヲ記載スルヲ以テ足レリトス
豫審ニ於ケル檢證調書作成ノ場所ハ正當ノ管轄區域内ニテ該調書ヲ作成シタルコトヲ確認スルニ足ルヘキ程度ニ於テ之ヲ記載スレハ足ルモノトス

○司法警察官ノ作成スル聽取書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ依テ作成スル書類ニ非サレハ其聽取書ニ作成者ノ資格ノ表示ナキモ無効ニ非ス

○契印ヲ缺ケル公判始末書ハ無効ナルモ其記載ニシテ事實上存續セル限ハ他ノ書類ノ新ナル記載ニ代ヘテ之ヲ援用スルハ妨ナキモノトス

○控訴院刑事部勤務ノ書記ハ明治二十三年司法省文第二三二四號訓令ニ依リ各自「某控訴院書記印」ト刻シタル印章ヲ使用スルヲ本則トス故ニ該印章ヲ以テ契印ヲ施シタル公判始末書ノ有效ナルコト論ヲ竣タス

○區裁判所檢事カ所屬地方裁判所檢事正ノ移付ニ依リ同地方裁判所檢事局ノ事務ヲ執行スル爲メ起訴狀ヲ作成スル場合ニハ其區裁判所檢事局ノ印ヲ押捺スヘキモノニ非ス

○調書作成ノ日附カ證人訊問ノ日附ト異ナリ何レノ日附カ誤記ナリヤヲ

確知スルニ由ナキトキハ結局該調書ハ作成日附ナキニ歸シ刑事訴訟法第二十條ニ依リ無効ナル書類ナリトス

○司法警察官ノ作成セル告訴調書ニ應印ヲ押捺スル能ハサル場合ニ於テ特ニ其旨ノ記載ナシトスルモ該調書ハ無効ニ非ス

(反對)

刑事訴訟法第二十條ノ法則ヲ履踐セサル告訴調書ハ法律上其效力ヲ有セス

○檢事正ハ其管内ナル區裁判所ニ於テ當該事務ヲ爲シ得ルト同時ニ其本然ノ所屬廳ニ於テ亦管内ナル區裁判所所屬ノ事務ヲ執行スル權能ヲ有ス而シテ如上ノ場合ニ區裁判所ニ於テ事務ヲ執行スルトキハ同區裁判所檢事局ノ應印ヲ使用シ地方裁判所ニ於テ事務ヲ執行スルトキハ同地方裁判所檢事局ノ應印ヲ使用スヘキモノトス

○區裁判所檢事カ地方裁判所支部ニ勤務セル關係上公訴ヲ同支部ニ提起シタルトキハ地方裁判所檢事局ハ同檢事ノ所屬官廳ニ非サレハ同檢事カ右地方裁判所檢事局ニ於テ起訴狀ヲ作成スルニ當リ出張先ニ係ルノ理由ヲ以テ所屬官署ノ印ヲ押捺セサリシハ正當ニシテ起訴ハ適法ナリトス

○刑事訴訟法第二十條第二項及ヒ同法第二十一條ノ二ニハ無効ノ制裁ナ

三七	一六〇〇
四一	四七七
四二	八九〇
四四	一三五
四四	二二四
四五	八七六
五	九三二

六	七二
六	一一〇九
二九	三二
六	一三六
六	一三六

ハ削除ナリ

(同主旨)

文字ノ上ニ貼紙ヲ爲スハ刑事訴訟法第二十一條ニ所謂挿入削除ナリトス

○判決原本ニ判事ノ氏名ヲ重複ニ記載スルハ違法ニ非ス

○刑事訴訟法第二十一條ニ所謂欄外ノ記入トハ其本文ニ入ルヘキ文詞ヲ欄外ニ記入スルヲ謂フ從テ改訂又ハ削除シタル字數ヲ欄外ニ記載シタル場合ノ如キハ必スシモ其欄外ノ記載ニ押印ヲ要スヘキモノニ非スシテ其改訂削除ノ箇所若クハ欄外ノ記載孰レカ一方ニ押印スルヲ以テ足ルモノトス

(同主旨)

刑事訴訟法第二十一條ニ所謂欄外ノ記入トハ其本文ニ入ルヘキ文詞ヲ欄外ニ記入スルヲ謂フニアリテ削除シタル字數ヲ欄外ニ記載スルノ謂ニ非ス

○文字ヲ改竄シタルトキハ單ニ其變更ノ效ナキニ止マリ改竄ヲ加ヘタル元ノ文字ヲモ無効ナラシムルモノニ非ス

○挿入ノ字數ハ之ヲ記載スルヲ要セス(刑事訴訟法第二十一條)從テ其字數ノ記載ニ誤謬アルモ認印アル以上ハ其挿入ハ適切ナリ

○文字ヲ削除シタルトキ其削除シタル字體ハ明カニ讀ミ得ヘク且其字數ニシテ自ラ知得セラルルニ於テハ單ニ一行ヲ削ルト器記シ其字數ヲ記

載セサルモ無効ニ非ス

(同主旨)

削除ノ字數ヲ記載スルハ(刑事訴訟法第二十一條)正當ニ爲シタル削除ニ増加スルコトヲ防止スルニ在リ從テ一行ノ全部ヲ削除シ其旨ヲ記載シタルトキハ更ニ削除ヲ増加スルノ虞ナキヲ以テ其字數ヲ記載セサルモ違法ニ非ス

○書類ノ空白ニ關シテハ刑事訴訟法上別段ノ規定ナキヲ以テ空白ニ依リ離隔セラルル前後ノ記載ノ連結ヲ表示スル爲メ特ニ外形的ノ符徴ヲ施ササルモ書類上其記載カ互ニ相連續シテ一體ヲ爲スコトヲ認識シ得ル以上ハ之ヲ有效ト爲スヘキモノトス

○文字ヲ挿入削除シタル箇所ニハ認印ナキモ欄外ニ其字數ヲ記載シ之ニ認印セル以上ハ其挿入削除ハ有效ナリ

(同主旨)

文字ノ挿入削除ノ箇所ニハ認印ナキモ其欄外ニ挿入シタル字數並ニ削除シタル字數ヲ記載シ之ニ官印ノ押捺アル以上ハ其挿入削除ハ有效ナリ

○公判始末書中裁判言渡ノ年月日ニ文字ヲ挿入シアルモ作成者ノ押印ナキ故ヲ以テ其挿入ハ法律上無効ニ歸スル場合ト雖モ前回ノ公判始末書及ヒ該始末書末段ノ記載ニ徴シテ其言渡ノ日ヲ確認シ得ル以上ハ該始末書ヲ目シテ無効ナリト云フヲ得ス

三五	二九	三五	三〇	三五	三五	三五
一〇	二四	七	四	四	六	六
二九	六	五九	一九四	一	二〇一	一
四三六	一七二	一三七	七九四	四三六	四三六	四三六

○公判請求書ニ於ケル記載事項カ用紙ノ野外ニ掲ケアレハトテ之ヲ欄外ノ記入ト謂フヲ得ス從テ其記載事項ノ部分ニ檢事ノ認印ナキモ無効ニ非ス

○豫審請求書中或文字ヲ挿入削除シタルトキハ作成者タル檢事ハ一箇ノ認印ヲ以テ其挿入及ヒ削除ノ兩者ニ兼用シ得ルモノトス

(同主旨)

同一欄内ニ文字ノ挿入及ヒ削除アリテ連續シタル文字ナルトキハ一箇ノ押印ヲ以テ二箇ノ變更ヲ證スルモ無効ニ非ス

○證人ノ宣誓書ハ裁判所書記之ヲ證人ニ讀聞カセ署名捺印セシムヘキモノニシテ證人自ラ之ヲ作成スルモノニ非サレハ該書面ニ於ケル文字ノ挿入削除ハ證人ニ於テ之ヲ爲シ得ヘキ限ニ在ラス

○豫審判事カ取調ノ便宜上作成スル計算表ハ法律ノ規定ニ依ル文書ニ非サレハ貼紙ヲ爲シ文字ヲ訂正スルモ無効ニ非ス

○刑事訴訟法上裁判所書記カ調書ノ謄本抄本ヲ作成スルニハ同法第二十条第二十一條ノ規定ヲ遵守スルヲ以テ足り謄本若クハ抄本ニ於テ原本カ規定ノ形式ヲ遵守シテ作成セラレタル形跡ヲ表示スルヲ要セス
○豫審請求書ノ作成場所ヲ記載シタル文字挿入ノ部ニ認印ヲ缺如シタル

トキハ該請求書ハ作成場所ノ記載ヲ缺ク無効ノモノナリトス從テ之ニ依リ提起セラレタル公訴ハ不適法ノモノナレハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲ササルヘカラス

○刑事訴訟法第二十一條ニハ削除ノ字數ヲ記載スル方法ニ付キ特別ノ規定ナケレハ一葉中數箇所ニ於テ各數字ヲ削除シタルトキハ各別ニ字數ヲ表示セサルモ其削除字數ノ幾何ナルヤヲ知了シ得ヘキ相當ノ位置ニ於テ一括シテ字數ヲ揭示スルモ違法ニ非ス

○刑事訴訟法第二十一條ニ所謂欄外ノ記入トハ書類ノ作成者ニ於テ本文ニ入ルヘキ文詞ヲ本文ノ列外ニ記入シタルコトヲ謂フモノナレハ證人カ訊問調書ニ於ケル用紙ノ野外ニ署名捺印シタルハ同條ニ所謂欄外ノ記入ニ非ス

(同主旨)

證人豫審調書ノ末尾ニ於テ用紙ノ野外ニ證人ノ署名アルモ之ヲ欄外ノ記入ト云フヘカラサルノミナラス縱令欄外ノ記入ナリトスルモ證人ノ署名ニ調書ノ作成者タル裁判所書記ヲシテ捺印セシムヘキ規定存セサルハ之ヲ以テ無効ノ調書ナリト云フヲ得ス

○刑事訴訟法ニ所謂文字ノ挿入トハ行文中ノ文字ト文字トノ間ニ加フヘキ文字ヲ其行ノ字列以外ニ記載スルコトヲ謂フモノナルヲ以テ字列中

四五

九三九

元

一六一〇

二

四七五

四

一八四

四三

一

四三

三〇

三五

九

二六

四四

二四

四四

五三

四五

五八三

○スルコト能ハサルトキハ書記之ヲ代署シ其代署ノ事由ヲ附記スルノミ
ヲ以テ足り捺印スルコト能ハサル事由ノ附記ヲ要スルモノニ非ス

四 四
六 四
四〇〇
九五四

○署名ハ必スシモ姓及ヒ名ヲ併記スルコトヲ要スルモノニ非ス

(同主旨)
刑事訴訟法上署名ヲ要スル場合ニ於テ署名者ノ名ヲ自署シアル以上ハ其書類ノ真正ニ對スル
擔保ハ十分ナリ從テ必スシモ氏ト名ト共ニ自署タルコトヲ要セス
署名ハ書類ノ真正ヲ擔保スル爲メニ之ヲ爲スモノナレハ常ニ必スシモ氏ト名ト自署スルコ
トヲ要セス

刑事訴訟法上署名ヲ要スル場合ニ於テ署名者カ其名ノミヲ用井姓ヲ記セサルモ書面ノ真正ニ
對スル擔保ハ十分ナルヲ以テ必スシモ氏ト名ト共ニ自署スルコトヲ要セス

四二 一五五二
四二 四三八

○氏名ノ傍ニ「自書不能ニ付キ代書」ト記載セルモ其代書者ノ署名ナキ告
訴狀ハ無効ナリ從テ告訴ヲ待テ受理スヘキ事件ニ對シテハ告訴ナキト
同一ナルヲ以テ公訴不受理ノ判決ヲ爲スヘキモノトス

三五 二六

○被告人無筆ニ非サルニ判事ノ問ニ對シテ無筆ナル旨ヲ答ヘタルトキハ
書記ヲシテ其氏名ヲ代署セシムルモ不法ニ非ス

二六 九二

○無筆ニシテ署名スルコト能ハサル者ニ對シ單ニ捺印セシメタルノミニ
シテ代署ヲ爲ササル豫審調書ハ無効ナリ

三三 三四

○刑事訴訟法第三百三十一條第三項末段ハ其總則タル法條(刑事訴訟法第

三十一條ノ二)ノ改正アリタル爲メ自改廢ニ歸シタルモノトス從テ
證人訊問調書ニハ本人署名シ能ハサル旨ヲ以テ書記代署シタルコトノ

三五 二二 二二六

○官吏公吏ニ非サル者ノ署名捺印スヘキ場合ニ於テ署名捺印スルコト能
ハサルトキハ官吏ニ於テ代署シ代署ノ事由ヲ附記スルヲ要スルハ刑事

訴訟法第二十一條ノ二ニ規定スル所ナルモ捺印スルコト能ハサル理由
ヲ附記スヘシトノ規定アルコトナシ從テ捺印スルコト能ハサル事由ノ

三六 七〇九

附記アラサルモ之ヲ以テ無効ノ書類ナリト云フヲ得ス

三六 七〇九

(同主旨)

刑事訴訟法第二十一條ノ二ニハ署名捺印スルコト能ハサルトキハ立會人ヲシテ代署セシメ立
會人ハ代署ノ事由ヲ記載シ云トアルノミニシテ捺印スル能ハサル事由ノ記載ヲ要スル文詞
アルコトナシ從テ捺印ナキ理由ノ記載ニ欠ケル所アリトスルモ違法ニ非ス

三六 七五

○豫審調書ノ末尾ニ被告人何某ト署名シ其傍ニ「被告人無筆ニ付キ書記
氏名ヲ代書ス」ト附記シタル以上ハ書記ノ捺印ナキモ無効ニ非ス

四二 九一〇

○證人ノ豫審調書ニ特ニ證人ノ署名不能ノ事由ヲ記載セス單ニ書記代署
トノミ記載シアルモ右記載ハ證人カ署名不能ニ付キ書記其氏名ヲ代書
シタルノ意ニ解シ得ヘケレハ刑事訴訟法第二十一條ノ二ニ所謂事由ヲ

附記シタルモノト云フヲ得ヘシ

〔第二十四條〕

(參照)

刑事訴訟法ニ於ケル親屬トハ刑法ノ親屬例ニ列記シタルモノヲ云フ(刑事訴訟法第二十四條) 從テ證人資格ニ關スル刑事訴訟法第二百二十三條ノ親屬ハ民法上ノ總テノ親族ヲ指稱シタルモノニ非ス

第二編 裁判所

第一章 裁判所ノ管轄

○豫備ノ軍籍ニ在ル者カ召集中ノ身分ナリシ故ヲ以テ普通裁判所ノ管轄ニ屬スルモノニ非ストシ管轄違ノ判決ヲ言渡サレタル場合ニハ一方ニ於テハ其判決確定スルモ他方ニ於テ被告カ一旦召集解除ト爲リ身分ニ變更ヲ生シタル以上ハ普通人トシテ之ヲ取扱フヘキハ當然ニシテ爾來其裁判籍ハ普通裁判所ニ屬スルモノトス

○地方裁判所ノ本支部ハ互ニ獨立シテ裁判管轄ヲ有スルモノニ非サレハ此間刑事訴訟法第二十五條乃至第二十七條ノ規定ヲ適用スヘキモノニ非ス

○其犯者ニ對スル公訴力審級ヲ異ニスル裁判所ニ各別ニ繫屬シタル場合ニ於テハ豫審又ハ公判著手ノ前後ヲ問ハス上級裁判所ニ於テ併合審判スヘキモノト解スルヲ相當トス

(參照)

地方裁判所ノ本部支部互ニ獨立シテ裁判管轄ヲ有スルモノニ非ス故ニ或事件カ其本部タル地方裁判所ノ管轄ニ屬スル以上ハ其支部ハ縱令明治二十三年司法省令第三號ノ規定ニ依リ其事件ヲ取扱フヘキモノニ非サルニモセヨ之ニ對シ法律上管轄違ノ判決ヲ爲スヘキモノニ非ス 被告事件ノ管轄ヲ定ムルハ罪質ニ依ルヘキモノニシテ減輕スヘキ罪名ニ依ルヘキモノニ非ス 裁判所構成法及ヒ刑事訴訟法中地方裁判所支部ノ管轄ヲ制限シタル規定ナケレハ支部ニ於テ重罪ノ裁判ヲ爲スハ違法ニ非ス唯司法省令ヲ以テ重罪事件ノ公判ハ支部ヲシテ取扱ハシメサルモ是レ單ニ事務ノ分配ヲ定メタルニ過キサレハ縱令該規定ニ違背スルモ之カ爲メニ其裁判ヲ不法トスルヲ得ス

〔第二十五條〕

〔第二十五條〕

○刑事訴訟法第二十五條及ヒ第二十六條ハ裁判所ノ管轄ニ關スル二原則ヲ定メタルモノトス故ニ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分スヘキ犯罪ヲ除クノ外如何ナル犯罪ト雖モ總テ此二條ニ依リ其管轄ヲ定メサルヘカラス

刑事訴訟法 裁判所 裁判所ノ管轄

七	二八	二九	四二	三七
四二四	四〇五	六三	一〇九七	一〇五〇

〔第二十六條〕

○甲地ニ於テ偽造文書ヲ行使シ之ニ因リ乙地ニ於テ金錢ヲ騙取セントシテ遂ケサリシ場合ニハ甲乙兩地ノ裁判所ハ孰レモ犯罪地ノ裁判所トシテ共ニ管轄權ヲ有ス

○刑事訴訟法第二十五條及ヒ第二十六條ハ裁判所ノ管轄ニ關スルニ原則ヲ定メタルモノトス故ニ陸海軍ニ關スル法律ヲ以テ處分スヘキ犯罪ヲ除クノ外如何ナル犯罪ト雖モ總テ此二條ニ依リ其管轄ヲ定メサルヘカラス

○鹽專賣法施行ノ際販賣ノ目的ヲ以テ鹽ヲ所有スル者カ申告義務ニ違背シタルトキハ其犯罪ノ場所ハ申告ヲ受クヘキ官廳ノ所在地ナリトス

○刑事訴訟法第二十六條ニ所謂被告人所在地トハ汎ク被告人ノ現在地ヲ指稱スルモノトス從テ縱令其住所ト雖モ之ニ現在セサルトキハ之ヲ以テ被告人所在地ト云フヲ得ス

(同主旨)

刑事訴訟法第二十六條ノ被告人所在地トハ被告人ノ現在スル所ノ地ヲ云フモノニシテ其本籍地ト雖モ被告人現在セサルトキハ之ヲ所在地ト云フコトヲ得ス
刑事訴訟法第二十六條ニ所謂被告人所在地トハ單ニ其住所地ノミヲ指シタルモノニ非スシテ廣ク現在地ヲ包含シタルモノトス

二九	二五	四	三元	三七	七
一	一		五八一	二四〇	四五
九二	九五	六八〇			

刑事訴訟法第二十六條ニ所謂被告人所在地トハ現ニ被告人ノ在ル所ノ謂ニシテ住所ニ限ルモノニ非ス

○當選妨害ノ目的ヲ以テ新聞紙ニ依リ議員候補者ニ關シ虛偽ノ事項ヲ公ニスル罪ニ付テハ該新聞紙ノ發行地ハ勿論其配付アリタル地ハ凡テ刑事訴訟法第二十六條ニ所謂犯罪ノ地ナリトス

○起訴ノ當時被告人カ一定ノ土地ニ現在シタル以上ハ其任意ニ出テタルト否ト又適當該事件ノ取調ノ爲メ現在セルト否トヲ問ハス其土地ノ裁判所ハ被告事件ニ付キ管轄權ヲ有スルモノトス

(同主旨)

甲被告事件ニ付キ監獄署ニ勾留中ノ被告人ニ對シ更ニ乙被告事件ニ付キ其監獄署ヲ以テ被告ノ所在地ナリトシ監獄署所在地ノ裁判所ニ公訴ヲ提起シタルハ不法ニ非ス
被告人カ一定ノ土地ニ在ルハ其任意ニ出ツルト將タ他事件ノ爲メ強制セラレタルトナ間ハス苟モ被告人ノ所在地ナル以上ハ其土地ノ裁判所ニ於テ被告事件ノ管轄權ヲ有スルモノトス
刑事訴訟法第二十六條ニ所謂所在地タルニハ多少ノ時間滯留スルノ意思アルコトヲ要セス被告人ノ其地ニ在ルコトカ任意ニ由ルト強制ニ出ツルトニ依リ異同アルコトナシ從テ苟モ起訴當時被告人カ現ニ在ル地ノ裁判所ハ犯罪事件ニ付キ管轄權ヲ有スルモノトス

〔第二十七條〕

○刑事訴訟法第二十七條ニ所謂最初豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ト

三	三元	三六	五	四	三二
					六
	二五七二	八六九	二二二六	七六七	一四

ハ既ニ適法ナル公訴ノ提起アリテ豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所ヲ云フ

○刑事訴訟法第二十七條ハ同法第二十六條規定ノ結果一ノ犯罪事件ニ付キ數箇ノ管轄裁判所ヲ生スヘキ場合アルヲ豫想シ此場合ニ於ケル裁判所ノ管轄ヲ一定スルノ旨趣ニシテ數箇ノ犯罪事件カ數箇ノ裁判所ノ管轄ナル場合ニ關スル規定ニ非ス

○裁判所カ被告事件ニ付キ管轄違ノ言渡ヲ爲シタル場合ニ在リテハ縱令同裁判所判事ニ於テ最初豫審ニ著手シタリトスルモ刑事訴訟法第二十七條ノ規定ニ該當セス

○刑事訴訟法第二十七條ハ單ニ裁判所ノ管轄ニ關スル規定ニシテ犯罪ノ搜查權ニ何等ノ制限ヲ加ヘタルモノニ非ス從テ數箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル犯罪アリタル場合ニ於テ其中既ニ豫審若クハ公判ニ著手シタル裁判所アリト雖モ犯罪地若クハ被告人所在地ニ於ケル司法警察官ノ搜查權ニ何等ノ變更ヲ生スルモノニ非ス

【第二十八條】

○數人共犯ノ場合ニ於テ其犯人ヲ同一ノ裁判所ニ集合シテ審判シ之ヲ分難スヘカラサルハ刑事訴訟法第二十八條ノ律意ヲ推究シテ明白ナリ便

チ共犯中ノ甲者ヲ重罪犯ナリトシテ地方裁判所ノ管轄ニ歸シタルモノナレハ共犯中ノ乙者ハ輕罪犯ナルモ同裁判所ノ管轄ニ屬セサルヘカラス

○二箇ノ裁判所ノ管轄ニ屬スル正犯數名アル場合ニ於テハ刑事訴訟法第二十八條第二項ノ規定ニ依リ最初豫審ニ著手シタル裁判所之ヲ管轄スヘキモノトス從テ正犯ノ一名免訴セラレタリト雖モ之カ爲メ一旦定マリタル裁判管轄ヲ變更スヘキモノニ非ス

○刑事訴訟法第二十八條第二項ニ所謂數箇ノ裁判所トハ同第二十七條ト等シク同等ナル數箇ノ裁判所ノ謂ニシテ裁判所ノ審級ヲ異ニスル場合ヲ指稱スルモノニ非ス

【第三十條】

○刑事訴訟法第三十條ハ海船内ノ犯罪ニ付キ同第二十六條ノ裁判管轄ヲ擴張シタルモノニシテ專屬管轄ヲ定メタルモノニ非ス

（同第三十條）

刑事訴訟法第三十條ノ旨趣ハ海船内ノ犯罪ニ付キ裁判管轄ノ範圍ヲ擴張スルニ在リテ專屬管轄ヲ定メタルモノニ非ス

○刑事訴訟法第三十條ニ所謂最初ニ著船シタル地トハ船舶ノ進退ヲ司ル

二六

五

二二六

三六

四三

三七

一三四

四四

二四七

二七

三二六

三三

一八

七

四四

四一

一七七

三七

一〇五〇

者ノ意思ニ依リ到著シタル地ノ外不可抗力ニ因リ到著シタル地ヲモ包含スルモノトス

第三十一條

第三十一條

○數箇ノ裁判所中何レノ裁判所カ管轄ナルヤ疑ハシキトキハ管轄裁判所ノ指定ヲ申請スヘキモノナレトモ數箇ノ裁判所中最初ニ豫審又ハ公判ニ著手シタル裁判所アルトキハ其管轄ニ屬スルモノナルヲ以テ管轄裁判所ノ指定ヲ申請スヘキモノニ非ス

第一章 裁判所職員ノ除斥及ヒ忌

避、回避

第四十條

第四十條

○刑事訴訟法第四十條ハ其職務ナル概括的ノ文詞ヲ用キ毫モ制限ヲ加ヘサルヲ以テ苟モ公判裁判所ノ判事タル資格ニ於テ爲ス所ノ職務ハ其事ノ下調ニ關スルト公判ノ審問證據調若クハ辯論ニ關スルト被告事件ノ判決又ハ其言渡ニ關スルトニ論ナク總テ之ニ包含スルモノトス
○臨時檢事ノ代理トシテ起訴ノ手續ヲ爲シタル判事ハ其事件ニ付キ職務ノ執行ヨリ除斥セラレヘシトノ法規ナキヲ以テ當然除斥セラレヘキモノ

ノニ非ス

○偽證ニ依リ害ヲ被ムル者ハ國家ノ裁判權其者ニシテ判事又ハ裁判所書記ニ非ス從テ虛偽ノ證言ヲ聽キタル判事及ヒ裁判所書記ハ偽證ノ被害者トシテ偽證事件ニ付キ其職務ノ執行ヨリ除斥セラレヘキモノニ非ス
○刑事訴訟法第四十條第一號ニ所謂「判事被害者ナルトキ」トハ審理スヘキ被告事件ノ内容ヲ成ス犯罪行爲ニ因リテ判事カ其法益ヲ侵害セラレタル場合ヲ指稱スルモノトス

○豫審終結ニ干與シタル判事カ重ネテ其公判ニ干與シタルハ違法ナリ
○控訴審ニ於テ第一審判決ヲ取消シ公訴不受理ヲ言渡シタル事件ニ對シ檢事新タニ公訴ヲ提起シ之ニ依リテ判決ヲ下シタル場合ニ在リテハ第一審裁判所ノ判事前後同一ナルモ不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタリト云フヲ得ス

○刑事訴訟法第四十條第四號ニ所謂（不服ヲ申立テラレタル裁判ノ前審ニ干與シタルトキ）トハ下級審ノ審判ニ干與シタル判事カ上級審ノ審判ニ干與スル場合ヲ謂フ

(同第三十條)

前審ニ干與シタル判事ニシテ重ネテ第二審ヲ負擔審理シタルハ法律ノ規定ニ違背シタルモノ

三	三	三六	三六	三
二	一	二六	二六	二
九	二	二二	二二	九

二	二	二五	二五	二
六	六	二九	二九	六
八三	八三	五七	五七	八三

(參照)

豫審終結ニ干與シタル判事ハ公判ノ時除斥セラルヘシトノ規定ハ其豫審終結ヲ爲シタル事實ノ判事ニ適用スヘキモノニシテ會議局ノ判決ニ對スル上告ヲ裁判シタル大審院ノ判事ニ適用スヘキモノニ非ス
重罪控訴納金免除ノ申請ニ對スル決定ハ原判決ノ前審ニ非ス從テ其決定ニ干與シタル判事ハ法律上除斥セラルヘキモノニ非ス

〔第四十一條〕

○甲ニ對スル判決ニ於テ甲ハ乙ト共ニ犯罪ヲ爲シタリトノ事實ヲ記載シタレハトテ之ヲ以テ直ニ乙ヲ有罪ナリト豫斷シタルモノニ非ス從テ乙ニ對スル偏頗ナル裁判ヲ爲スコトヲ疑フニ足ルヘキ狀況アルモノト云フヲ得ス

〔第四十二條〕

○忌避ノ申請ヲ不當ナリト宣言スル決定ニ對シテハ即時抗告ヲ爲スコトヲ得ヘキモノニシテ不變期間ハ七日ナリトス
○勾留ヲ受ケタル被告人上訴ヲ爲スニハ其申立書ヲ監獄署長ニ差出スヘキ旨ノ規定(刑事訴訟法第二百四十五條)アルモ忌避ノ申請ニ付テハ其規定アルコトナシ從テ忌避申請提起ノ效力ハ申請書カ裁判所ニ到達シタルトキニ生スルモノトス

○被告人ノ審問ヲ終リタル後判事ヲ忌避スルノ申請ヲ爲シタル場合ト雖モ其忌避ノ原因ヲ覺知シタルハ被告人ノ審問ヲ終リタル後ナルコトヲ疏明シタルトキハ其申請ハ民事訴訟法第三十五條第三項ニ因リ適法ナリトス

○忌避ノ裁判作成ノ形式ニ付テハ刑事訴訟法中何等ノ規定ナケレハ其作成者タル判事ノ署名捺印アルヲ以テ足り書記ハ其裁判ニ干與スルモノニ非サレハ法律ニ特別ノ明文アル場合ノ外特ニ署名捺印スルノ要ナシ
○被告カ審問終了後裁判長ニ對シ偏頗ノ忌避ヲ爲シタルモ其審問後ニ忌避ノ原因ヲ覺知シタルコトヲ疏明セサルトキハ該申請ヲ棄却スヘキモノトス

○忌避セラレタル判事ハ忌避申請ノ完結セサル間ハ被告事件ノ審理裁判ニ干與スルヲ得スト雖モ其裁判所ニ於テ該事件ノ審理裁判ヲ爲スハ違法ニ非ス

〔第四十三條〕

○相被告人ノ辯護人ヨリ忌避ノ申請ヲ爲シタレハトテ申請ヲ爲ササル他ノ被告人ニ對シ辯論ノ中止ヲ爲スヲ要セス從テ裁判所ハ事件ヲ分離シ訴訟ヲ進行スルモ違法ニ非ス

三五	四	四	四	三六	三五	二九	二四
四					二	三	二
一〇六	五七	九一	三五七	八八九	四二	八九	二九

○ 検事ハ非現行犯ノ場合ニ於テ檢證調書ヲ作り及ヒ鑑定書ヲ作ラシムルノ權能ナシ從テ其調書竝ニ鑑定書ヲ罪證ニ供シタル判決ハ不法ナリ

(同主旨)

非現行犯ノ場合ニ於テ犯罪捜査ノ目的ニ出ツルモ檢事ニ於テ被告人ヲ訊問シ調書ヲ作ルコトヲ得サルモノトス故ニ檢事ノ職權外ニ作りタル違法ノ調書ヲ斷罪ノ證據トシテ判決シタルハ失當ヲ免レズ
非現行犯ノ場合ニ於テ檢事ハ訊問調書ヲ作ルノ權能ナシ從テ其調書ヲ罪證ニ供シタル判決ハ不法ナリ

○ 檢事カ證據捜査ノ爲メ醫師ノ陳述ヲ聽キ其書面ヲ差出サシメタルニ過キサルトキハ其書面ハ刑事訴訟法ニ所謂鑑定書ニ非ス

○ 非現行犯ノ場合ト雖モ犯罪ノ捜査上必要ナルトキハ檢事ハ持主ノ承諾ヲ得テ墳墓ヲ發掘シ死體ヲ檢スルノ職權アルモノトス

○ 檢事ハ起訴ノ前後ヲ問ハス捜査處分ヲ爲シ得ヘク且其捜査上醫師ヲシテ屍體ヲ解剖檢査セシムルコトヲ得ルモノトス

○ 親告罪ノ場合ト雖モ檢事ハ告訴ノ有無ヲ問ハス犯罪ヲ捜査スルノ職權アリ故ニ該犯罪ニ對スル公訴ノ提起カ告訴ニ基カサリシ故ヲ以テ公訴不受理ノ確定判決ヲ受クルモ之カ爲メ其事件ニ付キ檢事ノ爲シタル捜査處分ヲ無効ナラシムル結果ヲ來スモノニ非ス

○ 檢事カ豫審判事ニ先チ現行犯罪アルコトヲ知リタルトキト雖モ豫宜ニ依リ先ツ捜査上ノ處分ヲ爲シ而シテ後豫審ヲ請求シ若クハ一旦豫審處分ニ著手シ爾後之ヲ中止シテ捜査處分ヲ爲スコトヲ妨ケス

○ 檢事ハ其所屬ノ檢事局カ土地ノ管轄ヲ有スル事件ニ付テハ起訴ノ前ナルト後ナルト又事件カ何レノ審級ノ裁判所ニ繫屬スルトヲ問ハス捜査權ヲ行使スルコトヲ得ルモノトス

(同主旨)

檢事ハ起訴後ト雖モ捜査處分ヲ爲スコトヲ得
被告事件ノ確定セサル間ハ檢事ハ捜査ノ職權ヲ有ス從テ事件カ第二審ニ繫屬スル場合ト雖モ第一審ノ檢事ハ引續キ其職權ヲ行フコトヲ得

○ 檢事ハ裁判所構成法第六條第三項ニ定メタル檢事局ノ管轄區域内ニ限リ捜査處分ヲ爲スノ職權ヲ有スルモノトス

○ 檢事カ犯罪捜査ノ爲メ鑑定ヲ委嘱スルハ法ノ禁セサル所ニシテ其委嘱ヲ受ケタル者カ任意ニ作成シタル鑑定書ハ心證判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得ルモノトス

(第四十七條)

『第四十七條』

○ 司法警察官ハ非現行犯ノ場合ニ於テ訊問調書ヲ作成スルノ權能ナシ從

刑事訴訟法 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審 捜査

二六	四	五	二六	二	一九
二五	五	二七	二五	二	一九
二四	一	四九	二四	二	一九
二三	二	一六	二三	二	一九
二二	二	一六	二二	二	一九
二一	二	一六	二一	二	一九
二〇	二	一六	二〇	二	一九
一九	二	一六	一九	二	一九
一八	二	一六	一八	二	一九
一七	二	一六	一七	二	一九
一六	二	一六	一六	二	一九
一五	二	一六	一五	二	一九
一四	二	一六	一四	二	一九
一三	二	一六	一三	二	一九
一二	二	一六	一二	二	一九
一一	二	一六	一一	二	一九
一〇	二	一六	一〇	二	一九
九	二	一六	九	二	一九
八	二	一六	八	二	一九
七	二	一六	七	二	一九

關スル意見ヲ徵スルハ違法ニ非ス

元 一六〇

○司法警察官ハ非現行犯事件ニ付キ豫審判事ニ屬スル強制處分ヲ施用スルヲ得スト雖モ捜査處分ノ對手ノ任意ナル場合ニ於テハ一切ノ處分ヲ爲スヲ得ルモノトス從テ被告人其他ノ關係人ニ對シ質問ヲ發シ關係事項ニ付キ答述ヲ徵スルヲ妨ケス

二 一〇〇

○司法警察官カ其捜査ノ顛末ヲ後日ニ保存センカ爲メニ其問答ヲ錄取スルト問ヲ省畧シ應答ノ旨趣ヲ要約シテ錄取スルトハ一ニ其自由ニ屬スルモノナルヲ以テ單ニ其聽取書ノ問答體ナルノ故ヲ以テ強制訊問アリタルモノト斷スルヲ得ス

二 一〇〇

○刑事訴訟法第四十七條第二項ハ其定ムル官吏公吏ノ犯罪捜査ノ職權行使ニ付キ檢事ノ補佐トシテ其一般的指揮命令ニ服従スヘキモノナルコトヲ規定シタルニ止マリ捜査上ノ各種ノ行動ニ付キ事毎ニ豫メ檢事ノ指揮ヲ仰カサルヘカラサルコトヲ命シタルモノニ非ス

二 一三九

(同主旨)

司法警察官ハ犯罪ノ捜査ヲ爲スニ付キ事毎ニ檢事ノ指揮ヲ待ツテ要セス
○司法警察官ノ聽取書ノ原本ハ法規ノ命令ニ基キ之ヲ作成スルモノニ非サレハ其原本若クハ抄本ノ作成ニ付テハ固ヨリ法規ノ命令スルモノナ

二九 三 七

シト雖モ又之ヲ禁止スルモノナキヲ以テ司法警察官カ該抄本ヲ作成スルハ違法ニ非ス

三 一八九

○司法警察官ニ於テ犯罪現場ノ實況ヲ見聞スルカ如キハ其捜査ノ職權上當然爲シ得ヘキ所ナレハ之カ見聞ノ結果ヲ記述シタル文書ハ裁判上證據資料タルノ價值アルモノトス

三 一九九

○刑事訴訟法ハ犯罪ノ捜査ニ關シ強制ノ方法ヲ用ユルコトヲ許ササルノ外何等ノ制限ヲ規定セサレハ司法警察官カ捜査上醫師ヲシテ任意ニ屍體ヲ檢査鑑定シ其結果ヲ文書ニ記載シテ提出セシムルハ不法ニ非ス

三 二六一

○職權ニ依テ代理セラレタルモノハ本官ト同一ノ資格ヲ有ス是故ニ警部代理トシテ作成シタル巡査部長ノ檢證調書ハ法律上無効ニ非ス

二九 五 三四

○巡査ハ獨立シテ犯罪ヲ捜査スルノ權限ヲ有セサレトモ告訴ノ受付ヲ爲スノ職責アルモノトス

四二 一〇五

○巡査ハ明治十四年司法省布達甲第五號及ヒ同年司法省達丙第十三號ニ依リ司法警察事務ニ關シ警部ヲ代理シ得ヘキヲ以テ巡査カ司法警察官タル警部ヲ代理シ捜査上聽取書ヲ作成スルハ違法ニ非ス

六 八九

(同主旨)

巡査ヲシテ警部代理ヲ爲サシムルコトヲ得ルハ明治十四年十月司法省達ノ定ムル所ナリトス

從テ警部代理ヲ爲シタル巡査ハ當然司法警察ノ事務ヲ行フノ資格ヲ有ス
聽取書作成ノ如キ處分ハ司法警察官タル警部自身ニ非サレハ之ヲ爲シ得ヘカラサル性質ノモ
ノニ非スシテ司法警察官ノ補助機關モ亦之ヲ代理シテ作成シ得ヘキモノトス

○巡査ハ司法警察官ノ補助機關ナルカ故ニ司法警察官ノ命ニ依リ犯罪ノ
捜査ヲ爲スコトヲ得ルモノトス從テ事實ヲ記載シタル巡査ノ捜査報告
書ヲ罪證ニ供スルハ毫モ不法ニ非ス

○林務官ハ山林盜伐事件ニ付キ被害現場ニ臨ミ被害物件ノ調査ヲ爲スノ
職權ヲ有ス

○林務官ノ職ニ在ル者非現行犯ノ場合ニ作成シタル檢證調書ハ無効ナル
ト同時ニ之カ附屬圖面モ亦檢證繪圖面トシテハ無効ナルヲ以テ之ヲ斷
罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリ

(同主旨)

司法警察官ハ非現行犯ノ場合ニ於テ檢證處分ヲ爲ス職權ナシ隨テ其作成シタル檢證調書ハ無
効ナリ

(參照)

刑事訴訟法第四十七條第五號ニ所謂林務官トハ官名ヲ指シタルモノニ非スシテ林務ニ關スル
職責ヲ有スル官吏ヲ總稱シタルモノナリ從テ營林主事補モ亦同條ニ所謂林務官ナルヲ以テ司
法警察官トシテ假豫審處分ヲ爲スノ職權ヲ有ス
營林主事補ハ刑事訴訟法第四十七條ニ所謂林務官ナリ故ニ其森林ノ保護上司法警察官トシテ

常ニ犯罪捜査ノ職權ヲ有ス
御料局技手ハ判任官ニシテ出張所長ハ御料局支廳職制御料局名古屋支廳出張所庶務規程ニ依
リ御料財産ナル御料林ノ林務ニ關スル職責ヲ有ス從テ刑事訴訟法第四十七條第五ノ林務官即
チ司法警察官トシテ犯罪ヲ捜査スル權限ヲ有スル官吏ナリトス

第一節 告訴及ヒ告發

第四十九條

第四十九條

- 商店ノ支配人カ自己ノ管理スル物品ヲ騙取サレタル場合ニ於テ其管理
ノ責任アル支配人ハ自ラ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘキモノトス
- 他人ノ妻ヲ脅迫シテ其夫ノ物品ヲ強取シタル所爲ニ對スル被害者ハ妻
ニ非スシテ夫ナリトス從テ其夫ノ告訴調書ハ法律上無効ニ非ス
- 驛長若クハ其代理者ハ管轄内ニ起リタル事件ニ付キ告訴ヲ爲スノ權能
ヲ有ス
- 一旦適法ニ作成セラレタル告訴調書ハ告訴取下ノ爲メ無効ニ歸スヘキ
モノニ非ス
- 他人ニ委任シテ告訴ヲ提起シタル場合ニ於テ其委任狀ノ添附ナキハ告
訴狀ノ成立ニ關スル問題ニ屬シ告訴狀其物ノ證據力ニ付テハ何等ノ影
響ヲ及ホスモノニ非ス

三四	九	三〇	一〇	三三	二七
三六	一	二五	五	四六	一〇一
三九	二	二九	二	一〇一	八四八
四一	二	二九	二	一〇一	八四八
四二	二	二九	二	一〇一	八四八
四三	二	二九	二	一〇一	八四八
四四	二	二九	二	一〇一	八四八
四五	二	二九	二	一〇一	八四八
四六	二	二九	二	一〇一	八四八
四七	二	二九	二	一〇一	八四八
四八	二	二九	二	一〇一	八四八
四九	二	二九	二	一〇一	八四八

三六	二	三六	二	三六	二
三七	二	三七	二	三七	二
三八	二	三八	二	三八	二
三九	二	三九	二	三九	二
四〇	二	四〇	二	四〇	二
四一	二	四一	二	四一	二
四二	二	四二	二	四二	二
四三	二	四三	二	四三	二
四四	二	四四	二	四四	二
四五	二	四五	二	四五	二
四六	二	四六	二	四六	二
四七	二	四七	二	四七	二
四八	二	四八	二	四八	二
四九	二	四九	二	四九	二

- 警察署ニ爲シタル告訴ハ司法警察官ニ爲シタル告訴ナリ
- 妻カ他人ニ毆打セラレ創傷ヲ受ケタルトキハ夫モ亦被害者ナリトス從テ其夫カ爲シタル告訴ハ有效ナリ
- 刑事訴訟法上告訴ノ提起ニ付キ何等ノ區別アルコトナシ從テ其親告罪ニ對スルモノト否トヲ問ハス總テ檢事又ハ司法警察官ニ爲スヘキモノニシテ裁判所ニ爲スヘキモノニ非ス
- 外國人カ其國語ヲ以テ記載シタル告訴狀ハ有效ナリ
- 犯罪地又ハ被告人所在地ノ檢事ハ事物ノ管轄權ナキ場合ト雖モ告訴ヲ受クルノ職權ヲ有ス
- 告訴ハ親告罪ニ對スル訴追ノ要件ナルモ其成立要件ニ非ス從テ被害者ノ告訴アルト否トハ犯罪ノ成否ニ何等ノ影響ナシ
- 新聞紙上ノ記事ヲ以テ誹毀セラレタル者カ責任者ノ何人ナルカヲ確知シ能ハサル場合ニ告訴ヲ提起スルハ其責任者ニ對シ訴追ノ上相當ノ處分アラントコトヲ求ムルニ外ナラス從テ告訴狀ニ指摘セラレサル者ト雖モ實際責任者ト認メタル以上ハ之ヲ處罰スヘキハ當然ナリ
- 妻ノ名譽ヲ毀損シタル行爲ニ對シ夫カ自己及ヒ其一族ノ名譽ヲ毀損シタルモノト爲シ之カ告訴ヲ爲スモ妻ノ名譽毀損ニ對スル告訴ノ效力ヲ

三三	九
三四	三
三六	七三六
三七	八四八
三七	一五〇
三七	一八八〇

生スルモノニ非ス從テ該犯罪ニ對シテハ訴訟條件ヲ缺如シ本案ノ判決ヲ爲ス能ハサルモノトス

- 告訴ハ親告罪ニ關スルト否トヲ問ハス犯罪アルコトヲ捜査官ニ申告シ處罰ヲ求ムル意思ヲ表示スルヲ以テ足り必スシモ犯罪人ヲ指名スルコトヲ要セス

(同主旨)

親告罪ノ場合ト雖モ加害者ノ氏名不詳ナルトキハ之ヲ告訴狀ニ記載スルヲ必要トセスニ申親告罪ニ對スル告訴ハ刑事訴訟手續ニ準據シ告訴權者ニ於テ申告ニ係ル罪ノ犯人ヲ處罰セシコトヲ要求スル意思ヲ表示スルハ足り必スシモ其犯人ノ何人タルコトヲ指摘スルヲ要セス

- 告訴ハ被害者ヨリ爲ス犯罪ノ申告ナルヲ以テ犯罪ニ對シテ成立スルモノニシテ犯人ニ對シテ成立スルモノニ非ス從テ數名ノ共犯人アル親告罪ニ關シ特ニ共犯人中ノ一人ニ對シテノミ處罰ヲ求メ其他ノ者ニ對シテハ處罰ヲ求メサルコトヲ明言スルモ其告訴ノ效力ハ共犯人全體ニ及フモノトス
- 告訴ハ法律ニ依リ認メラルル一ノ權利タルト同時ニ其行使ニ付テハ法律上ノ責任ヲ伴フモノナレハ告訴狀ハ常ニ何等ノ信憑力ナキモノト論斷スルヲ得ス

四四	一〇一一
四四	一六九三
三三	八六
三三	三四三
元	一五六九
三	二六一

○告訴ハ告訴人ノ自發意思ニ因ルト否トヲ問ハス苟モ加害者ノ犯罪行為ヲ當該官署ニ申告スルノ眞意ニ出テタル以上ハ其有效ナルコト論ヲ竣タス

○他人ノ妻ヲ強姦シタル行為ハ其眞操ニ對スル本夫ノ權利ヲ侵害スルモノナレハ本夫モ亦被害者トシテ告訴ヲ爲スノ權ヲ有ス從テ其強姦ノ告訴狀ニ本夫トシテ連署シタルハ刑事訴訟法第四十九條ニ據リ告訴ノ意思表示ヲ爲シタルモノト認ムルヲ相當トスルカ故ニ其姦淫事實ノ認定如何ニ依リ姦通罪ニ對シテモ亦有效ノ告訴ト爲スニ妨ナキモノトス

○苟モ親告罪ニ對シ告訴アル以上ハ其告訴狀ニ表示セル加害者ノ何人タルヲ問ハス現實ノ加害者ニ對シ其效アルモノトス

○告訴ハ親告罪ナルト否トヲ問ハス被害者カ犯罪アリタルコトヲ官ニ申告スルモノニシテ犯人ノ氏名ノ如キハ之ヲ告訴狀ニ記載スルノ要ナケレハ告訴狀ニ犯人以外ノ者ヲ記載スルモ告訴ノ效力ニ何等ノ消長ヲ來スヘキモノニ非ス

(參照)

合名會社ノ支配人ハ自己ノ所管ニ係ル事項ニ付テハ訴訟上ノ特別委任ヲ受ケルヲ以テ會社ノ事務ヲ管理スル權能ヲ有ス

第五十一條

「第五十一條」

○刑事訴訟法中官吏ノ作ルヘキ書類ニ付テハ其記載方ノ規定アルモ其他ハ法文ノ規定ナキニ依リ告訴狀ニ年月日ノ記載ナキモ無効ト云フヲ得ス

○司法警察官ニ於テ告訴人ニ對シ事實ヲ取調ヘ其陳述ヲ聽取シ告訴狀ニ附記スルハ不法ニ非ス

○刑事訴訟法第五十一條ニハ無効ノ制裁ナキヲ以テ本人ノ承諾ニ出テタルコトヲ認メ得ラルルニ於テハ其方式ニ背キタル一事ヲ以テ之ヲ無効ト爲スヘキモノニ非ス

○刑事訴訟法ニ規定セル形式ヲ遵守セサル匿名ノ告訴告發ニ關スル書類ト雖モ無効ニ非ス

○告訴狀ハ被害者カ其見聞ニ依リ知り得タル犯罪事實ヲ記述スルモノニシテ當該官吏カ其職務上單ニ意見ヲ開陳スルニ過キササル起訴狀若クハ意見書ト同一視スヘキモノニ非ス

○口述ヲ以テ告訴ヲ受ケタル官吏ハ調書ヲ作成スヘキモノトス

○告訴ヲ受ケタル官吏カ犯罪ノ自首ト同時ニ告訴ヲ受ケタル場合ニ於テ之ヲ一ノ文書ニ錄取シテ署名捺印セシメタルトキハ其調書ハ自首ト告訴

二九	七	元	元	三	二八
	二			五	
	三		一五五八		三六〇
	九	一五七七		一三	

二九	五	六	六	五	五
一〇					
七〇		六九三	四三三	二九二	七〇三

○巡査ノ告發書ハ刑事訴訟法第五十二條第二項ノ規定ニ從ヒ告發者タル巡査ノ署名捺印アルノミヲ以テ足り其所屬警察署ノ印ヲ押捺スルノ必要ナシ

○官吏カ職務上認知シタル犯罪ヲ告發スル書面ノ作成ニ付テハ刑事訴訟法第二十條ノ適用ヲ受クルモノニ非ス

〔同(五)旨〕

刑事訴訟法第五十二條ニ依リ官吏公吏カ告發ヲ爲スハ該職務ノ範圍外ニ屬スルヲ以テ此場合ニ於テ刑事訴訟法第二十條ノ規定ニ適セサルモ之カ爲メ其書面ヲ無効ナリト謂フヲ得ス

告發ハ刑事訴訟法第五十二條ノ規定ニ依リ官吏ノ署名捺印シタル文書ヲ以テ足レリトシ同法第二十條ノ法則ニ從フヲ要セス

官吏ノ作成スル告發狀ハ刑事訴訟法第五十二條第二項ノ規定ニ則ルヘキモノニシテ同法第二十條ノ規定ニ從フヘキモノニ非ス

公吏ノ作ルヘキ告發書ハ刑事訴訟法第五十二條第二項ニ則ルヘキモノニシテ同法第二十條ノ規定ニ從フヘキモノニ非サレハ該告發書ニ所屬公署ノ印ヲ用井ス又作成ノ場所ヲ記載セサルモ無効ニ非ス

〔反對〕

告發書ハ刑事訴訟法第五十條以下ノ規定ニ依リ作成スヘキモノニシテ同法第二十條ノ法則ニ從フヘキモノトス

第五十三條

第五十二條

○告發人ノ捺印ナキ告發書ト雖モ無効ニ非ス「從テ其告發ニシテ不實ニ涉ルトキハ誣告罪ヲ構成ス」

○刑事訴訟法ニ規定セル形式ヲ遵守セサル匿名ノ告訴告發ニ關スル書類ト雖モ無効ニ非ス

○自首ハ犯人自ラ其罪ヲ官ニ告クルモノナルヲ以テ自首ニ關シテハ刑事訴訟法第五十三條第二項ニ準シ自首ヲ受ケタル司法警察官ハ同法第五十一條第二項ニ從ヒ調書ヲ作成スルノ權能アルモノトス從テ其調書ハ調書トシテ有效ナリ

○犯人カ口述ヲ以テ自首ヲ爲シタルトキハ之ヲ受ケタル官吏ハ口述ノ告訴告發ヲ受ケタル場合ニ準シ刑事訴訟法第五十一條第二項ニ從ヒ調書ヲ作ルヘキモノニシテ同法第四百七條及ヒ第九十二條ニ依ルヘキモノニ非ス

第五十四條

〔第五十四條〕

○代理人カ告訴狀ヲ提出スル場合ニ於テハ特ニ代理人ナル文字ナキモ該書面ノ文詞ニ徴シ其趣意ヲ知了シ得ル以上ハ代理人ノ告訴トシテ其效カアルモノトス

○遞信省カ著作權ヲ侵害セラレタル場合ニ於テハ著作權法第四十四條ノ

刑事訴訟法 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審 捜査 告訴及ヒ告發

四〇	二	二六	二元	三三	四五	三〇
一〇七	一三五	五〇一	九九	四一	二二九	三三

三三	元	三六	三九	三九	二五九	三三
一一二	一五七七	二七二	二二五	二二五	二五九	三三

被害者ノ位置ニ在ル者ハ即チ國ニシテ其國ヲ代表スル者ハ遞信大臣ナリトス從テ遞信大臣ハ刑事訴訟法第五十四條ニ依リ代理人ニ委任シテ偽作ノ告訴ヲ爲スコトヲ得

○刑事訴訟法上告訴告發ノ代理委任ノ證明方法ニ付キ特ニ規定ナキヲ以テ告訴告發ヲ受クヘキ當該司法警察官又ハ檢事若クハ事件ノ審理ヲ爲スヘキ裁判所カ必要ニ應シ代理人ヲシテ委任狀ヲ呈示セシメ若クハ其面前ニ於テ口頭ノ委任ヲ受ケシムルモ代理權限ノ證明方法トシテ違法ニ非ス

○告訴狀ニ甲ハ乙ノ親權者タルコトヲ表示シアル以上ハ告訴狀ニ添附セル甲ヨリ丙ニ對スル告訴委任狀ニハ法律上代理人ナル旨ノ記載ナク單ニ甲ノ署名ノミアルモ乙ノ親權者タル資格ヲ以テ委任シタルモノトスルヲ當然トス

○刑事訴訟法第五十四條第二項ハ無能力者ノ告訴ニ關シ其法定代理人ニ獨立ノ告訴權能ヲ付與シタルモノナルヲ以テ無能力者ノ法定代理人ハ自己ノ名義ヲ以テ告訴ヲ爲スコトヲ得ヘク被害者本人ノ名義ニ於テ之ヲ爲スコトヲ要ナシ

後見人ニモ非スシテ單ニ支那人タルニ過キサルモノハ法律上ノ代理人ト云フヘカラス法律上ノ代理人ニ非サル者ノ委任ヲ受ケテ提起シタル告訴狀ハ其效ナキモノナルニ之ヲ探テ監罪ノ證ト爲セシ判決ハ不法ナリ

第二節 現行犯罪

○幫助罪ハ主タル犯罪ト運命ヲ共ニスヘキモノナレハ主犯タル犯罪ニシテ現行犯ナル以上ハ幫助罪モ亦現行犯トシテ處分スヘキモノトス

第五十六條

第五十六條

○刑事訴訟法第五十六條ニ所謂現行ト終リタル際トハ讀テ字ノ如ク現行ト終リタル當時即チ既ニ行ヒ終リタルモ犯人ノ未タ現場ヲ離レサルカ又ハ既ニ逃走スルモ衆口喧傳尙ホ其犯狀ヲ知ルニ足ルヘキカノ如キ場合ヲ云フ故ニ本案ノ如キ殺害後一晝夜以上ヲ經初メテ發覺シタル場合ニ在テハ該法條ニ依リ之ヲ現行犯ト云フヲ得サルモノトス

○犯罪ヲ行ヒ終リタル際直ニ發覺シタル事件ハ犯人ノ何人タルヤヲ知ルコト能ハサル場合ト雖モ刑事訴訟法ニ所謂現行犯ナリトス

○賭博ノ現場ヲ巡查ニ瞳見セラレタル以上ハ犯人ノ現場ニ在ルト逃走シタルトヲ問ハス凡テ現行犯ナリ

○現行犯トハ必スシモ其現行ト又ハ現行ト終リタル際犯罪捜査ノ權

三〇 五 四
二九 〇 六
二六 四 四
二 七 七
二七 四 〇

四〇 二六三
四五 九二七
三五 九 一五六
三 一四三

ヲ有スル者ニ發覺セラルルコトヲ要スルモノニ非ス 巡査カ賭博ノ現行
犯アルコトヲ知リテ刑事訴訟法第五十八條及ヒ第五十九條ノ手續ヲ盡
シタル場合ニ於テハ現行ノ賭博罪アリトス

○刑事訴訟法第五十六條ニ所謂現行犯中ニハ犯罪行為ノ實行中若クハ犯
罪行為ノ終了セシ瞬間ニ發覺シタル犯罪ハ勿論犯罪行為ノ終了ヨリ多
少ノ時間ヲ隔ツルモ犯跡歷然トシテ犯罪行為ヲ終リシコトノ近キニ在
ルコト明白ナル間ニ發覺シタル犯罪ヲモ包含スルモノトス

(同主旨)

刑事訴訟法第五十六條ニ所謂現行ニ行ヒ終リタル際トハ犯罪ノ終了シタル瞬間ヲ謂フモノニ非
ス若干ノ時間ヲ隔テテ發覺スルモ兇行ノ痕跡尙ホ歷歷犯所ニ現存シ近ク犯行アリシコトノ明
白ナル場合ヲ指稱スルモノトス

(第五十七條)

『第五十七條』

○捜査ノ結果贓金ト認ムヘキモノヲ發見シタル場合ハ現行犯ニ準スヘキ
モノニ非ス

○刑事訴訟法第五十七條ハ其第二號ニ所謂其他ノ物件ニ付キ何等限定ス
ル所ナケレハ苟モ犯罪行為ヨリ生シタル物件其モノヲ携帯セルニ依リ
現ニ犯人タルコトヲ確認スルニ足ル以上ハ既知ノ犯罪ニ非ナルモ同條

四四

三七七

所定ノ準現行犯ト爲スヲ相當トス
○強姦罪カ住宅内ニテ犯サレタル場合ニ於テ該戶主カ犯罪ノ當時其犯人
ノ誰ナルカヲ覺知シ之カ處分ヲ警察署ニ求メタルトキハ刑事訴訟法第
五十七條第三號ニ所謂準現行犯ナルヲ以テ司法警察官カ檢證ノ上之ヲ
訊問スルモ違法ニ非ス

四四

九五三

(第五十八條)

『第五十八條』

○刑事訴訟法第五十八條ニ依リ巡査カ令狀ヲ待タズシテ被告人ヲ逮捕ス
ル場合ニ於テハ現場ニ在ル犯罪供用ノ物件ヲ差押ユル等現行犯タル事
實ヲ保存スルノ方法ハ自ラ同條ニ包含スルモノトス

三三

四八一

○刑事訴訟法第五十八條ハ司法警察官及ヒ巡査憲兵卒ニ對シ被告人ノ確
定罪證ノ確保ニ關スル應急處分ヲ命シタルモノナレハ此等ノ吏員ハ親
告罪ニ對スル場合ト雖モ告訴ヲ待タズシテ直ニ其現行犯人ヲ逮捕スヘ
キ義務ヲ負フモノトス

三七

一五六〇

(參照)

○警察官ニ賭博ノ現行犯ヲ認知逮捕セラレタル以上ハ其認知逮捕シタル者ノ巡査ナルト警部ナ
ルトハ賭博罪ノ構成ニ影響ヲ及ボサス

三五

五

一八六

(第五十九條)

『第五十九條』

刑事訴訟法 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審 捜査 現行犯罪

ニ管轄裁判所ニ起訴ノ手續ヲ爲スニ非サレハ其公訴ハ受理スヘキモノニ非ス

○司法官試補ニシテ地方裁判所檢事ノ職務ニ屬スル事件ノ公訴ヲ提起スルハ越權ノ處分ナリトス而シテ其公訴ハ法律上何等ノ效力ヲ生スヘキモノニ非ス從テ之ヲ受理シテ審判シタル判決ハ不法タルヲ免レス

○日曜日ニ公訴ヲ提起スルコトヲ禁シタル法律ナシ

○公訴ハ抗告ノ決定ニ因テ提起セラルヘキモノニ非ス

○公訴不受理ノ裁判ハ其起訴ノ手續適法ナラサル等ノ場合ニ適用スヘキモノニシテ本案ニ對スル判決ニ非ス從テ檢事ハ更ニ適法ノ手續ニ基キ再ヒ其事件ノ公訴ヲ提起スルコトヲ得

○上奏ニ關スル書類ハ上奏ヲ爲シタル當局大臣ノ手ニ保存スヘキモノニシテ訴訟記録ニ添附スヘキモノニ非ス

○破産宣告ヲ受ケタル者ニシテ詐欺ノ行爲アリト認メタルトキハ縱令破産宣告確定前ト雖モ公訴ヲ提起スルコトヲ得

(同主旨)

檢事ノ起訴ハ縱令破産宣告確定前ニモモ決シテ法律上無効ノモノニ非ス而シテ本案第一審判決ノ前ニ於テ既ニ破産宣告確定シタルモノナレハ本案判決ノ當時ニ於テハ當然有效ノ起訴

二元	三元	三元	二元	二元	二元	二元
三元	三元	三元	三元	三元	三元	三元
三元	三元	三元	三元	三元	三元	三元
三元	三元	三元	三元	三元	三元	三元

大

破産宣告確定前ナルニモモ既ニ破産宣告アリタルニ於テハ檢事ハ詐欺破産ノ公訴ヲ提起シ得ヘキモノタルカ故ニ豫審判事モ亦豫審ヲ進行スルヲ得ヘシ廻テ本件ニ於ケル破産宣告ノ確定ハ豫審終結ノ決定前ニ在リシヲ以テ本案豫審手續ハ毫モ違法ニ非ス故ニ原院カ豫審ノ調書ヲ採用スルモ亦違法ニ非ス

破産ノ宣告ヲ受ケタル者ニシテ詐欺ノ行爲アリト認メラレタルトキハ其宣告確定前ト雖モ公訴提起ノ權アリトス

破産宣告確定前ニ在テハ刑ノ言渡ヲ爲スコト能ハサルモ詐欺破産ノ犯跡アル以上ハ公訴ヲ提起スルコトヲ得

○證人又ハ鑑定人ノ供述不實ニシテ故意ニ出テ禁錮以上ノ刑ニ該ルヘキ者ト思料シ之ヲ取押ヘテ勾引狀ヲ發シ豫審判事ニ送致シタルトキハ直ニ公訴ノ提起アリタルモノニシテ別ニ檢事ノ起訴ヲ要スルモノニ非ス

○數人共謀シテ紙幣偽造ノ機械ヲ豫備シタルトノ公訴提起アリタル場合ニ於テ紙幣偽造ノ機械ヲ豫備シタル事實ナク却テ數人ノ内幾名カ紙幣偽造機械ノ豫備ヲ名トシ他ノ者ヲ欺キ其資金トシテ金圓ヲ騙取シタル事實ヲ認メタルトキハ其事實ニ對シ更ニ公訴ヲ提起スルヲ要セス前ノ公訴事實中ニ包含ス從テ一旦免訴ノ決定アリタル以上ハ罪名ヲ變更スルモ再訴スルヲ許サス

二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元
二元	二元	二元	二元	二元	二元	二元

(同主旨)

貨幣偽造罪ノ起訴ヲ受ケ審理ノ未許欺取財罪トセラルルハ罪名ノ變更ニ過キサルヲ以テ別ニ起訴ノ手續ヲ要セス

二八

二

五四

○ 檢事ノ公訴權ハ犯罪アルト同時ニ發生ス從テ公訴提起ノ當時ニ在テ既ニ犯罪ニ著手シタル以上ハ公訴提起後ニ至リ其目的ヲ遂行シタル場合ト雖モ公訴ノ效力ニ何等ノ影響ナシ

三五

六

一九六

○ 檢事ノ適法ノ起訴ナク即チ無効ノ起訴ニ基キテ爲シタル手續ハ其豫審ニ於ケルト公判ニ於ケルトト問ハス總テ其效力ナシ

三五

七

三八

○ 公訴ハ一定ノ事實ニ付キ提起セラルルモノトス故ニ豫審判事カ其事實ニ對シ如何ナル罪名ヲ付スルモ之カ爲メ毫モ公訴ニ影響ヲ及ホスコトナシ

三六

一八九四

○ 檢事カ公訴ヲ提起スルニハ起訴狀ヲ提出スルノミヲ以テ足レリトセス公判ニ於テ被告事件ヲ陳述スルコトヲ必要トシ且公判ノ起頭ニ於テスルヲ普通ノ順序トス

三七

一六八

○ 檢事ハ自ラ爲シタル不起訴ノ處分ニ羈束セラルヘキ法規ナケレハ一旦不起訴ノ處分ヲ爲シタル事件ト雖モ後日犯罪ノ證據ヲ發見シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲スヘキハ當然ニシテ上官ノ命令ヲ待ツコトヲ要セス

三七

二九四

○ 豫審判事カ請求ヲ受ケタル事件ニ付キ決定ヲ爲ササル以上ハ其事件ハ依然トシテ豫審ニ繫屬ス從テ檢事カ該事件ニ付キ再ヒ公判裁判所ニ公訴ヲ提起スルハ不法ニシテ受理スヘキモノニ非ス

三七

一九九

○ 檢事カ現行犯事件ニ對シ一度假豫審ノ處分ニ著手シタル場合ト雖モ刑事訴訟法第四百五條ノ手續ヲ履行セサル以上ハ爾後更ニ豫審ヲ請求シタルハトテ一事件ニ付キ兩度ノ起訴ヲ爲シタル不法アリト云フヲ得ス

三元

八四

○ 檢事正ノ職ニ在ル者ハ檢事ナルカ故ニ檢事正ノ名ヲ以テシタル起訴ハ適法ナリ

四〇

三九二

○ 起訴狀所載ノ犯罪事實ニ依リ其原因結果トシテ之ニ牽連スル他ノ犯罪事實カ自ラ該事實中ニ包容セラルルコトヲ推知シ得ヘキ場合ニハ各犯罪ニ付キ箇箇別別ニ事實ヲ摘示セサルモ總テ其公訴ニ包含スルモノト認ムルニ妨ナシ

四〇

二五九

○ 現行犯事件ニ付キ檢事カ爲シタル起訴ノ手續ニシテ違法ノ點ナキ以上ハ縱令司法警察官ノ事件送致書ニ所屬官署ノ印ヲ押捺セサル瑕瑾アリトスルモ之カ爲メ起訴ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

四二

一〇七

○ 繼續犯罪ニ對スル起訴ニハ繼續シタル各所爲ヲ悉ク包含スルモノトス

從テ檢事ノ豫審請求書ニ明記ナキ點ト雖モ該犯罪ノ一部ヲ爲スヘキ所
爲ハ起訴ノ目的ト爲リタルモノト云ハサルヘカラス

四

九七三

(同主旨)

繼續犯罪ニ對スル起訴ニハ繼續シタル各所爲ハ悉ク包含セラレヘキモノトス從テ檢事ノ豫審
請求書ニ明記ナキ點ト雖モ該犯罪ノ一部ヲ爲スヘキ所爲ハ同シク起訴ノ目的ト爲リタルモノ
ナリ

三

九七九

○檢事ハ現行犯ナルト否トニ拘ハラズ事宜ニ依リ檢事局以外ニ於テモ有
效ニ公訴ヲ提起シ得ルモノトス

四

六三六

○獨立セル犯罪行爲カ或犯罪ノ手段若クハ結果トシテ行ハレタルトキハ
之ヲ包括シテ一罪トシ其最モ重キ刑ヲ以テ處斷セサルヘカラス故ニ或
犯罪ニ對シ起訴アリタルトキハ之カ手段若クハ結果タル犯罪行爲ハ當
然其起訴中ニ包含スルモノトス

四

九二〇

○警察吏カ職務ヲ執行スルニ當リ之ニ對シテ暴行ヲ加ヘ傷害シタル所爲
ハ刑法第五十四條ノ所謂一箇ノ行爲ニシテ數箇ノ罪名ニ觸ルルモノナ
リトス從テ公務執行妨害及ヒ傷害ノ所爲中何レカ其一ニ對スル起訴ニ
ハ當然他ノ一ヲモ包含スルモノナリ

四

九一〇

事ハ該判決ノ確定前ト雖モ上訴ヲ爲サスシテ更ニ起訴ノ手續ヲ爲シ得
ルモノトス

四

三五四

(同主旨)

公訴不受理ノ判決アリタル場合ニ於テハ判決確定前ト雖モ檢事ハ其判決ヲ相當ト認ムルトキ
ハ之ニ對シテ上訴ヲ爲サス更ニ起訴ノ手續ヲ爲スコトヲ得
公訴不受理ノ判決ニ對シテ被告ヨリ上訴ヲ爲シタルニ拘ハラズ檢事ハ新ニ公訴ヲ提起スルコ
トヲ得

三

九

○證人又ハ鑑定人カ故意ヲ以テ不實ノ供述ヲ爲シタル場合ト雖モ受訴裁
判所ニ於テ刑事訴訟法第九十五條ノ特別手續ヲ行ハサルトキハ檢事

三

四七〇

ハ普通ノ手續ニ依リ起訴スルノ職權ヲ有スルモノトス

四

四七〇

○破産宣告ヲ受ケタル債務者カ債權者ニ損害ヲ被ラシムル意思ヲ以テ
有體動産ヲ轉匿脱漏シタル所爲ニ付キ起訴アリタル場合ニ於テハ該起
訴事實ニハ其他ノ財産ニ關スル藏匿轉匿若クハ脱漏ノ所爲ヲモ包含セ
ルモノトス

四

七六六

○印影盜用ノ所爲ハ他人ノ署名若クハ印章ヲ使用シテ文書ヲ偽造スル罪
ノ内容ヲ成ス一事實タルニ過キサレハ既ニ文書偽造ノ事實ニ付キ起訴
アリタル以上ハ印影盜用ノ所爲モ亦其起訴事實中ニ包含セラレヘキモ
ノトス

四

一三三八

○人ヲ毆打スル爲メ其家宅ニ侵入シタルトキハ刑法第五十四條第一項ニ依リ該侵入行爲ハ傷害ノ行爲ト相合シ一罪トシテ處分セラルヘキモノナレハ其毆打ノ事實ニ對スル起訴ニハ當然家宅侵入ノ行爲ヲ包含スルモノトス

○檢事カ聚合罪ノ一部ヲ指摘シテ公訴ヲ提起シタルトキハ裁判所ハ其聚合罪ヲ構成スル全部ノ行爲ニ付キ審理判決スルノ權限ヲ有ス而シテ其判決確定ノ效力ハ同判決言渡ノ時迄ニ行ハレタル行爲ノ全部ニ及フヘキモノトス

(同主旨)

檢事カ一罪中ノ一部ヲ指摘シテ起訴ノ手續ヲ爲シタル場合ト雖モ裁判所ノ審理ハ其犯罪ノ全部ヲ目的トシ該犯罪ヲ構成スル總テノ所爲ニ對シテ判決ヲ與フヘキモノトス從テ裁判所ノ審理判決力檢事ノ指摘以外ノ所爲ニ涉ルモ其所爲ニシテ苟モ實質上起訴ニ係ル犯罪ノ一部ヲ成ス以上ハ請求ヲ受ケサル事件ニ付キ判決ヲ爲シタル不法アリト云フヲ得ス
一ノ犯罪ニ付キ起訴アリタルトキハ起訴以後ニ成就セラルヘキ該犯罪中ノ一所爲ニ對シテモ亦其效力ヲ及ボスヘキモノトス
一罪ニ對シテハ一ノ起訴アルノミチ以テ足り之ヲ構成スル各箇ノ所爲ニ付キ各別ニ起訴ノ手續ヲ爲スコトヲ要セス從テ檢事カ一ノ犯罪ヲ構成スル或所爲ノミチ指摘シテ起訴ノ手續ヲ爲シタル場合ト雖モ裁判所ハ總テノ所爲ニ對シテ審理判決ヲ爲シ得ヘキモノトス

四	一四八五
三	二〇三二
三六	一七〇
三八	三五三
三八	三九三

○確定判決ノ效力ハ同一行爲ニ付キ同一被告ニ對シテ再ヒ公訴ヲ提起スルコトヲ得サラシムルニ止マリ其判決ヲ受ケタル公訴ニ係ル行爲ト獨立シ法律上別罪ヲ以テ處罰スヘキ行爲ニ付キ更ニ公訴ヲ提起スルノ妨ト爲ラス

○同一事件ニ付キ再度豫審ヲ請求スルモ唯後ノ請求ヲ不適法ナラシムルニ止マリ前ニ爲シタル適法ノ請求ヲ無効トスルモノニ非ス

(同主旨)

檢事カ同一被告人ニ對シ同一事件ニ付キ再ヒ豫審ヲ請求ヲ爲スハ二重ニ刑ノ適用ヲ求ムルモノナレハ固ヨリ不適法ノ訴ニシテ受理スヘキモノニ非ス

○一箇ノ行爲ニ依リ同時ニ二人ヲ誣告シタル場合ニ於テ檢事カ該犯罪事實ノ一部ニ付キ適式ニ起訴シタル以上ハ爾餘ノ部分モ亦其起訴中ニ包含スルモノトス

○破産宣告確定前ニ別罪トシテ提起シタル公訴ト雖モ其起訴ノ内容タル事實カ詐欺破産罪ヲ構成スヘキモノニシテ而モ爾後破産宣告ノ決定カ確定シタル事實アル以上ハ詐欺破産トシテノ起訴ハ當然前起訴中ニ包含セラレタルモノト解スヘキモノトス

(反對)

刑事訴訟法 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審 起訴

四三	二〇三二
四	三四
三七	一〇三八
四	四九四
二	六四五

被告カ七箇ノ所爲ハ各自詐欺取財罪ヲ構成スルモノトシテ檢事ヨリ公訴ヲ提起シタルモ公判ニ於テ無罪ノ言渡ヲ受ケ其判決既ニ確定シタリ然ルニ被告ハ支拂ヲ停止シ爲メニ破産ノ宣告ヲ受ケルニ至リタルナリ檢事ハ被告カ七箇ノ所爲ヲ相合シテ更ニ一ノ詐欺破産罪ヲ構成スルモノトシ新ニ公訴ヲ提起シタリ果シテ被告ニ於テ右七箇ノ如キ所爲アリテ且破産ノ宣告ヲ受ケタルニ於テハ茲ニ一罪ヲ構成スルモノナレハ同一事件ニ付キ罪名ヲ變更シ再起訴ヲ爲シタルモノト云フコトヲ得ス又此中訴ハ被告カ七箇ノ所爲ハ孰レモ詐欺破産罪ヲ構成シ都合八罪アリトノ旨趣ニ非サレハ該公訴ハ唯一ニシテ分割スヘカラサルモノナリ

○司法警察官ノ事件ノ取扱ニ違法ノ點アリトスルモ之カ爲メニ檢事ノ起訴ヲシテ不適法ナラシムルモノニ非ス

○姦淫ニ因ル致傷ハ姦淫ノ所爲ト密接ノ關係ヲ有シ當然姦淫ノ起訴事實中ニ包含セラルルヲ以テ姦淫ノ起訴アリタル場合ニ於テ姦淫致傷ノ事實ヲ認ムルハ公訴ノ範圍ヲ超越セルモノニ非ス

(同案旨)

荷キ檢事ニ於テ強姦ノ行爲ニ付キ公訴ヲ提起シタル以上ハ其強姦ニ因テ人ヲ死傷ニ致シタル行爲ハ該公訴事件ニ包含スルモノニシテ其事件ノ範圍外ニ於ケル別箇獨立ノ事件ニ屬スルモノニ非ス

○他人ノ物件ヲ不法ニ領得スル罪ト其贓物ヲ收受スル罪トハ孰レモ他人ノ所有ニ係ル財物ニ關スル犯罪ニシテ互ニ密接ノ關係ヲ有ス從テ贓物收受罪ノ公訴事實中ニハ竊盜罪ノ事實モ亦包含セラルルモノトス

(同案旨)

贓物罪ト盜罪トハ孰レモ他人ノ所有ニ係ル財物ノ領得ニ關スル犯罪ニシテ互ニ密接ノ關係アリ從テ犯人ニ對シ贓物罪ノ起訴アリタル以上ハ其範圍ニ於テ贓物收受罪ノ外竊盜教唆ノ事實ヲ審理判決スルモ不法ニ非ス

○連續犯若クハ常習犯ノ如キ聚合的犯罪ノ一部ニ對シ判決アリタルトキハ其後ニ發生シタル行爲ハ縱令犯人ノ意思ニ連續アリ若クハ其性癖ニ基ク場合ト雖モ獨立ノ一罪ヲ成立スルモノニシテ右判決ノ既判力ハ之ニ及ハサルモノトス

○帶動位者ニ對スル起訴ニ付テノ奏聞ノ手續ノ如キハ檢事ノ職務執行ニ關スル訓令ノ定ムル所ニ過キサレハ訴訟記録ニ依リテ之ヲ證明スルコトヲ要セス又其手續ニ欠缺アリトスルモ訴追ヲ無効ナラシムルモノニ非ス

○檢事カ同一被告人ニ對シ一箇ノ連續犯ニ付キ前後二回ニ起訴狀ヲ提出シタル場合ト雖モ後ノ起訴狀ハ前起訴狀ニ摘示セル行爲ノ外尙ホ數多ノ連續行爲アリシニ依リ之ヲ追加補充スルノ意ニ出テタルトキハ之ヲ目シテ二重ニ公訴ヲ提起シタルモノト云フヲ得ス

○共犯者中ノ或者ニ對シテ提起シタル公訴ハ之ヲ他ノ共犯者ニ及ホスコ

五

三九〇

四

二四五

四

四六

三

一八九

二六

三六九

二

八六一

三

一四〇三

四

五七五

三

二〇七九

トヲ得ス從テ前者ニ對スル起訴ノ後更ニ後者ヲ訴追スルハ適法ニシテ之ニ對シ公訴不受理ヲ言渡スヘキモノニ非ス

(同三首)

共犯者ノ一人ニ對シ提起シタル公訴ヲ以テ他ノ共犯者ニ及ボスコトヲ得ス(同一判例二八年三卷三七頁、同卷一四五頁)

○親告罪ヲ構成スヘキ犯罪事實ニ付キ起訴アリテ其公訴ハ告訴ナキ爲メ訴訟條件ヲ欠缺スル場合ニ於テモ裁判所ハ公訴事實ニ關スル事實上及ヒ法律上ノ見解ヲ定ムル爲メ尙ホ之ト一罪ヲ構成スル他ノ犯罪事實ノ有無ヲ判斷スルノ必要上公訴事實ノ内容ヲ審判スヘキモノトス

○如上ノ場合ニ於テ其事實カ單ニ親告罪ヲ構成スル犯罪ナルトキハ公訴不受理ノ言渡ヲ爲スヘク若シ之ト牽連關係ニ於テ一罪ヲ構成スル他ノ犯罪事實アルトキハ其事實ニ付キ判決ヲ言渡シ親告罪ニ關スル事實ハ一罪ヲ構成スヘキ犯罪ノ一部ニ屬スルノ故ヲ以テ之ニ付キ特ニ判決ヲ爲スノ要ナキモノトス

○檢事カ被告ニ對シ各別ニ起訴シタルハ各起訴狀ニ掲クル同人ノ行爲ヲ連續セサル獨立行爲ト認メタルニ因ルモノナレハ起訴ハ適法ニシテ縱令後ニ至リ裁判所カ檢事ト見解ヲ異ニシ該行爲ヲ連續行爲ト解スルモ

之カ爲メ該起訴ノ不適法ヲ惹起スルモノニ非ス

(同三首)

檢事カ各橫領行爲ヲ以テ別箇ノ犯罪ヲ構成スヘキモノト爲シ二回ニ豫審ヲ請求シ豫審判事モ亦同一見解ニ出テタル場合ニ公判ニ於テ之ヲ以テ一箇ノ連續犯ヲ構成スヘキモノト爲スモ是レ公判裁判所カ檢事及ヒ豫審判事ト法律上ノ見解ヲ異ニシタル結果ニ外ナラサルヲ以テ之カ爲メニ檢事ノ起訴ヲ不適法ト爲ス理由ナシ
檢事カ最初ニ起訴シタル犯罪行爲以外ノ事實ヲ發見シ事實上ノ觀察ニ於テ之ヲ別箇獨立ノ犯罪行爲ナリト思料スルトキハ之ニ對シ別ニ起訴スルハ固ヨリ當然ニシテ裁判所ニ於テ審理ノ結果右二箇ノ起訴ニ係ル數行爲ヲ通シテ一ノ連續犯ヲ成スニ過キササルモノト認定スルモ爲メニ後ノ起訴ヲ無効ナリト論スルヲ得ス

○地方裁判所檢事カ現行犯ニ付キ刑事訴訟法第四百四十四條ニ依リ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲シタル場合ニ於テ同第四百四十五條ニ依リ豫審判事ニ送致スヘキ書類ニ犯罪事實ヲ明記スル起訴狀ヲ添附スルモ再度ノ起訴ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

○一箇ノ行爲ヲ以テ同時ニ數人ニ對シ詐欺ヲ爲サントシテ其實行ニ著手シタルモ犯人意外ノ事由ニ依リ其目的ヲ遂ケサル案件ニ付キ被害者ノ一人ニ對スル關係ニ於テ相對的親告罪タル關係アリテ其告訴ナキ場合ニ在リテハ檢事ノ起訴事項中相對的親告罪タルヘキ點ニ付テハ特ニ判

五

六三九

二元

三

三〇

六

二二三

六

二二三

七

二七九

四四

二〇六一

六

二四四

七

四四一

定ノ人ニ對シ豫審ヲ請求シタルモノト謂ハサルヲ得ス然ルニ原院カ其豫審處分ヲ無効ナリトシ從テ公訴不受理ノ言渡ヲ爲シタルハ失當タルヲ免レズ

○檢事カ現行犯ノ場合ニ際シ臨檢ヲ請求シタルトキハ之ヲ以テ實質上豫審ノ處分ヲ求メタルモノトス

(同(五))

現行犯ノ場合ニ於テ檢事ヨリ豫審判事ニ宛テタル書面ニ「別紙ノ通り報告有之候條臨檢相成度此段及請求候也」トアレハ豫審判事カ檢事ノ請求ニ依リ公訴ヲ受理シタルモノト認ムルニ足ル

○檢事カ豫審ヲ求ムルニハ犯罪事實ノ概要ヲ摘擧スルヲ以テ足ル從テ犯罪ノ日時場所等ハ之ヲ詳示セサルモ不違法ノ起訴ト云フヲ得ス

(同(五))

豫審請求書ニハ單ニ其罪目ヲ表彰スルヲ以テ足レリトス必スシモ其罪狀事實ヲ詳記スルヲ要セス

○檢事ニ於テ被告人ノ氏名ヲ何誰ナリト信シテ豫審ヲ請求シタル以上ハ縱シ其請求書ノ氏名ニ誤謬アリトスルモ其被告人ニシテ相違ナキ限ハ豫審請求即チ公訴提起ノ效ナキモノト云フヲ得ス

○公訴ノ提起ハ口頭辯論ニ於テスル場合ノ外起訴者ノ作成シタル文書ヲ以テ之ヲ明確ニ爲ササルヘカラス

(同(五))

豫審ニ於テ未ダ起訴アラサルモ公判ニ於テ檢事ヨリ起訴アルトキハ之ヲ裁判スルモ不合法ニ非ス

公訴ノ提起ハ適法ノ文書ニ依ル(同一判例二八年三卷三七頁)

○電報ニ依リ公訴ヲ提起シタル場合ニハ通例ノ起訴狀ト同一ニ看做シ得ヘキ電報用紙存在スルカ故ニ起訴ノ事實ヲ明確ニスルコトヲ得從テ其起訴ハ有效ナリトス

○電話ヲ以テ公訴ヲ提起セル場合ニハ縱令裁判所書記カ其通話ヲ受ケ豫審請求ト題スル文書ヲ作成シタリトスルモ之ヲ以テ起訴者ノ作成シタル文書ト同一ニ看做スコトヲ得ス故ニ其起訴ハ口頭辯論以外ニ於テ口頭ニ依ルモノト同シク何等ノ效力ヲ有セス

○檢事カ豫審中ノ事件ニ牽聯シテ豫審請求ノ形式ヲ備フル書面ヲ提出シタル場合ニ其處措ハ一箇ノ起訴ナルヤ將タ豫審判事ニ對シ起訴ノ旨趣ヲ明カニスル注意ニ過キササルヤハ該書面ノ内容ニ依リテ之ヲ判別セサルヘカラス

○〇ナル符號ハ文字トシテ何等ノ意味ヲ有セサレトモ該符號ノ上又ハ下ニ數字ヲ添加シ或數位ヲ指示スルハ我國普通ノ慣例ナリトス

二六	二九	三五	二七	三三	二六
二九	三〇	三八	二七	三三	二九
三〇	三一	三九	二八	三四	三〇
三一	三二	四〇	二九	三五	三一
三二	三三	四七	三〇	三六	三二
三三	三四	五四	三一	三七	三三
三四	三五	六一	三二	三八	三四
三五	三六	六八	三三	三九	三五
三六	三七	七八	三四	四〇	三六
三七	三八	八六	三五	四一	三七
三八	三九	九五	三六	四二	三八
三九	四〇	一〇三	三七	四三	三九
四〇	四一	一一〇	三八	四四	四〇
四一	四二	一二〇	三九	四五	四一
四二	四三	一三〇	四〇	四六	四二
四三	四四	一四〇	四一	四七	四三
四四	四五	一五〇	四二	四八	四四
四五	四六	一六〇	四三	四九	四五
四六	四七	一七〇	四四	五〇	四六
四七	四八	一八〇	四五	五一	四七
四八	四九	一九〇	四六	五二	四八
四九	五〇	二〇〇	四七	五三	四九
五〇	五一	二一〇	四八	五四	五〇
五一	五二	二二〇	四九	五五	五一
五二	五三	二三〇	五〇	五六	五二
五三	五四	二四〇	五一	五七	五三
五四	五五	二五〇	五二	五八	五四
五五	五六	二六〇	五三	五九	五五
五六	五七	二七〇	五四	六〇	五六
五七	五八	二八〇	五五	六一	五七
五八	五九	二九〇	五六	六二	五八
五九	六〇	三〇〇	五七	六三	五九
六〇	六一	三一〇	五八	六四	六〇
六一	六二	三二〇	五九	六五	六一
六二	六三	三三〇	六〇	六六	六二
六三	六四	三四〇	六一	六七	六三
六四	六五	三五〇	六二	六八	六四
六五	六六	三六〇	六三	六九	六五
六六	六七	三七〇	六四	七〇	六六
六七	六八	三八〇	六五	七一	六七
六八	六九	三九〇	六六	七二	六八
六九	七〇	四〇〇	六七	七三	六九
七〇	七一	四一〇	六八	七四	七〇
七一	七二	四二〇	六九	七五	七一
七二	七三	四三〇	七〇	七六	七二
七三	七四	四四〇	七一	七七	七三
七四	七五	四五〇	七二	七八	七四
七五	七六	四六〇	七三	七九	七五
七六	七七	四七〇	七四	八〇	七六
七七	七八	四八〇	七五	八一	七七
七八	七九	四九〇	七六	八二	七八
七九	八〇	五〇〇	七七	八三	七九
八〇	八一	五一〇	七八	八四	八〇
八一	八二	五二〇	七九	八五	八一
八二	八三	五三〇	八〇	八六	八二
八三	八四	五四〇	八一	八七	八三
八四	八五	五五〇	八二	八八	八四
八五	八六	五六〇	八三	八九	八五
八六	八七	五七〇	八四	九〇	八六
八七	八八	五八〇	八五	九一	八七
八八	八九	五九〇	八六	九二	八八
八九	九〇	六〇〇	八七	九三	八九
九〇	九一	六一〇	八八	九四	九〇
九一	九二	六二〇	八九	九五	九一
九二	九三	六三〇	九〇	九六	九二
九三	九四	六四〇	九一	九七	九三
九四	九五	六五〇	九二	九八	九四
九五	九六	六六〇	九三	九九	九五
九六	九七	六七〇	九四	一〇〇	九六
九七	九八	六八〇	九五	一〇一	九七
九八	九九	六九〇	九六	一〇二	九八
九九	一〇〇	七〇〇	九七	一〇三	九九
一〇〇	一〇一	七一〇	九八	一〇四	一〇〇
一〇一	一〇二	七二〇	九九	一〇五	一〇一
一〇二	一〇三	七三〇	一〇〇	一〇六	一〇二
一〇三	一〇四	七四〇	一〇一	一〇七	一〇三
一〇四	一〇五	七五〇	一〇二	一〇八	一〇四
一〇五	一〇六	七六〇	一〇三	一〇九	一〇五
一〇六	一〇七	七七〇	一〇四	一〇一〇	一〇六
一〇七	一〇八	七八〇	一〇五	一〇一一	一〇七
一〇八	一〇九	七九〇	一〇六	一〇一二	一〇八
一〇九	一一〇	八〇〇	一〇七	一〇一三	一〇九
一一〇	一一一	八一〇	一〇八	一〇一四	一一〇
一一一	一一二	八二〇	一〇九	一〇一五	一一一
一一二	一一三	八三〇	一〇〇	一〇一六	一一二
一一三	一一四	八四〇	一〇一	一〇一七	一一三
一一四	一一五	八五〇	一〇二	一〇一八	一一四
一一五	一一六	八六〇	一〇三	一〇一九	一一五
一一六	一一七	八七〇	一〇四	一〇二〇	一一六
一一七	一一八	八八〇	一〇五	一〇二一	一一七
一一八	一一九	八九〇	一〇六	一〇二二	一一八
一一九	一二〇	九〇〇	一〇七	一〇二三	一一九
一二〇	一二一	九一〇	一〇八	一〇二四	一二〇
一二一	一二二	九二〇	一〇九	一〇二五	一二一
一二二	一二三	九三〇	一〇〇	一〇二六	一二二
一二三	一二四	九四〇	一〇一	一〇二七	一二三
一二四	一二五	九五〇	一〇二	一〇二八	一二四
一二五	一二六	九六〇	一〇三	一〇二九	一二五
一二六	一二七	九七〇	一〇四	一〇三〇	一二六
一二七	一二八	九八〇	一〇五	一〇三一	一二七
一二八	一二九	九九〇	一〇六	一〇三二	一二八
一二九	一三〇	一〇〇〇	一〇七	一〇三三	一二九
一三〇	一三一	一〇一〇	一〇八	一〇三四	一三〇
一三一	一三二	一〇二〇	一〇九	一〇三五	一三一
一三二	一三三	一〇三〇	一〇〇	一〇三六	一三二
一三三	一三四	一〇四〇	一〇一	一〇三七	一三三
一三四	一三五	一〇五〇	一〇二	一〇三八	一三四
一三五	一三六	一〇六〇	一〇三	一〇三九	一三五
一三六	一三七	一〇七〇	一〇四	一〇四〇	一三六
一三七	一三八	一〇八〇	一〇五	一〇四一	一三七
一三八	一三九	一〇九〇	一〇六	一〇四二	一三八
一三九	一四〇	一〇〇〇	一〇七	一〇四三	一三九
一四〇	一四一	一〇一〇	一〇八	一〇四四	一四〇
一四一	一四二	一〇二〇	一〇九	一〇四五	一四一
一四二	一四三	一〇三〇	一〇〇	一〇四六	一四二
一四三	一四四	一〇四〇	一〇一	一〇四七	一四三
一四四	一四五	一〇五〇	一〇二	一〇四八	一四四
一四五	一四六	一〇六〇	一〇三	一〇四九	一四五
一四六	一四七	一〇七〇	一〇四	一〇五〇	一四六
一四七	一四八	一〇八〇	一〇五	一〇五一	一四七
一四八	一四九	一〇九〇	一〇六	一〇五二	一四八
一四九	一五〇	一〇〇〇	一〇七	一〇五三	一四九
一五〇	一五一	一〇一〇	一〇八	一〇五四	一五〇
一五一	一五二	一〇二〇	一〇九	一〇五五	一五一
一五二	一五三	一〇三〇	一〇〇	一〇五六	一五二
一五三	一五四	一〇四〇	一〇一	一〇五七	一五三
一五四	一五五	一〇五〇	一〇二	一〇五八	一五四
一五五	一五六	一〇六〇	一〇三	一〇五九	一五五
一五六	一五七	一〇七〇	一〇四	一〇六〇	一五六
一五七	一五八	一〇八〇	一〇五	一〇六一	一五七
一五八	一五九	一〇九〇	一〇六	一〇六二	一五八
一五九	一六〇	一〇〇〇	一〇七	一〇六三	一五九
一六〇	一六一	一〇一〇	一〇八	一〇六四	一六〇
一六一	一六二	一〇二〇	一〇九	一〇六五	一六一
一六二	一六三	一〇三〇	一〇〇	一〇六六	一六二
一六三	一六四	一〇四〇	一〇一	一〇六七	一六三
一六四	一六五	一〇五〇	一〇二	一〇六八	一六四
一六五	一六六	一〇六〇	一〇三	一〇六九	一六五
一六六	一六七	一〇七〇	一〇四	一〇七〇	一六六
一六七	一六八	一〇八〇	一〇五	一〇七一	一六七
一六八	一六九	一〇九〇	一〇六	一〇七二	一六八
一六九	一七〇	一〇〇〇	一〇七	一〇七三	一六九
一七〇	一七一	一〇一〇	一〇八	一〇七四	一七〇
一七一	一七二	一〇二〇	一〇九	一〇七五	一七一
一七二	一七三	一〇三〇	一〇〇	一〇七六	一七二
一七三	一七四	一〇四〇	一〇一	一〇七七	一七三
一七四	一七五	一〇五〇	一〇二	一〇七八	一七四
一七五	一七六	一〇六〇	一〇三	一〇七九	一七五
一七六	一七七	一〇七〇	一〇四	一〇八〇	一七六
一七七	一七八	一〇八〇	一〇五	一〇八一	一七七
一七八	一七九	一〇九〇	一〇六	一〇八二	一七八
一七九	一八〇	一〇〇〇	一〇七	一〇八三	一七九
一八〇	一八一	一〇一〇	一〇八	一〇八四	一八〇
一八一	一八二	一〇二〇	一〇九	一〇八五	一八一
一八二	一八三	一〇三〇	一〇〇	一〇八六	一八二
一八三	一八四	一〇四〇	一〇一	一〇八七	一八三
一八四	一八五	一〇五〇	一〇二	一〇八八	一八四
一八五	一八六	一〇六〇	一〇三	一〇八九	一八五
一八六	一八七	一〇七〇	一〇四	一〇九〇	一八六
一八七	一八八	一〇八〇	一〇五	一〇九一	一八七
一八八	一八九	一〇九〇	一〇六	一〇九二	一八八
一八九	一九〇	一〇〇〇	一〇七	一〇九三	一八九
一九〇	一九一	一〇一〇	一〇八	一〇九四	一九〇
一九一	一九二	一〇二〇	一〇九	一〇九五	一九一
一九二	一九三	一〇三〇	一〇〇	一〇九六	一九二
一九三	一九四	一〇四〇	一〇一	一〇九七	一九三
一九四	一九五	一〇五〇	一〇二	一〇九八	一九四
一九五	一九六	一〇六〇	一〇三	一〇九九	一九五
一九六	一九七	一〇七〇	一〇四	一〇一〇	一九六
一九七	一九八	一〇八〇	一〇五	一〇一一	一九七
一九八	一九九	一〇九〇	一〇六	一〇一二	一九八
一九九	二〇〇	一〇〇〇	一〇七	一〇一三	一九九
二〇〇	二〇一	一〇一〇	一〇八	一〇一四	二〇〇
二〇一	二〇二	一〇二〇	一〇九	一〇一五	二〇一
二〇二	二〇三	一〇三〇	一〇〇	一〇一六	二〇二
二〇三	二〇四	一〇四〇	一〇一	一〇一七	二〇三
二〇四	二〇五	一〇五〇	一〇二	一〇一八	二〇四
二〇五	二〇六	一〇六〇	一〇三	一〇一九	二〇五
二〇六	二〇七	一〇七〇	一〇四	一〇二〇	二〇六
二〇七	二〇八	一〇八〇	一〇五	一〇二一	二〇七
二〇八	二〇九	一〇九〇	一〇六	一〇二二	二〇八
二〇九	二一〇	一〇〇〇	一〇七	一〇二三	二〇九
二一〇	二一一	一〇一〇	一〇八	一〇二四	二一〇
二一一	二一二	一〇二〇	一〇九	一〇二五	二一一
二一二	二一三	一〇三〇	一〇〇	一〇二六	二一二
二一三	二一四	一〇四〇	一〇一	一〇二七	二一三
二一四	二一五	一〇五〇	一〇二	一〇二八	二一四
二一五	二一六	一〇六〇	一〇三	一〇二九	二一五
二一六	二一七	一〇七〇	一〇四	一〇三〇	二一六
二一七	二一八	一〇八〇	一〇五	一〇三一	二一七
二一八	二一九	一〇九〇	一〇六	一〇三二	二一八
二一九	二二〇	一〇〇〇	一〇七	一〇三三	二一九
二二〇	二二一	一〇一〇	一〇八	一〇三四	二二〇
二二一	二二二	一〇二〇	一〇九	一〇三五	二二一
二二二	二二三	一〇三〇	一〇〇	一〇三六	二二二
二二三	二二四	一〇四〇	一〇一	一〇三七	二二三
二二四	二二五	一〇五〇	一〇二	一〇三八	二二四
二二五	二二六	一〇六〇	一〇三	一〇三九	二二五
二二六	二二七	一〇七〇	一〇四	一〇四〇	二二六
二二七	二二八	一〇八〇	一〇五	一	

○刑事訴訟法ハ起訴ノ形式ニ付キ特別ノ規定ヲ設ケサレハ檢事カ特定ノ人ニ特定ノ犯罪アリトシテ之ヲ訴追シ其處罰ヲ裁判所ニ求ムル意思ヲ表示スルニ於テハ起訴ノ要件ヲ具備スルモノニシテ特ニ起訴ノ文字ヲ用ウルノ要ナシ

(同三三)

法律ハ公訴ノ提起ニ關シ一定ノ書式ヲ制限セス從テ其旨趣ヲ了解シ得ヘキ書面ヲ提出スルヲ以テ適法ノ起訴アリタルモノトス

○豫審請求書ノ形式ニ付テハ特ニ一定ノ法式ナケレハ同請求書ニハ必スシモ受訴裁判所ヲ明記スルコトヲ要セス

(同三三)

豫審請求書ニ一定ノ法式ナシ

○豫審請求書ニ被告人トシテ記載セル氏名ノ何人ヲ指スヤハ職權ヲ以テ調査スヘキ事項ニ屬シ豫審判事及ヒ公判裁判所ハ一件記録ノ調査ニ依リテ得タル心證ニ基キ之カ判斷ヲ爲スノ職責アリ

○檢事ノ起訴狀ハ起訴ト同時ニ犯罪事實ヲ明示セサルトキハ之ヲ無効ト爲ス規定ナキヲ以テ若シ檢事ノ豫審請求書ニ起訴事實ノ記載ナキ場合ト雖モ單ニ其效力ヲ發生スルモノト解スヘキモノトス

(同三三)

豫審判事カ犯罪事實ノ明示ナキ不完全ナル豫審請求書ヲ受理シ豫審ニ著手スルハ不適法ニシテ其處分ハ無効トナルヘキモ檢事カ追完ノ手續ヲ爲シタルトキハ起訴ニ要スル條件ハ完備シ同時ニ公訴ハ裁判所ニ繫屬シタルモノトス從テ其追完後ニ於テ豫審處分ヲ爲スハ毫モ妨ナシトス

○起訴ノ有無ハ必スシモ書面ノ外形ノミニ拘泥シテ輒ク之ヲ判定スヘキニ非ス其實質ニ於テモ亦起訴ノ意思ヲ表示シタルモノナルヤ否ヤヲ審究シタル後始メテ之ヲ決スヘキモノトス

○起訴ニ關スル一般規定ト認ムヘキ刑事訴訟法第六十二條ニ依レハ豫審又ハ公判ノ請求ハ必スシモ書面ニ依ルヘキモノナルコトヲ要求セサルヲ以テ刑事訴訟法ハ公訴提起ノ一方式トシテ口頭起訴ヲ是認シタルモノト解スヘキモノトス

○被告人ノ全然不明ナル現行犯ニ付キ檢事カ豫審ヲ求ムルニ當テハ起訴狀ニ被告ノ氏名ノ記載若クハ之ヲ他ノ者ト區別スルニ足ルヘキ表示ヲ爲ササルモ公訴ハ適法ニ提起セララルモノトス

(同三三)

非現行犯ノ場合ニ於テ檢事ノ起訴ヲ爲スニハ一定ノ人アルヲ要ス故ニ非現行犯ノ場合ニ「甲者乙者」ノ宅ニ於テ丙者博徒ノ爲メニ重傷ヲ負ヒ命危シト云フ如キ電報ハ被告人ノ何人タル

刑事訴訟法 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審 起訴

四二 七五二

二八 一〇五

四三 一一〇

三〇 二二

四三 二八四

四五 二七

三六 九六

元 一四九六

二 九〇五

三 一九六三

ヲ知ルコト能ハス斯ノ如キ檢事ノ豫審請求ハ法律上其效ナキモノナレハ之ニ基因セル豫審處分モ亦無效ナリ即チ其公訴ハ未ダ起リタルモノト云フヲ得ス

公訴ヲ提起スルニハ現行犯ノ外總テ一定ノ被告人ヲ指定スルヲ要ス

公訴ヲ提起スルニハ現行犯ノ外總テ一定ノ被告人ヲ指定スルヲ要ス而シテ其公訴ノ提起ハ書面ニ依ラサルヘカラス

現行犯ノ場合ニ於テ檢事ノ豫審請求書ニ單ニ氏名不詳男一人ト記載シタルノミニシテ一定ノ被告人ヲ指示セサルモ被告事件ニ付キ適法ニ公訴ノ提起アリタルモノトス

現行犯事件ニ對シ豫審請求ノ方法ニ依リテ公訴ヲ提起スルニ付テハ必スシモ被告人ヲ指定スルコトヲ要セス

○起訴狀作成日附中ノ挿入文字ニ認印ヲ闕如シ挿入無効ニシテ作成日附ノ記載ヲ缺クニ至ルトキハ其起訴ハ不適法ナリトス

(參照)

懲治場留置處分ハ純然タル刑罰ニ非スト雖モ幼者犯罪ノ行爲ニ對シ刑法上ノ制裁アル以上ハ此ヲ言渡ス者ハ裁判所ニシテ之ヲ請求スル者ハ檢事ナラサルヘカラス而シテ檢事ノ之ヲ請求ヲ爲ス手續ニ付テハ單ニ該處分ノミヲ目的トシタル時ト否トニ拘ハラズ公訴手續ニ準據シテ起訴スヘキモノトス

檢事ヨリ豫審請求アルトキハ有效ナル起訴アリタルモノトス公訴狀ニ契印ヲ欠クモ爲メニ起訴ノ手續ヲ無効トラシムルヲ得ス

○刑事訴訟法第六十六條ニ於テ檢事ニ證據及ヒ事實參考ト爲ルヘキ事物ノ送致ヲ命シタルハ一ノ注意規定タルニ止マリ之ヲ缺ケル豫審請求ヲ以テ無効ト爲スノ趣旨ニ非ス

第六十六條

「第六十六條」

○起訴狀作成日附中ノ挿入文字ニ認印ヲ闕如シ挿入無効ニシテ作成日附ノ記載ヲ缺クニ至ルトキハ其起訴ハ不適法ナリトス

第三章 豫審

○檢事若クハ警察官カ事實發見ノ便宜上豫審判事ノ同意ヲ得テ當該事件ノ取調ニ參與スルモ之ヲ以テ豫審密行ノ原則ニ違反シタル不法アリト謂フヲ得ス

○裁判所及檢事局事務章程第十五條ニ依リ豫審判事ノ代理ヲ命セラレタル判事ハ豫審處分ヲ爲スノ職權アルモノトス

○刑事訴訟法上一同地方裁判所内ニ在テハ同一被告人ニ對スル數箇ノ犯罪事件ト雖モ之ヲ分離シテ豫審ヲ爲ス能ハサル規定ノ存スルコトナケレハ地方裁判所ノ本部及ヒ支部ニ於テ右被告事件ヲ分離シテ豫審ヲ爲スモ不法ニ非ス

○豫審判事ハ豫審ヲ求メラレタル事件ニ付テハ其事物ノ管轄カ地方裁判所ニ屬スルト將タ區裁判所ニ屬スルトヲ問ハズ其職責トシテ當然豫審處分ヲ爲シ且起訴ノ範圍内ニ於テ檢事ノ意見ニ拘束セララルコトナク

○豫審判事ハ豫審ヲ求メラレタル事件ニ付テハ其事物ノ管轄カ地方裁判所ニ屬スルト將タ區裁判所ニ屬スルトヲ問ハズ其職責トシテ當然豫審處分ヲ爲シ且起訴ノ範圍内ニ於テ檢事ノ意見ニ拘束セララルコトナク

刑事訴訟法 犯罪ノ捜査、起訴及ヒ豫審 豫審

二六	二	一八六
二六	二	四
二六	二	一七三
三	五	六〇
三		一三三
四		五九五
二六	二	一八五
二八	一	一一三

四		二二七
四		七八
四		一〇三
四五		五五

自由ノ決定ヲ爲ササルヘカラス
○豫審處分ノ轉囑ハ敏速ニ囑託ノ目的ヲ達スルヲ得ルノ利益アル方法ナルヲ以テ苟モ刑事訴訟法上之ヲ禁シタル明文ナキ限ハ有效ニ之ヲ爲シ得ルモノト解スルヲ相當トス

(同三三)

○刑事訴訟法中豫審處分ノ轉囑ヲ禁シタル明文ナケレハ受託判事カ他ノ地方裁判所豫審判事ニ證人ノ訊問ヲ轉囑スルハ違法ニ非ス

○豫審手續ハ原則トシテ之ヲ密行スヘキモノナレトモ之ニ背キタルトキハ其處分ヲ無効ト爲スヘキ旨ノ法規存セサル以上ハ之ヲ密行セサルノ故ヲ以テ直ニ之ヲ無効ナリト爲スヲ得ス

○豫審判事カ他ノ地方裁判所ノ豫審判事ニ或豫審處分ヲ囑託スルニ當リテハ電報其他ノ方法ヲ以テスルコトヲ禁シタリト認ムヘキ規定ナケレハ電報ニ依ル囑託ヲ目シテ無効ナリト論スルヲ得ス

○豫審判事カ爲ス總テノ豫審處分ニハ裁判所書記ノ立會又ハ其署名捺印ヲ要スルモノニ非ス其之ヲ要スルハ明文アル場合ニ限ルモノトス
○豫審調書ノ末尾ニ空白ノ存スル場合ニ於テ之ニ横線ヲ畫シ且捺印ヲ施ス等後日ノ記入ヲ豫防スル方法ヲ執ラサルモノ之ヲ以テ違法ト爲スヲ得

○豫審判事ノ作成スヘキ調書ニハ其所屬官署ノ表示ヲ必要トスルモノニ非ス

○領事又ハ其代理カ駐在國ニ在留スル邦人ヲ訊問シ調書ヲ作成シタル場合ト雖モ刑事訴訟法所定ノ豫審處分トシテ之ヲ行ヒタルモノニ非スシテ單ニ外務大臣ノ依囑ニ因リ好意上其訊問ヲ爲シ任意ノ答辯ヲ錄取シテ豫審判事ノ豫審處分ノ便ニ供シタルニ過キサルトキハ之ヲ以テ司法上ノ豫審若クハ搜查權ヲ執行シタルモノト云フヲ得ス而シテ其訊問調書ノ採否ハ事實裁判所ノ自由判斷ニ屬スルモノトス
○檢事カ同一被告人ニ對シ併合罪ノ關係ニ在ル數罪トシテ數回ニ起訴シタル場合ニ於テ豫審判事ハ之ヲ連續犯ノ關係ニ在ルモノト思料スルトキト雖モ豫審處分上一罪トシテ取扱フコトヲ得サルモノトス

○地方裁判所長カ裁判所構成法第二十五條ニ依リ區裁判所判事ニ豫審判事ノ代理ヲ命シタル場合ニ於ケル其所屬廳ハ地方裁判所ニシテ區裁判所ハ出張先ナリトス

○豫審ニ關スル刑事訴訟法ノ規定ハ特ニ豫審ニノミ關スルモノ又ハ他ニ別段ノ定アル場合ノ外ハ之ヲ公判ニ於ケル證據調其他ノ手續ニ準用シ

四五

二六六

四五

三五二

四一

八六三

三

三三〇

三

二七〇

三

一五五四

三

一六九二

四

一六四〇

五

四六一

七

二四四

七

六九三

得ルモノト解スヘキモノトス

第六十七條

第六十七條

○現行ノ重罪輕罪ヲ除ク外豫審判事ハ檢事ノ請求アルニ非サレハ豫審ヲ行フヲ得ス又公訴ハ犯罪ヲ證明シ刑ヲ適用スルヲ目的トスルモノニテ必ス其刑ヲ適用スヘキ人アルコトヲ要ス則チ被告ニ對シテ公訴ナキ豫審ハ適法ナラス從テ其調書モ亦其效ナキモノトス

○豫審判事ハ檢事ノ起訴ナキ非現行犯ニ付キ豫審處分ヲ爲スノ權ナシ從テ其調書ヲ斷罪ノ證據ニ供シタル裁判ハ不法ナリ

○豫審判事カ被告事件ニ付キ未タ訴ヲ受ケサル前ニ於テ證人ヲ訊問シ作成シタル調書ハ無効ナリトス

(同主旨)

豫審判事カ刑事訴訟法第四百二十二條第一項ノ場合即チ現行犯ニモ非サルニ檢事ノ請求ニ先チ豫審處分ヲ爲シタルハ同法第六十七條前段ノ規定ニ背反シタルモノニシテ同條後段ニ依リ無効ノ處分ナレハ隨テ其調書ノ無効タル論ヲ竣タス

豫審判事カ未タ訴ヲ受ケサル前ニ在リテ證人ヲ訊問シタルハ刑事訴訟法第六十七條ニ違背シタルモノトス從テ其訊問手續ハ無効ナリ

○豫審判事カ同一被告人ニ對スル甲事件ニ關シ其家宅ヨリ押收シタル物件中ニ存在セル或物品ニ付キ同事件ノ豫審遂行上其出所ヲ證人ニ訊問

シタル場合ニ於テハ縱令其物品ハ後日起訴セラレタル乙事件ノ贓物ニシテ甲事件ニ關係ナシトスルモノ之ヲ以テ請求ヲ受ケサル事件ニ付キ豫審ヲ爲シタルモノト云フヲ得ス

第一節 令狀

○總テ令狀ハ之ヲ發シタル被告事件ニ限り其效力ヲ有スルモノナルヲ以テ甲乙ノ事件カ併合罪ヲ成ス場合ト雖モ甲事件ニ關シテ發シタル勾留狀ノ效力ハ之ヲ乙事件ニ及ホスコトヲ得サルモノトス

○勾留狀ニ形式上ノ不備アリトスルモノ之ヲ以テ豫審調書ノ無効ヲ惹起セシムルノ原因ト爲スニ足ラス

第六十九條

第六十九條

○被告人自ラ豫審廷ニ出頭シテ供述ヲ爲シタル以上ハ召喚狀ノ有無ニ拘ハラズ其豫審調書ハ有效ナリトス

○被告人カ豫審判事ノ適法ナル訊問ニ對シテ爲シタル供述ハ訊問前ニ於ケル召喚手續ノ違法存スルカ爲メニ其效力ヲ失フヘキモノニ非ス

○豫審手續ニ於テ豫審判事カ被告人ヲ呼出スニ召喚狀ヲ發スルコトナク電話ヲ以テ呼出シタルトスルモ被告人カ呼出ニ應シテ出頭シタル以上ハ豫審判事ハ之ニ對シテ適法ニ訊問ヲ爲スコトヲ得ルモノトス

七

一〇五

二七

四六二

二六

二

一九七

三六

七七四

二八

一九

三六

一五三

四二

九二

四五

五五

二

一三三

三〇

一

四

三

二四八

五

一八七

(第九十條)

『第九十條』

第三節 證據

○判事ハ刑事訴訟法第二百二十三條ノ各項ニ觸ルルコトナキヤ否ヲ宣誓ノ上陳述セシメタルモノナレハ其證言ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供スルヲ得ヘシ

二五
二
四

○醫師ノ診斷書ハ豫審判事ニ於テ別ニ鑑定ヲ命シタルモノニ非サレハ宣誓ヲ爲スヘキ道理ナシ而シテ豫審判事ノ命ニ非スシテ醫師若クハ私立醫院ノ名稱ヲ以テ作りタル診斷書ハ裁判上直ニ之ヲ無効トシテ心證ノ資料ニモ供スヘカラストノ法條法理ナケレハ之ヲ採用スルモ違法ナリト論スルヲ得ス

二六
二
六

○犯所以外ニ於テ作りタル調書ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルヲ以テ不法ノ裁判ト云フヲ得ス

二六
二
一〇

○被告人ヨリ差出シタル告訴狀等ヲ取調ヘサルモノアリ公判始末書中契印ナキモノアリ被告人證人ノ調書中名下ニ押印若クハ拇印ナキモノアルハ共ニ無効ノ書類ナリ無効ノ書類ヲ證憑ニ採用シテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ノ判決ナリ
○警察官ハ非現行犯ノ場合ニ於テ檢證及ヒ訊問調書ヲ作ルノ權能ナキコト論テ談タス故ニ之ヲ作りタルトキハ違法ノ書面タルヲ免レヌ則チ其書面ヲ採テ斷罪ノ證ト爲シタルハ違法ノ裁判ナリ

二六
二
一七八

○巡查カ行政區ナル其駐在所ニ於テ作りタル盜難取調報告書ハ官署ノ印ヲ用フヘキモノニ非ス故ニ官印ナキ其報告書ヲ採テ斷罪ノ證憑ニ供スルモ不法ニ非ス

二六
二
三二

○判決表ハ無効ノ書類ト云フヲ得ス故ニ之ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供スルモ違法ニ非ス

二七
三

○非現行犯ナル場合ニモ拘ハラス巡查カ醫師ヲ呼ヒ鑑定ヲ命シテ作ラシメタル診斷書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ基カサル違法ノ鑑定書ナルニ之ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ失當ヲ免レヌ

二七
二七

○調書ニ誤記アルカ爲メニ無効ニ歸スヘキ謂レナキヲ以テ之ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供スルモ違法ニ非ス

二七
二四七

○證人ノ豫審調書ニ於テ刑事訴訟法第二百二十三條ニ記載シタル者ナルヤ否ヤヲ訊問シタル事跡ノ徵スヘキモノナケレハ其人果シテ證人ノ資格アル者ナルヤ否ヤヲ知ルニ由ナシ然ルニ原院カ其人ヲ以テ證人ノ資格アル者ト爲シテ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違法タルヲ免レヌ

二七
三〇四

○證人カ豫審判事ノ訊問ヲ受ケタル際共犯人トシテ豫審ヲ求メラレタル

被告人八名ナリシコト記録ニ明載シアルニ該證人ノ豫審調書ニハ被告七名ニ對シ刑事訴訟法第二百二十三條ニ記載シタル各項ノ關係ナキヤト問ヒタルコトノ記載アルノミニテ他ノ一名ニ對シテハ之ヲ問ヒタルコトノ記載ナシ然レハ該證人ハ被告人ニ對シ同條ノ關係ナカリシコトヲ認ムルニ由ナキヲ以テ其豫審訊問調書ハ被告人全體ニ對シ證據ト爲スヲ得サルモノナリ則チ原院カ之ヲ採テ斷罪ノ證據ト爲シタルハ不法ナリ

二七

三〇七

○非現行犯ノ場合ニ於テ犯罪ノ捜査上憲兵カ復命書ヲ出ス如キハ法ノ禁スル所ニ非ス又押收物件ノ如キハ其物件自體カ證據タルヘキモノナレハ押收手續ノ當否ニ依リ其效力ニ消長ヲ來スヘキモノニ非ス即チ原院カ右等ノ書類物件ヲ以テ斷罪ノ證據ニ供セシモ不法ノ判決ト云フヲ得ス

二七

四三〇

○立會人ノ署名捺印ナキ調書ハ法律上無効ノモノナルニ原院カ之ヲ採テ斷罪ノ證據ト爲シタルハ不法ナリ

二七

四五四

○證人甲者ハ被告ト親屬ノ關係アル告訴人乙者ノ訴訟代理人ナルモ甲者一個人タル資格ヲ以テ證人トシテ訊問シタルモノナレハ其調書ヲ採テ斷罪ノ證據ニ供スルモ違法ニ非ス

二七

四八一

○被告人ノ何人タルヲ知ル能ハサル場合ニ在テハ氏名不詳者ノ何何被告事件ト記シ以テ證人鑑定人ニ宣誓セシムルハ法ノ禁スル所ニ非ス從テ刑事訴訟法第二百二十三條ノ關係ヲ問查スル能ハサルモ該證言又ハ鑑定書ハ採テ以テ斷罪ノ證據ト爲スモ違法ニ非ス

二六

二二六

○自己ノ犯罪ヲ悔悟セシ旨ヲ申送りタル書簡ハ縱令相當官吏ニ宛テタルモノト雖モ之ヲ以テ官ニ自首シタルモノト認ムルヲ得ス

二六

二六〇

○證人調書ノ末尾ニ「右刑事訴訟法第三十一條ノ式ヲ履行シタリ」トアルハ第ノ下ニ百ノ一字ヲ脱シタルコト明カナル以上ハ原院カ之ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供シタルモ違法ニ非ス

二六

二八七

○刑事訴訟法ノ規定ニ基キ作製シタル檢證調書ニ非スシテ唯犯罪ノ捜査上被告事件ノ事實ヲ録取シタル書面ナレハ必スシモ立會人ヲ要セス此場合ニハ立會人ナキモ之ヲ證據トシテ採用スルコトヲ得

二六

三〇〇

○司法大臣ヨリ豫審掛ヲ命セラレサル判事ハ豫審判事ノ代理ヲ爲スヘキ職權ナキヲ以テ其爲シタル豫審處分ハ其効ナシト論告スレトモ裁判所構成法第二百二十五條ニ基キ司法大臣ノ定メタル裁判所及檢事局事務章程第十五條ニ依リ代理ヲ命セラレタル判事ハ豫審判事ノ職權アルヲ以テ其訊問調書ヲ無効ト爲スコトヲ得ス

二六

三三五

- 第一審ニ於テ某ノ豫審調書ヲ證人ノ證言トシテ採用シタル點ニ對シ違法ノ點ヲ説明シテ該判決ヲ取消シ更ニ同人ノ調書ヲ事實參考ノ爲メ徵憑トシテ採用シタルハ相當ナリトス
- 檢案書ハ鑑定書ト異ナリ固ヨリ宣誓ノ上作製スルモノニ非サレハ宣誓ナキモ之ヲ證憑ニ採用スルモ不法ニ非ス
- 證人訊問調書ヲ參考人訊問調書トシテ採用スルハ證據取捨ノ職權ニ屬ス
- 係爭事物ヲ以テ係爭事實ヲ斷定スル資料ト爲スハ不法ニ非ス
- 裁判所外ニ於テ一人ノ調成シタル文書ト雖モ法律上無効ニ非ス
- 豫審判事ハ檢事ノ起訴ナキ非現行犯ニ付キ豫審處分ヲ爲スノ權ナシ從テ其調書ヲ斷罪ノ證據ニ供シタル裁判ハ不法ナリ
- 盜難届ニ一定ノ式ナシ
- 公判ニ於テ管轄違ノ言渡ヲ爲スモ遡リテ豫審處分ノ效力ヲ抹消スルヲ得ス從テ其豫審ノ際蒐集シタル調書ハ適法ノ成立トシテ證據力ヲ有スヘシ
- 區裁判所ニ於ケル民事ノ口頭辯論調書ハ其判事差支アルトキニ限り裁判所書記ノ署名捺印ヲ以テ作成スルコトヲ得從テ其調書ヲ採テ斷罪ノ

二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
三	三	二	一	一	一	一
一七三	一三三	一九七	六四	三六	四八	三六〇

- 證據ニ供スルハ不法ニ非ス
- 第一審廷ニ於テ宣誓シタル證人ノ供述ハ其公判ノ續行ニ際シ判事ニ異動ヲ生シ更新ノ手續ヲ履マサリシ爲メ之ヲ無効トスルヲ得ス
- 檢事ハ非現行犯ノ場合ニ於テ檢證調書ヲ作り及ヒ鑑定書ヲ作ラシムルノ權能ナシ從テ其調書並ニ鑑定書ヲ罪證ニ供シタル判決ハ不法ナリ

(同三頁)
非現行犯ノ場合ニ於テ檢事ハ訊問調書ヲ作ルノ權能ナシ從テ其調書ヲ罪證ニ供シタル判決ハ不法ナリ

- 瘖啞者ノ供述ヲ參考トシテ徵憑ニ採容スルハ法律ノ禁スル所ニ非ス
- 宣誓ナキ通事ノ通譯ハ參考タル徵憑力ヲ有ス然レトモ純然タル證據力ヲ有セス
- 巡查ノ復命書ニ一定ノ方式ナシ從テ其記事體裁ノ如何ヲ問ハス斷罪ノ資料ニ供スルコトヲ得
- 鑑定ヲ命スルニハ必スシモ鑑定命令書アルヲ要セス從テ其命令書ニシテ刑事訴訟法第二十條ノ法則ヲ履踐セサルカ爲メ無効ニ歸スルコトアルモ鑑定書自體ヲ不法トスルヲ得ス
- 公判手續ノ瑕瑾ヲ以テ公廷ノ陳述ヲ不法トスルヲ得ス

二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八
三	三	四	三	四	三	三
一八一	二二	五二	一六九	九〇	一〇八	二二
二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
六	六	六	六	六	六	六
三六	三七	三六	三六	三六	三六	三六

- 召喚狀ニ違式ノ點アルモ證人參考人ニシテ異議ナク出廷シ相當ノ手續ヲ經テ任意ニ陳述シタル以上ハ其陳述ハ毫モ不合法ノモノニ非ス而シテ之ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供スルハ法律ノ是認スル所ナリ
- 既ニ解雇セラレタル者其雇ハレ中ノ事實ヲ證言スルハ法律上證言タルノ效ヲ有ス
- 死因ノ如何ハ事實ノ問題ニ屬ス從テ裁判官ハ醫師ノ檢案書ヲ憑據トセ
- 刑事上ノ證據ニ制限ナシ

(同三首)

- 證據徵憑ノ取捨ハ事實裁判官ノ職權ニ屬シ法律上特ニ無効タルコトヲ明示シタルモノノ外別ニ制限ナキヲ以テ巡查ノ犯罪報告書ヲ採テ證據ニ供スルモ違法ニ非ス
- 裁判所ハ或制限ノ外如何ナル種類ヲ問ハズ證據トシテ採用シ得ヘキハ論ヲ啖タス
- 巡查ノ報告書ハ法律ニ於テ徵憑トシテ採容スルコトヲ禁シタル文書ニ非ス從テ之ヲ以テ斷罪ノ料ニ供シタル裁判ハ不法ニ非ス
- 徵憑ニ制限ナシ(同一判例二八年三卷二〇頁)
- 公判始末書ハ證據力ヲ有ス
- 甲件ノ記錄ニアル證人參考人ノ供述ヲ以テ乙件ヲ斷スルノ證料ト爲シ得ヘキヤ否ノ論難ヲ試ムルハ證據取捨ノ批難ヲ爲スモノタルニ過キス

三〇	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
三〇	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八
三〇	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
三〇	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
三〇	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
三〇	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三
三〇	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
三〇	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一
三〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
三〇	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九
三〇	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
三〇	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
三〇	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
三〇	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
三〇	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
三〇	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
三〇	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
三〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
三〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三〇	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九
三〇	〇八	〇八	〇八	〇八	〇八	〇八	〇八	〇八	〇八
三〇	〇七	〇七	〇七	〇七	〇七	〇七	〇七	〇七	〇七
三〇	〇六	〇六	〇六	〇六	〇六	〇六	〇六	〇六	〇六
三〇	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五
三〇	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四
三〇	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三
三〇	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二
三〇	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一

- 偽證ヲ爲ササル以前ノ證人訊問調書ハ證言タルノ效力ヲ有ス
- 手續書ノ寫本ヲ採容スルト否トハ辯憑取捨ノ職權ニ屬ス
- 不法ニ勾留シタル事實アルモ之カ爲メニ適法ノ訊問及ヒ供述ヲ打破スルヲ得ス
- 共犯人ノ一人ニ對スル不法ノ證據ハ他ノ共犯人ニ付テモ不法ノ證據ナリ
- 當初輕罪トシテ地方裁判所支部ノ公判ニ付セラレタル事件ヲ立會檢事ニ於テ重罪トシテ訴追シタル爲メ地方裁判所へ移送セラレタル場合ト雖モ其訴追以前ニ於ケル參考人調書等ハ無効ニ歸スヘキモノニ非ス
- 公訴ノ判決ヲ採テ私訴ノ事實ヲ判定スル證料ニ供スルハ承審官ノ職權ニ屬ス
- 公判廷ニ於ケル證人ノ證言ハ其供述ヲ直ニ證據ニ供スヘキモノニシテ其供述ヲ記載シタル調書ヲ證據ト爲スヘキモノニ非ス
- 檢事ノ檢證調書ニ立會人ノ契印アルモ檢事自身ノ契印ナキトキハ調書トシテ其效力ヲ有セス
- 聽取書ハ職權ニ基キ調製スル文書ニ非サレハ司法官試補カ地方裁判所ニ繫屬スル事件ニ干與スル職權ヲ有スルト否トハ同官ノ作リタル聽取

三〇	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九	二九
三〇	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八	二八
三〇	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六	二六
三〇	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五	二五
三〇	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四	二四
三〇	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三	二三
三〇	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二	二二
三〇	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一	二一
三〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇	二〇
三〇	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九	一九
三〇	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八	一八
三〇	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七	一七
三〇	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六	一六
三〇	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五	一五
三〇	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四	一四
三〇	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三	一三
三〇	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二	一二
三〇	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一	一一
三〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇	一〇
三〇	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九	〇九
三〇	〇八	〇八	〇八	〇八	〇八	〇八	〇八	〇八	〇八
三〇	〇七	〇七	〇七	〇七	〇七	〇七	〇七	〇七	〇七
三〇	〇六	〇六	〇六	〇六	〇六	〇六	〇六	〇六	〇六
三〇	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五	〇五
三〇	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四	〇四
三〇	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三	〇三
三〇	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二	〇二
三〇	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一	〇一

豫審判事正當ノ手續ニ從ヒ喚問シタル參考人調書ハ其作成他ノ共犯ノ起訴以前ニ係ルモ其共犯ニ對シ法律上其效ヲ有ス

適法ニ成立シタル證人訊問調書ハ爾後ノ被告人ニ對シテモ證據力ヲ有ス

甲者ノ被告事件ニ付キ適法ニ成立シタル證人訊問調書ハ爾後ニ至リ訴追セラレタル乙者ノ被告事件ニ對シテモ仍ホ證據力ヲ有ス(同一判例二九年一一卷九四頁)

○甲乙ノ二所爲カ一箇ノ繼續犯ナル場合ニ於テ乙所爲ニ付キ檢事ノ訴追

前取調ヘタル證人ノ供述ハ乙所爲ニ對シテモ證言ノ效アルモノトス

○事實ニ關スル人ノ裁判外ノ陳述ヲ證據トシテ係爭事實ヲ判斷スルハ推

理判斷ノ一作用ナリトス從テ此種ノ供述ハ其性質ニ於テ絶對的ニ事實

確定ノ憑據タルコトヲ得ヘカラサルモノト論スルヲ得ス

○豫審ニ於テ證據不充分ナリトノ理由ヲ以テ免訴ノ言渡ヲ爲シタルトキ

ハ一旦公訴ハ消滅スヘキモ爲メニ其證據記録ノ無効ニ歸スヘキ謂レナ

シトス從テ再起訴ノ場合ニ其記録ヲ採テ罪證ニ供スルモ不法ニ非ス

○始末書ナルモノハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒ作成スヘキ書類ニ非ス從テ

其翻譯書亦同法ノ規定ニ從ヒ作成スヘキ書類ニ非サルヲ以テ通譯鑑定

等ノ場合ノ如ク宣誓其他ノ法式ヲ履踐セサルモ不法ニ非ス

○管轄違ナルニ依リ豫審手續無効ニ屬スル場合ト雖モ其無効ハ豫審ニ於テ

テ供進シタル證人ノ證言ニ及ホスヘキモノニ非ス

(同左頁)

○管轄違ニ因リ公訴手續無効ニ屬スト雖モ其公判ニ於テ供進シタル證人ノ證言ハ證據力ヲ有ス

○司法警察官カ犯罪捜査上作成シタル聽取書即チ關係人ノ自由任意ニ出

テタル供述ヲ錄取セル書類ハ適法ナルモノニシテ事實裁判所ニ於テ犯

罪事實ノ有無ニ付キ其心證判斷ノ資料ニ供シ得ヘキ證據タルノ效力ヲ

有スルモノトス而シテ其聽取書ニ錄取者供述者共ニ署名捺印シ作成ノ

方法ニ於テ豫審調書ニ類似スル所アルモ此一事ヲ以テ其供述ヲ不法ナ

リトシ之ヲ錄取セル聽取書ハ司法警察官カ豫審判事ノ職權ヲ侵シテ作

成シタル不法ノ書類ナリト斷定スルヲ得ス

○參考人ノ供述ハ其供述ノ形式ニ於テ證人ノ供述ト異ナリ證據トシテノ

效力薄弱ナルモ法律カ事實發見ノ爲メニ其供述ヲ聽クコトヲ認許スル

以上ハ其供述ハ一種ノ人證トシテ事實認定ノ資料ニ供スルコトヲ得

(同左頁)

○證人訊問ノ決定ニ違法アル場合ト雖モ適式ノ呼出ヲ受ケ出廷シタル證

人ニ於テ何等ノ異議ヲ申立テサリシトキハ其供述ヲ採用シテ罪證ニ供

スルモ不法ニ非ス

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

三三 五 四一

二九 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

三〇 一四 八〇

○單ニ勸商場ト記載シ其場ノ模様ニ付キ別ニ何等ノ記載ナキ以上ハ之ヲ一種ノ建造物ト解スヘキハ當然ナリ

三七

八三二

○官廳ノ證明書ハ裁判外ニ於テ他ノ官廳若クハ私人ノ爲メニモ之ヲ下付スルコトヲ得ヘク何レノ場合ニ於テモ證明書トシテ其效力ヲ有ス是故ニ公訴裁判所カ刑事訴訟法ノ規定ニ違背シ公判開廷前ニ之ヲ取寄セタル一事ノミヲ以テ其證效ヲ減却セシムルコトヲ得ス

三七

九五五

○控訴裁判所ノ公判始末書中檢事ハ原判決書ノ公訴事實ト同一ノ陳述ヲ爲シ被告人ハ裁判長ノ問ニ對シ檢事ノ陳述セラレタル所ニ相違ナシト答ヘタル旨ノ記載アルノミニシテ第一審判決ノ事實如何ヲ掲ケサル場合ト雖モ其始末書ノ記載カ犯罪ヲ自認シタルモノト爲ルヤ否ヤハ證據判斷ノ範圍ニ屬ス

三七

一二九

○醫師ノ死體檢案書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ依リテ作成スルモノニ非サレハ該書面自體若クハ其他ノ書類ニ依リ作成ノ手續ヲ明確ニ爲ササルカ爲メニ之ヲ無効ナリト云フヲ得ス

三七

二二九七

○慣習法則又ハ商慣習ニシテ裁判所ニ知レタルモノハ當事者ノ申立及ヒ證明ヲ候ツコトナク其職權上之ヲ適用セサルヘカラス
○公訴ニ關スル被告人ノ陳述ト雖モ之ヲ私訴ノ證據ニ採用スルハ不法ニ非ス而シテ其陳述ニ係ル事項カ被告人ノ利害ニ關スルト否トハ之ヲ問フノ要ナシ

三六

四四一

○森林主事カ非現行犯事件ニ付キ證據物件ヲ差押ヘタルトキハ擅ニ豫審處分ニ屬スル行爲ヲ爲シタルモノナレハ其處分ハ違法ニシテ之カ結果ヲ記載シタル實況書ハ無効ナリトス

三六

四六一

○裁判所カ刑事訴訟法第九十七條第二項ノ規定ニ違反シ退廷セル共同被告人ニ相被告ノ供述事項ヲ告知セサルハ不法ナレトモ公判始末書其モノハ之カ爲メ全然無効ニ歸スヘキモノニ非スシテ唯其退廷中相被告カ爲シメル供述ノ部分ノミ共同被告人ニ對シテ無効ナルニ過キス

三六

五二七

○豫審ニ於テハ鑑定人ノ調書ハ必スシモ之ヲ作成スルコトヲ要セス從テ其調書ヲ作成スルコトアルモ別ニ則ルヘキ方式ナケレハ縱令鑑定人ノ署名捺印ナシト雖モ之ヲ目シテ違法ノ調書ト云フヲ得ス

三六

五五九

○參考人ニ對シ宣誓ヲ命シタルトキハ其手續ハ違法ニシテ同人ノ供述ハ縱令宣誓ノ手續ヲ履ミタレハトテ適法ノ證言ナリト云フヲ得ス

三六

六五二

○刑事訴訟法第九十條ニハ諸般ノ徵憑トアリテ臆本ヲ除外シタル旨趣ノ見ルヘキモノナシ故ニ臆本ト雖モ事實承審官ニ於テ之ヲ證據ト爲スニ妨ナキモノトス

三九

一六

(同主旨)

刑事訴訟法中書類ノ原本ニ代ヘテ謄本ヲ提出スルコトハ絕對ニ之ヲ許ササル旨ノ規定ナケレハ苟モ證明ノ具ト爲ルヘキ書面ハ其形式ニ於テ證據タルニ適スルノミヲ以テ足レリトシ其書面ノ原本トシテ作成セラレタルモノナルヤ將タ原本ヲ基礎トシテ作成セラレタル謄本ナルヤハ之ヲ問フノ要ナキモノトス

○證人カ其實驗シタル事實ト他人ヨリ傳聞シタル事實トヲ綜合シテ供述ヲ爲シタル場合ニハ裁判所ハ其供述ノ全體ニ付キ包括的ニ作爲セル心證ニ從ヒテ之ヲ斷罪ノ資料ニ供スルコトヲ得從テ該供述中證人ノ實驗シタル部分ノミヲ採擇シ其傳聞ニ係ル部分ヲ排斥スルノ必要ナキモノトス

○公開セサル公判ハ全然違法ナリトス從テ其公判ニ於ケル被告ノ供述ハ之ヲ罪證ニ供スルコトヲ得ス

○裁判所カ他ノ證據ヨリ得タル心證ニ依リ證人供述ノ誤謬ヲ認メ其供述ノ旨趣ヲ訂正シタル結果ニ付キ心證ヲ作爲スルハ不法ニ非ス

○一ノ證書中數多ノ文字アル場合ニ於テ其各文字ヲ對比照合シ證書ノ眞僞ヲ定ムルハ證據ノ眞僞ヲ判斷スル一ノ手續ニシテ檢證ニ非ス
○各官廳ノ所管事項ニ係ル回答ノ旨趣ヲ證據トスルハ法律ノ禁スル所ニ非ス而シテ其回答ノ書面ニ依ルトシテ電話ニ依ルトハ之ヲ區別スルノ

要ナシ

○裁判所カ證人ノ供述ヲ以テ鑑定人ノ供述ナリトシ之ヲ證據ニ供スルモ其信憑力ニ變動ヲ來スヘキモノニ非ス從テ其誤謬ハ判決ニ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ

○誣告ニ基キ起リタル被告事件ノ爲メ作成セラレタル聽取書ハ其誣告被告事件ニ付テモ亦證據書類ナリトス

○豫審終結ノ決定ヲ爲シタル判事カ公判手續中受託判事トシテ證據ヲ蒐集シタルトキハ其處分ハ無効ナリトス故ニ該處分ニ依リテ得タル證據ハ獨立ノ證據力ヲ具有スル物件ニ非サル限リ法律上何等ノ證效ヲ有セス

○判事ニ異動アリテ審理ヲ更新セル場合ニハ其更新前ニ於ケル證人又ハ被告人ノ供述ハ更新後ノ審理ニ不法ノ點アルト否トニ關セス總テ有效ナリトス

○同一事件ニ於テ犯罪ノ目的物タル數多ノ同一種類ノ物件ニ付キ同一事項ヲ鑑定スルニ方リ偶指定セラレタル鑑定物ノ數量ヲ超過シテ鑑定ヲ爲シタル場合ト雖モ事實裁判所カ其超過部分ノ鑑定ヲ以テ犯罪事實ノ一部ヲ證明スルニ足レリト判斷シタルトキハ之ヲ採用スルモ不法ニ非

三七
二二二

三九
二六一

三九
二四八

三九
二七五

三九
二九六

三九
一三四四

三九
一三七二

四〇
五四

四〇
二四二

四〇
三九二

○證人又ハ參考人ニ非サル者ノ供述ハ之ヲ證據トシテ採用スルコトヲ得ス

四〇

四九一

○參考人調書ハ其調書ノ屬スル事件ニ付テモ將タ之ヲ採用セル他事件ニ付テモ共ニ同シク參考證トシテ事實認定ノ資料ニ供セラルルモノニ過キサレハ其所屬ノ事件ヨリ見タル信憑力ト他事件ヨリ見タル信憑力トノ間ニ毫モ強弱ノ差アルコトナシ從テ前項ノ不當ハ判決ノ效力ニ何等ノ影響ヲ及ホサス(第二二三條四〇年八四〇頁參照)

四〇

七四〇

○他事件ニ關スル證人訊問調書ヲ以テ當該事件ニ付キ取調ヘタル證人訊問調書ト誤認シ之ヲ斷罪ノ證據ト爲シタル判決ハ不法ナリ

四〇

八四八

(同主旨)

別件ノ證人訊問調書ヲ以テ本件ニ關スル證言ト爲シ斷罪ノ證據ニ供シタル判決ハ不法ナリ

三〇

九

五一

○豫審調書ノ作成日附ト訊問日附ト相先後シ何レノ日附カ誤記ニ屬スルヤ記錄上之ヲ確知シ難キ場合ニ於テハ其調書ハ無効ナリトス

四一

一六三

○豫審判事ノ問合ニ對スル官廳ノ回答書ニ付テハ法令上其形式ヲ定メタルモノナケレハ事實問合ヲ受ケタル者ノ作成ニ係ルコトヲ認ムルニ足ル以上ハ其作成者ノ署名捺印又ハ官署ノ捺印ヲ缺如スルノ故ヲ以テ之ヲ無効ノ書面ト爲スヲ得ス

○起訴後一人ノ作成シタル文書ト雖モ之ヲ罪證ニ供スルコトハ法律ノ禁スル所ニ非ス

四一

九七三

○證據物件目錄ニ犯罪供用物件ノ出所ヲ示シタル附記アルトキハ之ヲ證據ニ援用スルモ不法ニ非ス

四一

一〇三九

○被告事件ノ豫審記錄又ハ其謄本ハ之ヲ他事件ノ證據ニ供シ得サル旨ノ規定ナケレハ現ニ他事件ノ證據トシテ公廷ニ提出セラレアル以上ハ裁判所ハ自由ナル證據判斷ニ基キ之ヲ取捨シ以テ斷罪ノ證據ニ供スルコトヲ得

四二

一八四三

○豫審調書ノ謄本ト雖モ受訴裁判所ニ於テ其原本ト相違スル所ナシト認ムルトキハ之ヲ原本ト同一視シ斷罪ノ證據ニ供スルコトヲ得

四二

一八四三

○他事件ニ付キ取調ヲ受ケタル證人被告人其他ノ關係者ノ供述ト雖モ其後ニ起訴セラレタル別事件ノ證據トシテ之ヲ援用スルコトヲ妨ケス

四三

六二八

(同主旨)

原判文ニ別件證人ノ豫審調書ヲ明示シアレトモ其調書ハ本件ノ被告ニ對スル證言トシテ之ヲ心證ニ供シタルニ非ス但之ヲ援用シテ本案ヲ斷スルノ一材料ニ供シタルニ過キサレハ之ヲ以テ不當ト爲スヲ得ス

二八

二三

ヲ爲シタルモノナレハ到底無効タルヲ免レサルモノナルニ原院カ該證ヲ有罪ノ證據ト爲シタルハ違法ナリト論告スルモ被告甲者ハ最初乙者カ被告事件ノ證人トシテ訊問ヲ受ケ其後乙者ノ共犯タル事實發見シタルモノナレハ其陳述ヲ正當ノ證言ト爲スコトヲ得スト雖モ其調書ヲ以テ事實ノ參考ニ供スルコトヲ得ルナリ故ニ原判文中特ニ被告甲者カ證人ト爲リテ訊問ヲ受ケタル豫審調書ト記載シ之ヲ證憑中ニ加ヘタルハ違法ノ處分ニ非ス

甲件ノ證人調書ヲ援用シテ乙件ノ證料ニ供スルハ之ヲ以テ參考證ト爲スニ止マリ乙件ニ於ケル證言トシテ效力ヲ有セシムルモノニ非ス

別件ノ證據ト雖モ其理由ヲ付シ之ヲ採用スルコトヲ得

- 私訴狀ニ於ケル被害顛末等ノ記載ハ之ヲ證據ニ援用スルコトヲ禁止シタル法規ナケレハ裁判所カ其記載ヲ斷罪ノ資料ニ供スルハ違法ニ非ス
- 公判裁判所カ甲乙二名ノ被告人ヲ合同審理シタル場合ニ於テハ甲者ノ被告事件ニ付キ取調ヘタル證人ノ豫審調書ヲ援用シテ乙者ニ對スル罪證ト爲スモ不法ニ非ス
- 公訴不受理ノ確定判決ハ當該事件ニ付キ行ハレタル裁判所ノ處分ヲ無効トスルニ止マリ其處分ニ依リテ押收セラレタル物件自體ノ證據力ニハ何等ノ影響ヲ及ホスコトナシ
- 荷モ受訴裁判所カ人ヲシテ宣誓ノ上鑑定ヲ爲サシムルニ於テハ其鑑定ニ關スル證據決定ノ無効ナル場合ト雖モ該鑑定手續ハ有效ニシテ之ニ

二六	三〇	三三	四三
一〇	四	一〇	四
三四七	一	六	一七四
八三〇			

- 基キ作成セラレタル鑑定書ハ證據力ヲ有スルモノトス
- 土地ノ境界形狀ヲ示セル役場備付ノ圖面ハ土地所有權ノ争ニ付キ一應ノ證據タルニ止マリ荷モ反證アル以上ハ未タ訂正ノ手續ヲ經サル前ト雖モ裁判所ニ於テ之ト異ナリタル境界ヲ確定スルコトヲ妨ケス
 - 裁判所カ訊問ノ當時心神耗弱者ニ非スト認メテ宣誓セシメ證人トシテ之ヲ審訊シタル場合ト雖モ其認識ノ誤謬ナルコト判明シタル以上ハ該證言ハ絶對ニ無効ナリトス
 - 豫審刑事カ證人タル資格ナキ者ニ對シ宣誓ヲ爲サシメ證人トシテ訊問スルハ違法ニシテ其調書ハ無効ナリ

- (同三三)
- 公權別奪者ヲ證人トシテ訊問シタル豫審調書ヲ斷罪ノ資料ニ供シタル判決ハ不法ナリ
 - 共同被告人ノ一名カ其起訴前ニ於テ證人トシテ爲シタル供述ヲ其旨ヲ明示シテ被告事件ノ證憑ニ採用スルハ違法ニ非ス
 - 被告事件ニ付キ共犯關係ヲ有スル者ト雖モ被告人トシテ訴追セラレサル以上ハ證人タル資格アルモノナルヲ以テ訴追前其者ヲ證人トシテ訊問シタルニ因リ作成シタル調書ハ其效力ヲ失フモノニ非ス

四三	四三	四三	四三
一四〇三	一六八	七三	三五〇
二九	四	一七	六八三
四			八四

被告人トシテ公訴ヲ提起セラレサル以前ニ於テ證人トシテ訊問セラルコトアルトキハ其調書ハ證人調書トシテ效力ナラス

二六 三 二一八

○辯護人ヲ呼出サスシテ爲シタル公判ノ審理ハ不法ナルヲ以テ同公廷ニ於テ爲シタル被告人ノ供述ハ之ヲ證據ニ採用スルヲ得サルモノトス

四 八五二

(同主旨)

裁判所カ公判期日ニ辯護人ヲ呼出サスシテ審理ヲ終結シタルトキハ其審理ニ於ケル被告人ノ供述ハ證據タルノ效力ヲ有セス從テ其供述ニ依リ犯罪事實ヲ認定スルハ違法ナリトス

三六 一〇九八

○證人調書ト被告人調書トハ訊問手續ノ形式ヲ異ニスルノミナラス其信據力ニ相違スル所アルヲ以テ原判決カ豫審ニ於テ被告人トシテ訊問セラレタル者ノ豫審調書ヲ證人調書ト爲シ其記載事項ヲ罪證ニ供シタルハ採證ニ不法アル裁判ナリトス

四 二七五

○證人呼出決定ノ有效ナルト否トヲ問ハス苟モ證人訊問ニ關スル訴訟法上ノ手續ニ違背スルコトナク人ヲシテ宣誓ノ上供述ヲ爲サシムルニ於テハ其證人ノ證言ハ法律上證據力ヲ有スヘキモノトス

四 二二六

○勾引狀又ハ勾留狀ノ記載ニ違法ノ點アルモ爲メニ適法ニ作成セラレタル豫審調書ハ無効ニ非ス

四 二二七

○詐欺破産罪ニ於ケル被告人ノ破産財團ニ對シ債權者トシテ債權ノ届出ヲ爲スモ犯罪ノ原因トシテ贓物ノ還給又ハ損害ノ賠償ヲ請求シタルモノニ非サル限ハ之ヲ以テ民事原告人ナリト云フヲ得ス從テ右債權者カ豫審ニ於テ宣誓ノ上供述シタル事項ヲ罪證ニ供スルモ違法ニ非ス

四 二四七

○林務官ノ職ニ在ル者非現行犯ノ場合ニ作成シタル檢證調書ハ無効ナルト同時ニ之カ附屬圖面モ亦檢證繪圖面トシテハ無効ナルヲ以テ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ナリ

四 二四三

○豫審判事カ被告ニ對シ計算ニ關スル訊問ヲ爲シタル場合ニ於テ豫審調書ニ被告提出ノ計算書ヲ綴込ムモ該計算書ハ豫審判事ノ審問ニ對シ被告ノ供述ヲ筆録スルニ代ヘテ之ヲ綴込ミタルモノニ外ナラサレハ結局被告ノ供述ヲ記載シタルモノヲ綴込ミタルト同一ノ效力ヲ有シ該調書ハ有效ナリトス

四 一七九

○檢事ノ聽取書ハ檢事局雇ノ筆記ニ係ルモノナリト雖モ其作成者ハ檢事ナルヲ以テ檢事ニ於テ署名捺印ヲ爲シ作成ノ正確ヲ認證シアル以上ハ該聽取書ハ違法ニ非ス

四 二〇五

○刑事訴訟法第二百二十四條第六號ニ違背シテ訊問シタル結果ハ同事件ノ斷罪ノ資料ニ供スルヲ得サルハ勿論其事件ニ付キ證人ト共犯關係アル被告人ニ對シ起レル他事件ノ證據資料ト爲スヲ得ス

四五 四五四

○證人ノ訊問調書トシテハ無効ナリトスルモ更ニ新ニ參考人トシテ訊問

シタル調書ハ無効ニ非サルヲ以テ縱令其内容ニ於テ證人トシテ訊問シタル調書ノ記載事項ニ基キ訊問ヲ爲シタル記事アルニモセヨ其調書ノ效力ニ影響ヲ及ホスモノニ非ス

四五

六八一

○公判始末書ニ於テ被告カ村税金二百三十九圓四十九錢ヲ費消シタル事實ヲ陳述シタルコトノ記載アルノミナルニ判決ニ於テ被告カ村税金合計二百三十九圓四十九錢九厘ヲ横領シタル旨陳述シタルカ如ク説明シタルハ虛無ノ證據ヲ罪證ニ供シタル違法アルモノトス

四五

八三

○證人ノ豫審調書ハ之ヲ參考人ノ豫審調書トシテ罪證ニ供スルモ事實ノ認定ニ對シ何等ノ影響ヲ及ホスモノニ非サレハ之ヲ以テ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

四五

八二

○檢證調書ニ證人又ハ被告人ノ訊問供述ヲ錄取シタル場合ニ於テ供述者ニ其部分ヲ讀聞ケ署名セシメスト雖モ單ニ其供述ヲ錄取セル部分ノ無効ナルニ止マリ檢證調書全體ノ無効ヲ來スモノニ非ス

四五

九〇四

(同三三) 檢證調書中證人訊問ノ事項ヲ記載セシ部分ニ違法ノ點アルハ檢證調書全部ヲ無効トスヘキモノニ非ス

三三

七六

○公判延ニ於ケル巡査ノ供述ハ縱シ同人カ不法ノ處分ヲ爲シタル始末ヲ開陳シタルモノトスルモ供述其モノハ不法ニ非サルヲ以テ之ヲ引用シタル判決ヲ攻撃シテ上告ノ理由ト爲スヲ得ス

元

二七七

(同三三)

○豫審ニ於テ舊刑法ノ重罪ニ該ル被告事件トシテ第一審裁判所ノ公判ニ付セラレタル場合ニ於テ第一審裁判所カ刑事訴訟法第二百三十七條所定ノ手續ヲ履行セサルトキハ第一審ノ公判手續ハ無効ナルヲ以テ右公判ニ於ケル被告ノ供述ハ之ヲ適法ノ證據トシテ採用スルヲ得サルモノトス

元

二二七

○事實裁判所カ被告事件ノ審理上特許權ノ範圍ヲ判定スル必要アル場合ニ特許明細書ノ記載ニ疑アルトキ他ノ證據ヲ參照シテ自由ナル判斷ニ依リ之カ解釋ヲ爲シ以テ特許權ノ範圍ヲ明カニスルハ證據ノ解釋ニ付キ事實裁判所ノ有スル職權ノ行使ニ外ナラス

四三

三一

○證人カ其供述ニ付キ僞證ノ訴追ヲ受ケ處罰セラレタル事實アリタリトスルモ斯ノ如キ證言ハ法律上證據ニ採用スルコトヲ禁ストノ規定ナケ

元

一三三

レハ之ヲ罪證ニ供シタリトテ違法ナリト云フヲ得ス

元 一三七五

○訊問事項カ官吏公吏トシテ默秘スヘキ義務アルモノニ關スト雖モ證人ニ於テ拒絶權ヲ行使スルコトナク任意ニ供述シタル場合ニ於テハ其證言ハ無効ニ非ス

元 一五七七

○勾留狀ハ不適法ナリト雖モ其執行ニ因ル勾留中適法ノ訊問ニ對スル被告ノ供述ハ無効ニ非サルヲ以テ之ヲ罪證ニ供シ得ヘキハ勿論ナリ

二 一八七

○偽證ニ擬セラレタル證人ノ供述ト雖モ其幾部ニ眞實ノ存スルコトナシトセサルニ付キ此部分ヲ探テ事實認定ノ證料ト爲スヲ妨ケス

二 二二三

○電話聽取書ヲ斷罪ノ資料ニ供スルコトハ法ノ禁スル所ニ非サルヲ以テ違法ニ非ス

二 五〇五

○審判更新後ニ於ケル證人訊問手續ニシテ毫モ違法ノ廉ナキ以上ハ縱令第一回公判ニ於ケル同證人喚問ノ決定ヲ無効ナリトスルモ同證言ノ效力ニ影響ヲ及ホスヘキモノニ非ス

二 六七五

○巡查カ司法警察事務上警部ヲ代理スルコトヲ得ヘキモノナルコトハ明治十四年司法省布達甲第五號及ヒ同年司法省達丙第十三號ニ依リ認めラルル所ナルヲ以テ巡查ニ於テ司法警察官ヲ代理シテ作成シタル聽取書ハ無効ノ書類ニ非ス

二 七九〇

(同主旨)

巡查カ警部代理ヲ爲スハ明治十四年十月司法省甲第五號達ノ規定スル所ニシテ巡查部長ノ資格アルニ非サレハ警部代理ヲ爲スヲ得サル旨ノ規定アルコトナシ從テ巡查カ警部代理ト爲リ司法警察官トシテ作成シタル聽取書ハ有效ナリトス

三六 一五八六

○過去ニ於テ實驗シタル事實ニ關スル人ノ供述ハ其人カ何等ノ判斷ヲ要セスシテ直覺シタル事實ニ關スルト其判斷ヲ用キテ之ヲ認識シタルモノニ關スルトニ論ナク事實認定ノ資料ト爲スコトヲ得ヘク從テ人ノ意見ト雖モ其實驗シタル事實ニ關スルモノハ之ヲ以テ斷罪ノ證據ト爲スコトヲ得ルモノトス

二 九六九

○豫審判事カ取調ノ便宜上作成シタル計算表ノ如キハ關係者ノ承諾ナキ以上固ヨリ何等證明力ナキモノナレハ之ヲ斷罪ノ證據ニ供スル能ハサルモノトス

二 一〇三五

(同主旨)

豫審判事カ取調ノ便宜上作成シタル計算表ハ素ト何等ノ證明力ナキモノナレトモ之ヲ被告ニ示シテ其承諾ヲ得タルトキハ該表ハ之ニ依リテ有效ノ證據ト爲ルモノトス

四四 五二三

○共同被告人ニ對スル追起訴アリタル後ニ證人訊問ヲ爲ス場合ニ於テハ其訊問ハ追起訴ト同日ニシテ又豫審判事カ偶共追起訴アリタル事實ヲ知ラサリシトスルモ苟モ追起訴アリタル被告人トノ關係ヲ證人ニ問查

スルコトヲ遺脱シタルトキハ之ニ基ケル訊問ハ違法ニシテ其豫審調書ハ無効ナリトス

○被告事件ノ審理カ何時行ハレタリヤハ唯リ公判始末書ノ記載ヲ以テ之ヲ證明スヘキモノナルヲ以テ公判始末書自體ニ依リ右審理ノ日時カ認め得ヘカラサルトキハ該始末書ハ無効ナルニ依リ探テ以テ犯罪事實認定ノ資料ニ供スルヲ得ス

○物件差押ノ違法ナルト否トニ拘ハラス苟モ其物件ニシテ證據力ヲ有スル以上裁判所ハ之ヲ斷罪ノ資料ニ供スルヲ妨ケス

(同主旨)

豫審判事カ警察官チシテ證據物件チ押收セシメタルハ違法ノ處分チ免レサルモノトスルモ警察官チシテ更ニ調書等ヲ作製セシメタル場合ト異ナリ其押收ノ物件其自體ニテ既ニ證據力ノ效力ナ具備シ居ル以上ハ原院方之ヲ以テ斷罪ノ資料ニ供スルモ違法ノ裁判ニ非ス押收手續ノ違法ナルト否トニ拘ハラス法廷ニ顯ハレタル物件チ探テ斷罪ノ資料ニ供スルハ事實裁判所ノ職權ニ屬ス

司法警察官カ非現行犯ノ場合ニ於テ不法ニ或物件チ押收シタルトスルモ苟モ公廷ニ於テ該物件ニ付キ適法ノ證據調書爲シタル以上ハ之ヲ證據トシテ採用スルコトチ妨ケス

○證據ノ取捨ハ事實裁判所ノ職權ニ屬スルモノナルヲ以テ被告ノ供述カ分割ヲ許ササル場合ハ格別然ラサル以上ハ其一部ヲ探リ他ノ一部ヲ捨

タルモ固ヨリ裁判所ノ自由ナリトス

○判決認定ノ横領金額カ二十二圓二十二錢二厘トアルニ拘ハラス其證據理由中ニ第一審公判始末書中(横領金額二十二圓二十二錢トアリ)ニ於ケル判示犯行ヲ全然自認セル旨ノ記載アリトスルモ是レ被告カ右横領ニ關スル認定金額ヲモ包含シテ全部自認セルモノト爲シタルモノニシテ證據解釋權ノ行使ニ付キ失當アリト云フヲ得ス

○賄賂交付及ヒ賄賂收受被告事件カ同時ニ起訴セラレタルトキハ賄賂交付事件ニ付キ證人訊問ヲ爲ストキト雖モ賄賂收受被告人トノ身分關係ヲモ問查シ證人資格ノ有無ヲ判定セサルヘカラス故ニ右手續ヲ盡サザリシ證人訊問ハ不法ニシテ該調書ハ無効ナリトス

○檢事カ豫メ所管内ニ於ケル賭博ノ習癖アル者ニ付キ捜査上認知シタル事實ニ基キ作成シタル賭博常習者名簿ト雖モ單ニ其氏名住所若クハ乾兒ヲ有スル旨ヲ記載シタルニ止マリ其常習ヲ推測シ得ヘキ事實竝ニ右事實ヲ具體的ニ說示セサルモノナルトキハ檢事ノ單純ナル意見書ト認ムヘク之ヲ以テ常習賭博罪ヲ認定スルノ資料ト爲スヲ得ス

○自首ハ犯人自ラ其犯罪事實ヲ申告スルモノニ外ナラスト雖モ其申述ヲ錄取スル調書ノ形式ニ付テハ法律上何等ノ制限ナキヲ以テ縱令調書中

1090

1193

1336

197

36

283

1490

76

1011

486

問答ノ記載アリトスルモ之ヲ以テ調書ノ效力ヲ否認スルニ足ラス

○公判廷以外ニ於テ爲スヘキ證人訊問ハ裁判所自ラ之ヲ爲スト受命判事若クハ受託判事ヲシテ之ヲ爲サシムルトヨ問ハス均シク公判ノ準備手續タルニ過キササルヲ以テ裁判所書記ニ於テ其訊問調書ヲ證人ニ讀聞カセ其記載ニ錯誤ナキコトヲ確實ナラシムル手續ヲ履踐スルニ非サレハ該調書ハ證據タルノ效力ナキモノトス

(同三三)

公判裁判所ノ當該裁判官全員犯所ニ臨ミ檢證處分ヲ爲スハ公判ニ於ケル證據調ノ準備手續タルニ過キサレハ檢證ノ際證人ヲ訊問シ其供述ヲ檢證調書中ニ記載シタルトキハ文書ノ真正ニ對スル擔保トシテ之ヲ證人ニ讀聞ケ署名捺印セシメサルヘカラス然ラサレハ其供述記載ノ部分ハ證據力ヲ有セサルモノトス

○總テ意見ハ鑑定人ノ特別ノ知識ニ因ルモノ又ハ證人被告人ノ實驗シタル事實ニ牽連スル知識ニ因ルモノニ非サレハ之ヲ證據資料ト爲スコトヲ得サルモノナルヲ以テ司法警察官ノ作成セル司法要視察人名簿ノ如キ獨斷的意見ノ記載ハ之ヲ證據ト爲スコトヲ得サルモノトス

(同三三)

素行調書ニシテ作成者ノ意見ヲ記載スルニ止マルモノナルトキハ具體的事實ヲ證明スルノ效力ナキモノトス

○刑事訴訟法第九十條ニ諸般ノ徵憑ハ判事ノ判斷ニ任ストノ規定ハ證據タルヘキ性質ヲ缺如スル意見ヲモ證明ノ用ニ供シ得ヘシトノ法意ニ非

(反對)

意見及ヒ傳聞ヲ以テ證據ト爲スコトヲ禁シタル法律アルコトナシ而シテ之ヲ取捨スルハ承審官ノ職權ニ屬ス

刑事ニ在リテハ證人ノ意見ト雖モ斷罪ノ資料ニ供スルコトヲ得

刑事上ノ證據ハ證人ノ意見タルト否トニ關セズ罪證ニ供スルコトヲ得

○刑事訴訟法第九十條ニ所謂諸般ノ徵憑ニハ何等ノ制限ナシト雖モ空漠タル風聞ヲ記載セル文書ノ如キハ之ニ包含セサルモノト解スヘキモノトス

○素行調書ニシテ司法警察官又ハ其補助者タル巡查カ取調ノ結果自己ノ判斷ニ依リ得タル事實上ノ觀察ヲ記載シタルモノナルトキハ之ヲ斷罪ノ資料ニ供スルヲ得サルモノトス

○賭博ノ前科アル場合ニ於テ其前科及ヒ事案ノ犯情カ常習ノ事實ヲ認ムルニ足ルヤ否ヤハ裁判所ノ職權事項タル事實裁量ノ範圍ニ屬シ自由ナル心證ヲ以テ判斷スルコトヲ得ルモノトス

○證人ヲシテ宣誓セシムルニハ宣誓書ノ作成ヲ要スルモノナルヲ以テ記

三 六〇二

三 六五二

四三 一四二六

三 七七五

三 四六五

三 七七五

二九 六二
三三 六二
三四 一〇六

三 二七

三 八九九

三 九四二

三 九六〇

○實驗シタル事實ニ基ケル意見判斷ハ單純ナル想像的意見ニ非サルヲ以テ如上ノ意見ヲ包含セル傳聞ノ供述ハ之ヲ援テ罪證ニ供スルコトヲ得ルモノトス

○詐欺被告事件ニ付キ豫審判事カ便宜上作成シタル詐欺額調査表ハ其自體ニ於テ證據力ヲ具有スルモノニ非ス該文書ヲ被告人ニ示シ記載ノ内容ニ付キ其承認ヲ得ルニ因リ始メテ之ヲ證據ニ供シ得ヘキモノトス

○檢證調書中ノ一部ニ不合法ノ記載アルモ其全部ヲ無効ト爲スヘキモノニ非ス

○司法警察官ノ聽取書ノ原本ハ法規ノ命令ニ基キ之ヲ作成スルモノニ非サレハ其謄本若クハ抄本ノ作成ニ付テハ固ヨリ法規ノ命令スルモノナシト雖モ又之ヲ禁止スルモノナキヲ以テ司法警察官カ該抄本ヲ作成スルハ違法ニ非ス

○傷害事件ニ付キ巡查ノ作成シタル報告書ニ自己ノ見聞セル被害者ノ容態ト其判斷トヲ記述シアル場合ト雖モ裁判所ノ罪證トシテ引用シタル部分カ同巡查ノ見聞セル事實ニ止マルトキハ單純ナル意見判斷ヲ憑據トシテ事實ヲ認定シタル瑕瑾アリト云フヲ得ス

○司法警察官ニ於テ犯罪現場ノ實況ヲ見聞スルカ如キハ其捜査ノ職權上當然爲シ得ヘキ所ナレハ之カ見聞ノ結果ヲ記述シタル文書ハ裁判上證據資料タルノ價値アルモノトス

○巡查ノ聽取報告書ニシテ關係人ニ就キ聽取シタル事實ヲ其儘司法警察官ニ報告シタルモノナルトキハ之ヲ判斷ノ資料ニ供スルモ違法ニ非ス

○公判始末書ニ出廷シタル警部ノ官氏名ヲ掲ケタルノミニシテ檢事事務取扱者トシテ立會シタル記載ナキトキハ其公判ニ檢事カ立會シタルヤ否ヤ明確ナラサルヲ以テ違法ナリト謂ハサルヲ得ス從テ同公判始末書ハ無効ナリ

○被告人カ豫審判事ノ適法ナル訊問ニ對シテ爲シタル供述ハ訊問前ニ於ケル召喚手續ノ違法存スルカ爲メニ其效力ヲ失フヘキモノニ非ス

○公訴ニ於テ法律上其效力ヲ是認セラルル證據ハ附帶私訴ニ於テモ亦等シク其效力ヲ有スルモノトス

○公訴事件ニ在テハ民事原告人ト雖モ參考人トシテ之ヲ訊問シ其供述ヲ證據ト爲スコトハ固ヨリ法律ノ認許スル所ナルヲ以テ該公訴ニ附帶セル私訴ノ判決ニ於テモ亦之ヲ證據トシテ判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得ヘシ

(反對)

一九四九

二〇八九

二二五八

二三四八

二四〇八

二四〇八

一九六二

一七三二

一七八九

一八九四

一九四九

民事原告人ノ供述ハ之ヲ斷罪ノ證據ト爲スコトヲ得ス

○被告人ヨリ正式裁判ノ請求ヲ爲シタル場合ト雖モ檢事ハ公判ニ於テ必
ス被告事件ノ陳述ヲ爲スコトヲ要ス從テ第一審裁判所カ檢事ノ陳述ヲ
竣タス事實ノ審問ヲ開始シ證人ヲ訊問シタルトキハ其訊問供述ハ全部
無効ノモノタルヲ免レス

○風聞傳説ノ類ハ其根據薄弱ニシテ事實ノ有無極メテ不確實ナルカ故ニ
斷罪ノ資料ニ供スルヲ得スト雖モ之カ爲メニ傳聞ニ依リ知得シタル事
實ハ一切斷罪ノ資料ニ供スヘカラサルモノト云フヲ得ス

(同主旨)

證人ニシテ傳聞ノ事實ヲ陳述スルモ探テ斷罪ノ資料ニ供スルヲ妨グルモノニ非ス

○第一審判決ニ干與シタル判事カ第二審ノ受託判事トシテ爲シタル證人
訊問ハ刑事訴訟法第四十條第四號ニ違背スルモノトス故ニ該訊問並ニ
其訊問調書ハ無効ナリ

○然レトモ其無効ハ單ニ其證言ヲシテ證據力ヲ有セシメサルニ止マリ囑
託並ニ訊問ノ手續ナカリシ場合ト同一視スヘキニ非ス即チ其證據決定
ハ不道法作ラ實施セラレタルモノニシテ第二審裁判所ハ證據決定ヲ實
施セサルノ不道アリト云フヲ得サルモノトス

○證人カ前ノ供述ヲ取消シ更ニ別異ノ供述ヲ爲スモ裁判所ハ必スシモ後
ノ訂正シタル供述ヲ採用スヘキ義務アルモノニ非ス

○參考人ノ供述ハ證人ノ供述ニ比シ法律上ノ信憑力輕キモノナレハ參考
人ノ供述ヲ誤テ證人ノ供述ナリト認メ之ヲ斷罪ノ資料ニ供シタルハ違
法ナリトス

(同主旨)

事實參考人ノ調書ヲ以テ證人ノ調書トシテ斷罪ノ料ニ供シタル裁判ハ不法ナリ

事實參考人トシテ訊問セラレタル者ノ供述ヲ證人トシテノ供述ト爲シ之ヲ斷罪ノ資料ニ供ス
ルハ不法ナリ

事實參考人ノ供述ヲ證人ノ供述トシテ罪證ニ供シタル判決ハ不法ナリ

○司法警察官ノ作成スル聽取書ハ刑事訴訟法ノ規定ニ依テ作成スル書類
ニ非サレハ其聽取書ニ作成者ノ資格ノ表示ナキモ無効ニ非ス

○刑事訴訟法第九十條ハ證據ノ取捨ヲ事實承審官ノ判斷ニ一任セル旨ヲ
明確ニシタルニ止マリ證據ヲ同條列記ノ種類ニ制限シタルモノニ非ス

○受命判事ノ訊問調書ニ記載シタル證人ノ供述ヲ公廷ニ於ケル證言ト誤
認シ之ヲ罪證ニ供シタルハ違法ナリ

○檢事カ非現行犯タル傷害事件ニ付キ犯罪捜査ノ爲メニ其必要ヲ認メ醫
師ヲシテ屍ノ鑑定ヲ爲サシムルハ違法ニ非サルヲ以テ縱令該處分前ノ

二五 六 三九

三 二四七

四 七

三二 六 九〇

四 二四五

四 四五七

四 一一〇四

三〇 二八

四〇 一三四

四二 一四八九

四 一三五

四 一三五

四 一四二

外ナラサレハ證言證據ノ效力ナキモノトス

(反對)

○證人トシテ訊問シタル以上ハ其供述ニシテ鑑定ニ涉ル事項アリト雖モ仍ホ證人調書トシテ効力ナキ有ス

○公判ニ於テ訊問シタル證人又ハ參考人ノ供述ニ付キ被告人ノ意見ノ有無ヲ問ハサルモ其公判始末書ハ有效ナルノミナラス該供述モ無効ニ非ス止タ其訊問ヲ爲シタル裁判所ニ於テハ證據調手續ニ違法ノ點アルヲ以テ之ヲ罪證ニ供スルコトヲ得サルモノトス

○共同被告人中ノ一名ニ對シ辯護人呼出ノ手續ニ欠缺アリテ其者ニ對スル公判手續力無効ト爲ル場合ニ於テモ之カ爲メニ他ノ被告人ニ對スル物件ハ之ヲ他ノ被告人ノ罪證ニ供スルヲ妨ケサルモノトス

○被告人ニ對スル強姦事件ト相被告乙ニ對スル傷害事件トハ豫審ニ於テ併合審理ヲ爲シタルモノナルトキハ右乙ノ豫審調書ヲ以テ甲ノ斷罪ノ資料ニ供スル場合ニ於テモ特ニ乙ノ傷害事件ニ關スル豫審調書ナル旨ヲ明記スルノ要ナキモノトス

○同一法廷ニ於テ同時ニ共犯ニ非ナル多數ノ被告人同種其他ノ被告事件ニ付キ併合審理セラレタル場合ニ於テ各被告ニ關スル聽取書其他ノ證據書類ヲ朗讀シ各被告ニ對シテ意見ヲ徵シタル以上該證據ハ被告全體ノ共通證據トシテ援用スルコトヲ得ルモノトス

○裁判長カ一旦事實及ヒ證據調終了ノ旨ヲ告知スルモ辯論終結ニ至ル迄ハ更ニ證據調ヲ爲スコトヲ妨ケサレハ右證據調ヲ爲シタル證據ハ之ヲ罪證ニ供スルコトヲ得ルモノトス

○豫審訊問調書ハ裁判所書記カ豫審判事ノ訊問及ヒ之ニ對スル被訊問者ノ供述ヲ聽取ルニ從ヒ即時之ヲ錄取シ供述者ニ讀聞カセ署名捺印セシムヘキモノナレハ其性質上公判始末書ノ如ク訊問終了後日ヲ異ニシテ之ヲ整頓スルコトヲ許サス隨テ豫審判事ノ訊問及ヒ之ヲ錄取セル豫審調書ノ作成ニ付キ各日ヲ異ニスルトキハ同調書ハ無効ニシテ證據力ヲ有セサルモノトス

○被告甲ニ對スル瀆職事件ノ審理中被告乙ニ對スル詐欺事件ノ證據書類タル豫審調書ニ付キ證據調遂行セラレサリシトスルモ甲ノ詐欺竝ニ甲及ヒ乙ノ詐欺事件ノ審理中該豫審調書ニ付キ適法ノ證據調ヲ爲シ甲ノ意見ヲ徵シタル事跡存スル以上ハ其證據ハ甲ノ詐欺事件ノミナラス他ノ事件ニモ共通シ之ヲ援用スルコトヲ得ルモノトス

六 一四

三 六 一

六 四七七

六 七二〇

六 一一〇九

六 一二六四

六 一三五四

六 一四七七

六 一六二二

○辯論終結後言渡期日ニ被告辯護人出頭セサルニ裁判所ハ辯論再開及ヒ
 證人訊問ノ決定ヲ言渡シ次回期日ヲ指定シ乍ラ辯護人ニハ期日呼出狀
 ヲ送達セシテ同辯護人ノ出頭セサル儘公判ヲ開廷シ證人ノ訊問ヲ爲
 シタルトキハ其供述ハ被告人ノ辯護人ニ對スル呼出手續ヲ爲ササル違
 法アル公廷ニ於テ爲シタルモノナレハ法律上無効ナリトス

(同(三))

裁判所ハ辯護人ヲ呼出サスシテ公判ヲ開キタルトキハ同公判ニ於ケル證人ノ訊問ハ違法ノ證
 據調ニ屬スルヲ以テ其供述ハ證據ノ效力ヲ有セス

○豫審判事カ鑑定ヲ命シタル後ニ於テ被告人ノ共犯トシテ新ニ起訴セラ
 レタル者アリトスルモ其共犯者ト鑑定人トノ間ニ現實ニ刑事訴訟法第
 百三十六條第百二十三條所定ノ關係存在セサル限ハ鑑定人タル資格ニ
 付キ何等變動ナクハ豫審判事ハ最早曩ニ宣誓ヲ經テ鑑定ヲ命シタル
 處分ヲ更新スル要ナク從テ其鑑定命令ニ基キ作成セラレタル鑑定書ハ
 有效ナリトス

○告訴狀ハ被害者カ其見聞ニ依リ知り得タル犯罪事實ヲ記述スルモノニ
 シテ當該官吏カ其職務上單ニ意見ヲ開陳スルニ過キササル起訴狀若クハ
 意見書ト同一視スヘキモノニ非ス
 ○巡查ハ司法警察官ノ補助機關ナルカ故ニ司法警察官ノ命ニ依リ犯罪ノ

捜査ヲ爲スコトヲ得ルモノトス從テ事實ヲ記載シタル巡查ノ捜査報告
 書ヲ罪證ニ供スルハ毫モ不法ニ非ス

○刑事訴訟法ハ證據ノ種類ヲ限定セスト雖モ證據ノ實質カ一定ノ犯罪事
 實ヲ認定スルニ適當ナラサルモノハ之ヲ判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得
 サルモノトス

(同(三))

證據ノ實質カ一定ノ犯罪事實ヲ認定スルニ適當ナラサルトキハ證據能力ヲ缺クモノナルヲ以
 テ之ヲ採用スヘキモノニ非ス

○前科ハ其後ニ生シタル犯罪行為ト何等關涉スル所ナク全然過去ノ事實
 ニ屬スルヲ以テ被告カ前科ヲ有スルノ事實證明セラレタル場合ニ於テ
 モ其事實ハ公訴ノ目的タル犯罪行為ノ成立ヲ斷定スルニ付テハ適當ナ
 ラサルモノトス

○事實裁判所カ前科ニ關スル證據ノミニ依リタル場合ハ勿論之ヲ他ノ證
 據ト綜合シタルトキト雖モ苟モ該證據ヲ援用シ犯罪ノ成立ヲ認定シタ
 ル以上ハ其判決ハ採證ニ違法アルモノトシテ破毀ヲ免レサルモノトス

(同(三))

裁判所カ被告ニ前科アル事實ヲ採テ犯罪事實ヲ認ムル資料ニ供シタルハ不法ナリ

○何等事實上ノ根據ナキ陳述者ノ臆斷ニ過キササル供述ハ之ヲ素行圖書ニ

四三	七	七	三	七	七	四	六	六	六
三九二	六四七	六四七	四四八	六四七	四〇五	九二	五七	八八五	一七九

記載スルモ證據ノ效力ナケレハ之ヲ供述シタルカ爲メ證據タル效力ヲ生スヘキモノニ非ス

(同左旨)

何等事實上ノ根據ヲ有セサル一片ノ想像ニ過キサル供述ハ證據力ヲ有セサルモノトス

○檢事カ犯罪捜査ノ爲メ鑑定ヲ委囑スルハ法ノ禁セサル所ニシテ其委囑ヲ受ケタル者カ任意ニ作成シタル鑑定書ハ心證判斷ノ資料ニ供スルコトヲ得ルモノトス

○證據金品目錄ナルモノハ當該裁判所書記ノ作成ニ係リ事件ニ關スル證據物件ノ種類番號其他差出人押收ノ場所等ヲ記載シタル一ノ文書ニシテ法律上當然證據力ヲ有スルモノトス

○證人及ヒ被告人ヲシテ對質ヲ爲サシメタル場合ニ於テ其各供述ハ各自獨立ノ資格ヲ以テ爲シタルモノナレハ其證人供述ヲ錄取シタル部分カ證人訊問手續ニ違背ノ廉アリテ無効ニ歸シタルトキト雖モ之カ爲メ被告人ノ供述ヲ錄取シタル部分ヲ併セテ無効ト爲スヘキモノニ非ス

○證人ニ對シ偶本來鑑定ヲ命スヘキ事項ニ關シ訊問ヲ爲シタルトキハ之ニ對スル供述部分ハ鑑定人トシテノ宣誓ヲ缺クカ爲メ無効ニ歸スト雖モ之カ爲メ證人トシテ宣誓ノ上爲シタル他ノ供述部分ヲモ無効タラシム

ムヘキモノニ非ス (參照)

司法警察官ハ現行犯ニ就テノミ被告人及ヒ關係人ヲ訊問シ調書ヲ作ルノ職權アルモ非現行犯ノ場合ニ於テハ其名稱ノ如何ニ拘ハラス之ヲ作ルノ權ナシ乃チ非現行犯ノ場合ニ於テ司法警察官ノ作りタル調書ヲ斷罪ノ證據ト爲シタルハ違法ノ裁判ナリ

後見人ニモ非スシテ單ニ支配人タルニ過キサル者ハ法律上ノ代理人ト云フヘカラス法律上ノ代理人ニ非サル者ノ委任ヲ受ケテ提起シタル告訴狀ハ其效ナキモノナルニ之ヲ探テ斷罪ノ證據ト爲セシ判決ハ不法ナリ

警林主事ハ司法警察官ニ非サルヲ以テ該主事ニ宛テタル自首書ハ受クヘキモノニ非ス從テ其書面ハ自首狀ト稱スヘカラスト論告スルモ自首書其物ヲ證據ニ採用シタルモノニシテ其自首ハ有效ナリヤ否ヲ判決シタルニ非サルヲ以テ該主事方司法警察官タルト否ニ論ナク該書面ヲ自首狀ト稱シ之ヲ證據ニ供シタルモ不法ニ非ス

證人宣誓書ヲ閱スルニ單ニ謀殺事件トノミアリテ被告誰某ニ對スル事件ナルヤノ明記ナク其調書中證人タルノ資格ヲ取調フルニ於テモ被告誰某トノ關係ヲ取調ヘタルヤ被告氏名ノ記載ナシ該宣誓書ハ果シテ本件被告事件ニ對スル宣誓書ナルヤ否ヤヲ知ルニ由ナキヲ以テ其豫審調書ハ本件ニ付キ證言ノ效力ナキモノナルニ原院力之ヲ探テ斷罪ノ資料ニ供シタルハ不法ノ判決ニシテ破毀ノ原由アルモノトス

被告事件ノ明證ナキ證人調書及ヒ宣誓書ハ如何ナル事件ノ證人調書ナルヤヲ確ムルコト能ハサルヲ以テ之ヲ以テ罪證ニ供シタル裁判ハ不法ナリ

八五二

二九八

八九三

九〇九

二四一

七 一三五

二六 二六

二七 二四〇

二七 三五六

二六 六三

二九 一

以テ其ノ同ノ訊問ヲ無効トスルヲ得ス
豫審調書カ契印ヲ缺如セル爲メ全部無効ニ歸シタル場合ニ於テハ證人トシテ呼出サレタル者
ニ對シ刑事訴訟法第二百一十一條所定ノ訊問並ニ問查ヲ適式ニ遂行セシヤ否ヲ知ルニ由ナケ
レハ其證人ノ豫審ニ於ケル訊問供述ハ違法ニシテ何等ノ證效ヲ有セサルモノトス(第二百十
一條六年一七二五頁參照)

第九十一條

第九十一條

○現實ノ事實ニ對シ鑑定ヲ爲サシムルト假設ノ問題ニ依リ鑑定ヲ命スル
トハ共ニ豫審判事ノ有スル證據蒐集ノ職權ニ屬ス
○豫審判事證據ヲ蒐集スルニ當リ始末書若クハ上申書ヲ徵スルハ法律ノ
禁スル所ニ非ス

○檢事ハ事實發見ノ爲メ必要ナリトスル場合ニハ豫審判事ニ對シテ證據
徵憑ノ集取ヲ請求スル職權ヲ有ス從テ豫審判事カ家宅搜索ヲ行フニ當
リテハ檢事ハ之ニ立會スル權能アルモノトス

○豫審判事ハ終結決定ニ付キ檢事ノ意見ヲ求メタル後ト雖モ必要ナル證
據調ヲ爲スコトヲ得

○豫審判事カ證據蒐集ノ一方法トシテ官廳ニ向ヒ問合書ヲ發シ其回答書
ヲ徵スルハ不法ニ非ス
○豫審判事カ其集取シタル證據ニ基キテ自ラ判斷セル事項ヲ摘録シタル

第九十二條

第九十二條

○表ノ如キハ刑事訴訟法ノ規定ニ從ヒテ作成スル書面ニ非サルハ勿論同
法第九十一條ニ依リ集取スヘキ證據徵憑ニ屬セザレハ其記載ノ内容ハ
○公訴事實ニ對シ證明文書タル效力ヲ有セス從テ其表ヲ判斷ノ資料ニ供
スル場合ニ於テモ之ヲ開示シテ辯解ヲ爲サシムレハ足り朗讀ノ手續ヲ
經ルノ要ナシ

○司法警察官ノ作成スル聽取書ハ法律ノ所謂調書ト同視スヘキモノニ非
ス從テ其文書ノ作成ニ立會人ヲ要スルコトナシ

○刑事訴訟法第九十二條ノ法則ハ豫審判事自ラ被告人等ヲ訊問シタル場
合ニ於ケル調書ニ適用スヘキモノニシテ其他ノ文書ハ固ヨリ同條ノ法
式ニ據ルヘキモノニ非ス

○司法警察官ニシテ現行犯事件ニ付キ被告人ヲ訊問スルトキハ刑事訴訟
法第九十二條ノ規定ニ從ヒ訊問調書ヲ作成スヘキモノトス從テ其調書
ハ同條第三項ニ從ヒ該官吏自ラ之ヲ作成セサルヘカラス

○明治十六年第八號布告ニハ「豫審判事裁判所ニ於テ豫審ヲ爲ス時ハ當
分ノ内書記ノ立會ナクシテ被告人證人ヲ訊問スルコトヲ得」トアルヲ
以テ其當時ニ於ケル豫審調書ニハ書記ノ署名捺印ナキモ不法ニ非ス

二九	三〇	三一	三二	三三	三四	三五	三六	三七	三八	三九	四〇	四一	四二
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四
一五	一六	一七	一八	一九	二〇	二一	二二	二三	二四	二五	二六	二七	二八

○複寫ハ文字ヲ紙上ニ表出スルノ一方法ニシテ文字ヲ手記スルモノナレハ筆記ト全ク其作用ヲ同フス從テ此方法ニ依リテ作成シタル書類ハ筆記ヲ爲シタル書類ト其效力同一ナリトス

○檢證調書ニ附屬スル見取圖ハ檢證調書ニ記載セル土地ノ形狀ヲ明瞭ナラシムル爲メ之ヲ圖面ニ顯ハシタルモノニ過キス從テ調書ニ連綴シテ其間ニ契印アル以上ハ檢證調書ノ一部ニシテ別箇獨立ノ書面ニ非ス

○豫審訊問ニ立會ヒタル裁判所書記ハ即時ニ訊問及ヒ供述ヲ錄取シ以テ調書ヲ作成セサルヘカラス故ニ豫審判事ノ訊問調書ニシテ訊問ト同時ニ作成セラレサルモノハ無効ナリ

○豫審調書ノ作成日附ト訊問日附ト相先後シ何レノ日附カ誤記ニ屬スルヤ記録上之ヲ確知シ難キ場合ニ於テハ其調書ハ無効ナリトス

○地方裁判所支部ニ於テ豫審ノ審理ニ立會スル書記ハ區裁判所書記ナルヲ以テ其作成セル豫審調書ニ區裁判所書記ノ職印ヲ押捺スルモ違法ニ非ス

○刑事訴訟法上豫審調書ニ所屬裁判所ノ記載ヲ要スル旨ノ規定ナシ從テ其記載ナキモ無効ニ非ス
○豫審調書中通常筆記スヘキ事項ト雖モ便宜之ヲ印刷ニ付シ筆記ニ代用スルハ違法ニ非ス

○豫審判事代理カ被告ヲ訊問シタルトキハ調書ニ署名捺印スヘキモノナルモ其署名捺印ナルコトハ該調書全體ニ徴シテ之ヲ認メ得レハ足り必スシモ其署名ニ冠スルニ豫審判事代理ノ文字ヲ以テスルコトヲ要セス

○司法警察官ニシテ現行犯事件ニ付キ臨檢ヲ爲ス場合ニ於テハ刑事訴訟法第九十二條ニ從ヒ二名ノ人ヲ立會ハシメ警察官自ラ調書ヲ作成シ其二名ノ立會人ト共ニ署名捺印セサルヘカラス故ニ立會人一名ノ署名捺印アルニ過キサルトキハ其臨檢調書ハ同條第四項ノ規定ニ依リ何等ノ效力ヲ有セサルモノトス

○司法警察官カ現行犯事件ニ付キ檢證處分ヲ爲ス場合ニ於ケル立會人ノ資格ニ付テハ何等法律上ノ制限ナキヲ以テ司法警察官カ其同行セル巡查ヲ立會ハシメ右ノ處分ヲ爲シタレハトテ其處分ヲ無効ナリト爲スヲ得ス

○刑事訴訟法中檢證調書ヲ立會人ニ讀聞セタルコトヲ該調書中ニ記載スヘシトノ規定アルコトナシ從テ其記載ナケレハトテ直ニ之ヲ讀聞セザリシモノト論スルヲ得サルノミナラス該調書ニ立會人ノ署名捺印アル以上ハ其讀聞ヲ受ケ記載ノ事項ヲ了知シタルモノト認ムヘキモノトス

四三

一四八五

四三

二三八

三七

八七一

三

六〇二

三六

七〇六

三五

二

三六

四三

四二

六

四

一六三

四三

八六五

四三

九三五